るのである。甚しきに至つては彼はデイスローヤルティーの規定を犯した者であると稱して、群衆が寄つて群つて縊り殺したり、亂打して遂に死に至らしめた例が若干ある。而も之れが市俄古などの如き大都會に於て、白晝堂々と行はるゝと云ふに至つては實に驚くべき野蠻である。我輩が英米に於て常に其口に稱ふる正義なるものは、決して十分に實際に行はれて居るものでないと極力唱ふるは、斯くの如き事實を頻繁に耳にするからであつて、是を疑ふ者があるならば、最近三四ケ月の亞米利加の新聞を取寄せて見れば、幾らも其例は擧つて居るのである。斯くの如きは斷じて我邦に於ては許すべきでない。保守主義の人がリンチを行ふもいけないが、黎明運動に從事せんと欲する者も、亦その反對思想家に對して、議論以外の手段に愬へて何事かをすると云ふことは、斷じて不可なりとするものである。是れ卽ち吾々言論を以て生命として居る者が蹶起しなければならぬと信ずるに至つた所以である。

## 十六

吾々は元來一讀書生に過ぎないものであるが故に、實際運動に從事するが如き事は決して好むところでない。故に吾々が運動と稱するも、言論以外の運動をするものでない。筆に口に與へられたゞけの力を以て頑迷思想と戰はんと欲する、その爲めに吾々が自ら起つたのである。吾々が起たざれば或は官憲の壓迫とか、或は法律の制裁とか云ふことを以て、是等を取締り又壓迫することが起つて來るかも知れぬ。吾々は吾々の敵とする頑迷思想に對しても、斯くの如きことは斷じて斥けんと欲するものである。故に斯くの如き不祥事の起らざらん爲めに、又リンチ的行動の起る事を防ぐために、公明正大の立場に立つて言論戰を開始せんと期するものである。資本的侵略主義を執る國に於ては、資本閥を擁護する爲めには言論を壓迫する必要が常にあつた、卽ち前に擧げた所のビスマルクの社會黨鎭壓の如きはその最も顯著なる例であるが、是程極端なる手段を執らぬとしても、何時もこの種の手段を絕えず執つてゐたのである。吾々は之に倣はざらんことに努めなければならぬ。

## 十七

何故に吾々は保守思想の打破を期するかと云ふと、是は最も國を危うからしむるものであると信ずるからである。言論に打勝ち得るものは言論のみ、思想に打克ち得るものは思想のみ、其他の手段では一時の成功を收めることは出來ても、決して結局の勝利を期すべきでない。ビスマルクの社會黨鎭壓の成績で知るべきである。否、獨逸帝國過去四十年の歷史の全部を擧げて其の有力なる證據である。資本侵略思想も社會民主思想も之を斥けんとするならば、我邦の獨特の國本に立脚して、其の使命を發揮せしむると云ふ思想の上から、進んで進步的思想を鼓吹することが第一の急務である。然しながら、如何に吾々が言論戰に努力しても、日本にして若し資本的侵略國となるならば、社會民主思想の起つて來ることは之を防ぐことは出來ない。否、眞に危險なる思想が着々として起つて來ることをどうしても防ぐことは出來ない、卽ち吾々の言論戰に從事することは、半ば以上その意味を失つて了ふと思ふ。此點に於て英吉利や亞米利加は實に氣の毒な立場に立つて居ると思ふ。英吉利と亞米利加とは世界中自分の赴くところ敵なく、世界を思ふが儘に資本的に征服し、經濟的に橫行することが出來ると、斯う思へば幸福な立場に立つて居るやうであるけれども、是は國內に於てその反對毒たる社會民主々義、否、眞に危險なる思想（I.W.Wの如きを云ふ）が起つて來て、矢張り時期の長短あるのみの違ひで、最後には獨逸の陷つた運命と同じやうな運命に陷ることは免かれないかも知れない。卽ち一時の幸福は却つて將來の大不幸の源となるだらうと考へるのである。然し英吉利、亞米利加に於てその資本的侵略主義の非なることを知る者のないと云ふことは決してない。英吉利でも亞米利加でも眞に正義人道を念とする人は尠からずあり、又經濟上健全なる思想を有つて居る人も多數にある。彼等にして國論を左右し得るに至るならば、英吉利が十九世紀に於て盛んに執つて來た、資本的侵略主義を捨つることになるかも知れない、又亞米利加は是より進んだ資本的侵略國なることを止め、殊に有色人種に對して極端なる差別的待遇をすると云ふやうなことがなくなるかも知れない。否、吾々は實にそれを希望するものである（亞米利加の日本人排斥は人種的憎しみも一大原因に相違な

いが、具體的に云へば經濟的原因が甚だ大である)。乍去亞米利加が愈々益々資本的侵略國となるとすれば、所謂カラー・ディスクリミネーション(有色人種排斥)は益々强烈に行はれるものと思ふ。

## 十八

然し如何にカラー・ディスクリミネーション廢止を要求しても、亞米利加が資本的侵略國たるの國是を立てる以上は、この要求は事實に於て容れられないと我輩は信ずる。是は英吉利になくして亞米利加にのみある問題である。即ち亞米利加特殊の經濟事情から起つて來る處の一つの現象である。資本的侵略主義と云ふものは、其時と場合とに於て種々なる問題を生じて來る、將來また他の新らしい問題が生じて來るに相違ない。而して是等問題の中には、日本が不當なる壓迫を被むる結果を惹起すことが必ずあることゝ思ふ。所謂暴に酬ゆるに暴を以し、日本も亦資本的侵略國となつて之に對抗して行くとなると、斯くの如き紛爭は愈々繁くなる。乃ち先づ英吉利が其資本的侵略主義を捨てることが最も希はしい事である。然し彼等をして之を捨てしむる場合に、日本が資本的侵略國になつて了つては何にもならない。資本的侵略主義を取れば社會民主々義の隆盛となるは免れない。處が資本的侵略國ならざる日本に於ては、社會民主々義は決して何等危險性を帶んで居ないものである。學者の研究題目として或は一部有識者の思索問題として、彌々熱心に研究せらるゝであらうし、又之を遵奉する人もあらうから其數は殖えるであらう。然し之は日本に取つて何等の危險を生じないものと我輩は信じてゐる。但し繰返して云ふ、それは日本が資本的侵略國とならないと云ふ前提の下に於てゞある。然らずして侵略國となれば、社會民主々義が或種の危險を意味すること是れまた疑ひを容れない。何故危險を意味するかと云ふと、社會民主々義の運動はその資本的侵略主義を倒す爲めの反對毒として起り、其間に抗爭(即ち階級戰爭)が起る。その抗爭が取りも直さず國に取つて危險を意味するのである。我輩は階級戰爭を極力排斥するものである。

## 十九

獨逸の如き資本侵略主義を益々充實して、其の文明が著るしく資本侵略的となり、その學問も哲學も、否、その文學までも稍々その色彩を帶んで來て居つた。是が一朝覆へされると云ふことは、卽ち危險を意味するものである。此の意味に於て獨逸の學問は今破產期に際して居ると云ふ可きである。殊に經濟學の如きは社會民主々義の最も當密の敵であつて、獨逸の國立大學に於ては教授と云ふ教授、講義と云ふ講義は少くとも經濟學の範圍に於ては社會民主々義の批評、否、その打破に努めて居つたのである。然るに一朝にして獨逸が社會民主國になつた今日に於ては、その大學教授等は去就に迷ふであらう。彼等は進んで從來主張した學說を全然破棄すれば、それは社會民主々義に合することも出來るであらうけれども、是は學者として容易に出來ないことである。然らば退いて何處までも從來の學說を守つて社會民主々義と戰はんとするか、今度は彼等の方が危險思想家と云はれるであらう。現存社會の敵と看做さるゝであらう。社會民主々義國に於ける大學教授が、社會民主々義に猛烈に熱心に反對する時は、社會民主國の立場から云へば一の危險思想である。卽ち順逆其所を異にすることになる。此意味に於て獨逸の經濟學は今日破產期に際して居るわけで、是は誠に面白い見物であると思ふ。我邦に於ても獨逸の學問許りで頭を固めて居た人々は、獨逸に革命が成就する可能性を今でも疑つて居る。過去數十年かゝつて出來上つた獨逸帝國の統一は、革命などに依つて破れるものでないなどと唱へて、現に自己の頭が破產して居るのも知らないで居る。他から見ると洵に氣の毒千萬なことである。

## 二十

我邦が資本的侵略國たらざる限りは、社會民主思想が多數の人に依つて遵奉せらるゝやうになるとしても、何等の危險思想を帶んで居らない。遠き將來はいざ知らず、近き將來に於て我邦は資本的侵略國たらざる限りはと云ふ前提の下に於て、社會民主々義は決して有力なる思想となることはないと信ずる、唯だ一部の思想家の間にのみ限らるゝで

あらうと思ふ。而して我々は社會民主々義の誤つて居る點を飽く迄言論を以て指摘すれば十分である。縱んば社會民主々義が日本に於て危險性を帶ぶるやうになつたとしても(それは到底あり得ない事と信ずる)、その危險に打克つものは唯だ言論思想あるのみ、殊に社會民主々義なるものは一つの學說で、學理から出立して居り、その根柢は學問研究の上にあつて、決して單なる感情論、單なる空想ではないのである。單なる空想であれば或は權力の壓迫で雲散霧消して了ふかも知れない。反之學問上に立脚して居る以上は、左樣なる恫喝では決して消滅するものでない、學問に對抗するには學理の外はないのである。社會民主々義思想が危險性を帶んで居るとしても、之は自由なる學問研究に基く言論に依つてのみ打克ち得べきのみ、其外のものが之に對抗しても何等の力もない。然るに世界の大勢に逆行する頑迷思想を以て之に對抗すれば必ず敗けるに相違ない。何等學理に根據を有しないで、唯だ感情の上から唯だ空想に基く保守的頑迷思想を、幾ら皷吹して見たところで、社會民主思想若しくは之と同樣の思想に打克つことは出來ない、却つて見苦しき敗北を招き必ず返り討になるに決まつて居る。

## 二十一

話は少し違ふけれども、例へば國體擁護などと云ふことを唱ふる人があつて、進步思想を抱いて居る人に對して戰ひを挑んで演說などをしても、其結果は却つて進步思想の廣告をするに終つて了ふた如きものである。なまじ生仲手を付けて居らねば、頑迷思想は頑迷思想として存在して居られるかも知れないが、之を以て進步思想に對抗するとすれば打敗かされるに決まつて居る。是は無論社會民主思想とは場合が違ふけれども、思想は思想を以てのみ對抗すべく、言論は言論と對抗す可く、何等合理的根據なき議論は何にもならない一例である。是れ吾々が日本の國本の合理的闡明を第一に標榜する所以である。言論思想の力强いと云ふのは夫は合理の上の力であつて、合理的ならざる思想言論は何等の力もないものである。危險思想と云ふことは頻りに言ふけれども、眞に危險思想と見做すべきものは我邦に於ては一つもないと吾々は信じて居る。我國本は左樣な脆弱なものではない。强いて危險思想を擧げるとならば、卽ち前に言つた資本的侵略

主義を皷吹する思想、即ちこれこそ危險思想である。反對に社會民主々義は資本的侵略主義が行はれて居らない限りに於ては、毫も之を危險思想と認む可きものではない。尤も資本的侵略主義には若干の學理的根據はある。所謂保護政策論と稱するものゝ中に、其の若干が包まれて居る。其事は今は省いて置く。

## 二十二

吾々は此種の危險思想に對して、何處までも學理の上に打立てた所の合理的言論を以て、その危險に對抗すべきである、是が唯一の途である。然るに國體擁護とか或は思想の統一とか云つて、名前は甚だ尤もらしく聞えるけれども、其實に於て何等理論的基礎を有して居らない主張が行はるゝとしたならば、之こそ却つて危險性を帶びて居るものと言はなければならぬ。此はそれ自らに於て危險を包藏して居るのみならず、他の危險思想を挑發する所以である。他の危險思想と云ふのは、例へば無政府主義の如きを言ふのである。



無政府主義には多少學理的思想の入つて居ることは否定し得ないけれども、之を社會民主々義に比ぶれば雲泥の相違がある。夫を全然同一とし、此兩者を同種の物と認めるは大なる誤りである。頑迷思想が跋扈すれば、却つて此種の無政府思想が起らないとも限らない。但し我邦に就ては我輩の確信するところに依れば、如何なる場合に遭遇しても無政府主義などが力となることは斷じてないものと思ふ。獨逸に於てさへも所謂無政府主義なる物は何等の勢力となつて居ない、又此は此度の革命に關係をもつて居ない。否、無政府主義の本家本元なる露國も今日無政府主義者の政府ではなく、今は無政府主義は何處に存在して居るかと云ふ程の有樣である。我邦に於て無政府主義が起るなどとは全然杞憂に屬する。有りもしない危險を杞憂して取締だの統一だのと云ふやうなことを騷ぐのは無用である、否却つて有害である。思想統一と云ふことは名前は眞に美しいけれども、國民の思想は決して統一すべき筈のものでない、これこそ獨逸の軍國主義の仲間入をするものである。ブートルーの『戰爭と哲學』の中にもあるやうに、又ミューアヘッドの『獨逸哲學と戰爭』の中に論じてあるやうに、獨逸に於ては資本的侵略主義を輩

F. VI, 61.

固にする必要上、帝國中心思想所謂權力崇拜主義なる物を以て國民の思想を統一しようと努め、凡てのものをホーヘンツオルレルン家を中心とするプロイセン中心の帝國に統一しようと考へたのである。而してそれは今日の如き悲慘な運命に陷つたのである。或る野心家があつて國民を無理に人爲的に强制して、一時思想を統一せしめると云ふことは驕て國を亡ぼすことゝなる。獨逸の陷つた運命を顧みるものは、再び左樣なことは考へざるべき筈である。

## 二十三

國民には種々の思想があつて思想は思想と戰ひ、種々の主義があつて主義と主義とが互に相練磨して行くに依つて國が發達し、文明が向上するのである。それを統一するなどと云ふことは洵に愚な話である。而して事實に於て思想統一などと云ふことは決して出來る筈のものでない。凡そ國民の思想を自由にして、國民は其分に應じて或は學問の上に於て、或は產業の上に於て、或は技術の上に於て、各々の個性を發揮して行く事のみに依つて文明は進歩し、國運が伸びて行くものである。之を統一することは出來るとしても、進歩はそれが爲めに止まつて了ふ。手短かに例を擧げて見れば『法典出來て法學亡ぶ』と云ふことがあるが、廣汎なる法典が出來て了ふと學者の多數は唯だ法典の解釋にのみ汲々として、自由なる思索を怠るやうになる。法典と法學との關係でさへさうである。然るに國民の一切の思想を一つものに統一して了へば、思想の進歩はなくなつて了ふ、國民の獨立心を滅却して了ふものである、之こそ眞に危險と云はなければならぬ。且又その統一せんとする所の思想なるものは果して健全であるか否か。假し是が健全であつても統一すると云ふことは不可である。反對に若しも統一せんとする思想にして、世界の大勢に逆行する所の頑迷思想であつたならば、危險は更に大なりと言はなければならぬ。健全の思想であるとした所で、其健全と云ふことも一定の前提の下に於ける思想の上に於ての健全である。然るに人間の進歩と云ふものは不斷的のものであつて、決して停滯することのないものである。人類は思想の上に於て生活の上に於て、益々進んで止まないものである。今一番進歩した思想であるとしても、之を統一して了へば之

より進んだ健全なる思想が起らなくなつて了ふ。此意味に於て世界の大勢を無視し、或は之に逆行せんとする危險のある思想は、その絶滅を圖らなければならない。

## 二十四

其絶滅と云ふことは決して權力を以てなすべきではない。唯だ思想の開發、自由なる言論を以てすべきのみである。卽ち是を黎明運動と名付けたのである。黎明と云ふことは或は言葉が當を得て居らないかも知れない。今迄の日本の思想は暗黑であり、今迄の日本は暗黑時代であつたと云ふ樣に誤解せらるゝかも知れないが、吾々は決してさう云ふ意味で黎明と云ふのではない。日本には日本に於ける二千餘年の歷史あり文明がある。之を外國の文明に比べても長短互に相競ふものであつて、德川三百年の鎖國の間に世界の進運に遲れたには相違ないが、日本文明の本體は決して世界の文明に劣つて居るものではない。日本に於ては尠くとも西洋に於て言ふ意味の暗黑時代はなかつた。吾々が黎明と名付くるは、より明るくしようと云ふ意味に過ぎない。否進んで日本を世界の文明の嚮導者の地位に迄も進むると云ふことを、黎明と云ふ言葉に依つて現はさうとして居るのである。而して何より先に先づ國民を黎明しなければならぬと考へて居るのである。黎明運動の當面の敵は、世界の大勢に逆行せんとする頑迷思想之である。之に對抗するには吾々は學理的研究の立場に立つて、日本の國本を闡明し、日本獨特の長所が何處に存在するかを、國民に普く知らしむるが第一と思ふのである。これが黎明の意味である。猶言ひ洩した點は他日の細論に期して、大略卑見の存する所を開陳するに止めて置く。

追記。『黎明』なる思想の哲學的意義、殊に其れと『啓蒙』との異同に就ては、畏友桑木文學博士は黎明集第四輯に於て、該博周到な解說を下されて居る。本書讀者の往見を切望する次第である。

＝大正七年十二月八日談話八年一月『中外』掲載＝

# 八　國本は動かず

## 一

私が今日お話し申さうと思ふことは、國本は動かずと云ふことであります、近來デモクラシーと云ふことを言ふ人がある、又色々西洋の新しい思想を唱ふる人があるに付けて、之に反對して、斯樣なる思想が起つて來ると云ふことは、日本の國體を危くする憂のあるものである、或は民本主義、民主々義と云ひデモクラシーと云ふ、兎に角左樣なる所の思想と云ふものは、直ちに危險思想其者でないかも知れぬが、一種の危險を包藏して居る所の思想である。之に對して日本の國體を擁護しなければならぬと、斯う云ふ事を考へる人が彼方此方に在るやうであります。其爲に例へば國體擁護と云ふやうなことを盛んに唱へまして、現に我が黎明會の發起者である所の吉野博士に對して立合演說さへ申込んで、諸君も其ことは御承知の通りの結果になつて居るのであります。人々の考へは無論自由でありますから西洋の思想が這入つて來るが爲に、日本の國體が動搖すると考へると云ふことは無論人の自由であります。左樣に考へたならば、どうかして動搖の無い國體を擁護したいと云ふことを考へるのも是亦人の自由でありまして、吾々は之に反對するのではありませぬ。各々違つた思想を有つて居る者は、其思想を公言して人と共に進むことを勵まなければならぬのであります。併ながら其國體が動搖する、國に多少なり危險を來すと言ふ人々の理由とする所を聽くと、全く何等の理由を成して居らぬと少くとも吾々は考へるのであります、若し西洋に起つて來る所の思想が、其度毎に日本の國體を危くするものでありますするならば、假令今一時國體を擁護することが出來るとしましても、十年十五年二十年の後に又何か新しい思想が西洋に起らないとも限らない、否西洋では ない日本に於て新しい思想が起らないとも限らない。進歩して居る限りは新しい思想は、必ず起つて來るものと覺悟しなければならないのであります。新しい思想の起る限

り、進歩の方向に向ふたんびに、其度毎に擁護しなければならぬやうな國體であるとしたならば、吾々は其國體なるものに對して根本的に甚だ不安を感じなければならぬのであります。迫害者に對して危險は見へなくとも、迫害せらるゝ虞れのある國體に就いて深い憂を抱かなければならぬのです。健全なる身體を有つて居た者ならば、多少不健康な土地に住つて居りましても、必ずしも病氣に罹ると云ふことはない。體の弱い者ならば僅か空氣が惡い所、僅か水が惡い所、僅か光線の通りの惡い所に住めば直ぐ病氣になる、惡るい空氣惡るい水を怖るゝよりも、吾々は身體の虛弱なることを遙かに怖れ憂へなければならないのであります。私共は日本の國體と云ふものは左樣な薄弱なものだとは決して思つて居らないが、所謂國體擁護論者が現れて來た爲に、左樣か、吾々の澤山の同胞の中には、我が日本の國體を左樣に弱いものと思つて居つた人があつたのかと云ふことを初めて知つて、私共は實に喫驚したのです。恐らく日本人の大多數は私と感じを同じくするのではないかと思ふのであります、何となれば、此若干の人々が國體擁護、國體の動搖と云ふやうなことを言出さなければ、日本國民全體は國體に對して何等の不安心をも今日まで有つて居らぬのであります。米の高い爲に不安心を有つ人は澤山ある、一般物價の騰貴の爲に生活を脅かされて居る人は澤山あります。併ながら其不安其動搖は國體と何等の關係は無いのであります、日本の國體がどうであつたつて騰がる米は騰つたので、日本の國體を變へた所が米價は下りはしないのであります。物は廉くはならないのであります。是は誰人も皆知つて居る所であります。此米の高い物價の高いに對して、吾々が經濟上の不安を感ずる所から來る所の動搖が國體には何も關係の無い如くに、デモクラシーの思想、或は民本主義と云ふか民主々義と云ふか、さう云ふものが起つて來やうが、或はもつと進んで社會主義と云ふことが盛んになつて來やうが、それが爲に國體と何等の關係を有つものではないと、吾々は深く信じて居るのであります。

## 二

デモクラシーと云ふ事は諸君も必ず御承知である通り、元と希臘のアリストテレースが國體を三つに分けて、モナルキー、アリストクラシー、ポリテーとし、其變體をチラニー、オ

リガーキー、デモクラシーとしてから、一般に用ゐられるやうになつた言葉であります。以前も左樣な區別が無いことはありませぬけれども、アリストテレースに至つて明白になつた現在のあらゆる國は――此あらゆると云ふのは當時の希臘で、此希臘に在る所の小さな國家は、此三つの種類のどれかに屬するものであると云ふのが、アリストテレースの說明である。當時の狀態に於きまして甚だ適當して居つた所の說であります。故に若し今日此アリストテレースの說が正しいので、吾々が認めなければならぬものでありますならば、日本の如き君主國に於てデモクラシーと云ふことを言ふのはそれは不都合千萬、日本にデモクラシーの思想の起つて來ると云ふことは、是は一部の論者が杞憂する如くに、國體に對して動搖を惹起す所以であると無論言はなければならぬ。なぜならば、アリストテレースの分類に從へば、デモクラシーとはポリテーの變體で貧民政治の國體を云ふのであります。日本は君主國であると云ふ事は建國以來少しも變らないのですから、此變らぬ所の日本に對して、右申す意味のデモクラシーが起るとしたならば、是は革命と云ふことを來す外はないので是れは危險であります。從つてデモクラシーの思想は危險思想であると斷定しなければならないのであります。是は或は異論のある方もあるかも知れませぬが、私はさう信じて居ります。所が同じアリストテレースが國の種類を三つに分けることは右の如くであり乍ら、又別の所に於ては國の種類を二つに分けましてバシリコン、ポリチコンと云ふの二つにした。バシリコンと云ふのが一人政治、即ち國の主となる者が唯一人、ポリチコンと云ふのは國の主となる者が二人以上、多數の人である國、斯う云ふ風に分けて居ります。之を羅馬に至りましてはアリストテレースのバシリコンと名づけたのを、拉丁語でイムペリウムと云ひ、ポリチコンと云ふのは羅馬ではレパブリカと言ひました、此二つが國家の形態の根本的の區別と云ふことに認められたのであります。乍併全體としては矢張りアリストテレースの三分法が一般に廣く行はれて居つたのであります。所が中世になりまして、此所に大なる歐羅巴の政治學の中興の祖と言ふか、或は近世の實際の社會的政治的法律的學問の開祖と言つても宜しい大學者が伊太利に現れて來ました。其人はニコロ・マキアヴェリと云ふ人です。マキアヴェリと云ふ人は非常に誤解せられて居りまして、殊に此度の戰爭に於て獨逸の軍國主義がマキ

アヴェリに胚胎して居ると云ふやうな、頓でもない間違つたことを言ふ人が西洋にも日本にもあります。是はマキアヴェリに對しては非常に氣の毒なる誤解であります。マキアヴェリは左樣な惡黨ではないのであります。兎に角此マキアヴェリが盛んに政治論を致しました。其彼の出立點は國と云ふものにはモナルキアとレプバリカと此二つがある、モナルキアと云ふのは唯一人の自然人が主宰者となつて居る所の國を言ふ、之に反する所の他の總ての國は是は皆レパブリカである。斯う云ふ區別を立てまして、アリストテレースが昔立てた二分法を採りまして、彼は之を盛んに彼の議論の根柢として論じたのであります。話が長くなりますからそれから先きのことを申上げませぬが、それが卽ち歐羅巴の學問の上に非常な影響を及ぼすことになつて、今日迄も傳はつて來て居るのであります。併ながら又國の種類を三つに分けると云ふことも、決して廢らないで殘つて來て居る、謂はゞ三分法と二分法とが同じやうな力を以て今日まで行はれて來て居る。其外國家の種類を色々に分つて、五つにも六つにも十にも二十にも種類を分ける學者は幾らもあります。それ等はどれが必ずしも全體を支配すると云ふやうな有力な說もありませぬ。有力なる說は國家と云ふものは三つに分けるか二つに分けるか、此二つに殆ど限られて居ると言つて宜しいのであります。

## 三

さて此マキアヴェリに至つて有名なる說になつた所の國家二分法に從へば、デモクラシーと云ふことは國體の名稱ではないことになつて仕舞ふ。國家の形體の一つの種類ではない、或は多く分けたのに付いて更に細かい區分をする時には、デモクラシーと云ふことは或は言ひますけれども、國家の形體の根本的の種類ではない、是は寧ろ國家の其主權が假令一人にあらうとも數人にあらうとも、其兩者を通じて政治を運用する所の上の一つの主義と云ふやうに解釋せられる樣になつて來たのであります。吉野博士の民本主義論は大抵御存じだらうと思ひますが、私の承はつて居る所では、右申すやうな解釋を矢張りして居られるやうに記憶致して居ります。でありますからして、君主國であつてもデモクラチツクな事もあり、デモクラチツクでない事も有り得る。レパブリツクであ

ると云つて必しもデモクラシーと限らない、否專制的なる國に於てもレパブリツクと云ふものも隨分あつたのであります。最も近い例を擧げて見ますれば、英吉利はモルナキーである、君主國であると云ふことは誰も疑ひを容れない所であります。所が其英吉利は非常にデモクラチツクな國である、健全なるデモクラシーの發達して居る國であると多くの人は認めて居るのであります。私は必ずしもさうは認めませぬが、兎に角さう云ふ風に認められて居るのが多いのであります。君主國なる英吉利が非常にデモクラチツクな所の君主國である。反對につい先達て亡びました獨逸帝國は、右申した二分法に從ひますと、共和國である君主國ではありませぬ。尤も是は學者の間に色々な說がありまして、或人は是は多數政治國であると云ひ、或人は是は民主國なる所の共和國であると云ふやうな色々な說を唱へて居りますが、誰も獨逸帝國はモナルキーだと言つて居る人は無いと言つても宜い位、と云ふのは成程獨逸帝國を構成して居る所の各聯邦の中には、君主國もありますが又共和國もあるのであります。是等が寄つてたかつて獨逸帝國と云ふものを拵へて居るのであります。さうして此獨逸帝國と云ふものは獨逸のカイゼルが一人君主ではない、カイゼルと云ふ者は聯邦參議會の議長であるだけであります、故に是は多數政治國或はオリガルキーと言つても宜しいが、モナルキーとレパブリツクとを區別すると云ふ區別に從ひますれば、どうしてもレパブリツクに這入る、あれは共和國であるのであります。帝國と言ふから如何にも君主國のやうに聞えるけれども、それは名ばかりで、カイゼルと云ふから日本の天皇と同じやうにちよつと考へるが、あれは共和國の聯邦參議院の院長、參議會の會長、議會の議長たるに過ぎないのであります。其共和國たる獨逸帝國は、諸君が最近まで常に繰返して聞かされたやうに非常にデモクラチツクでない。反對にオートクラチツクの國であると云はれて居つたのであります。其說にも私は全部贊成は致しませぬが、先づさう人が言つて居つたのであります、又支那は今日共和國であります、併し誰人も今日の支那を以てデモクラシーの行はれて居る國と云ふ者はありますまい。

## 四

斯の如くモナルキーであつてもデモクラチツなものもあり、レパブリツクであつてもオートクラチツクのものが有り得ると云ふ例は、近く目の前にあるのであります。であります、からデモクラシーが君主國に容れられないものであると云ふやうな考へと云ふものは、全然言葉の意味をも了解しない使ひ方である。若くは言葉の意味を了解してもアリストテレースの昔に返つて、アリストテレースの說を其儘遵奉して居る人か、つまり非常なる馬鹿か非常なる怜悧か、此の二つの種類の人でなければ左樣な誤解はしない。吾々平凡なる人間に於ては、左樣なる誤解は起りやうが無いのです。殊に吾々日本人に取りましては、デモクモシーに限りませぬ、社會主義であらうが社會民主々義であらうが（それから先きは別問題でありますが）、さう云ふ思想を持つ人が國中に居つた所が、日本の君主國たると云ふことは少しも變りが起るものでないと信ずる。なぜなれば、吾々は日本人である。生れて來た時から日本人で、今も日本人死ぬ時も日本人である。日本人たることを迷惑に思ふ人もあるかも知れぬが、私は斷じて迷惑に思ひませぬ、大に誇とするものであります。兎に角迷惑であらうが幸ひなることであらうが、日本人であると云ふことは紛れない、日本人であるとして日本人として考へる。世界の人間として考へると言ふけれども、それは無理な註文である。日本の或人は此度休戰が成立したに付いて日本人は悅ばない、世界心が足りないからであると云ふやうなことを言つた人がありましたが、私には一向其意味が了解が出來ない。世界心と申したとて日本人として考へるより外ない、吾々が世界人として考へると言つた所で吾々は日本人である。英吉利、獨逸、伊太利何所の國の人でもない、空中飛行術が發達して空中に生活でも出來れば兎も角、地上に住んで居れば何れかの國に屬して居る。日本人が世界人として考へると申しても、其は日本人的に世界を考へるより外ない、デモクラシーを考へ社會主義を考へると云つても、日本人が日本人として考へるとどうしても、昔から君主國民として續けて居る日本人として考へる外はない。此國體をどうしやう斯うしやうと云ふ考は日本人として考へて居る限りは起らない。日本人としてゞなく物を考へれば出來ます、或は頭だけを英吉利人のやうに、或は亞米利加人のやうに、獨逸人のやうにして仕舞ふと出來ます。或は拜獨論者、拜英論者、拜米論者などと云ふ名前が附けられる人々は、それに陷る危險があ

る。日本などと云ふ國は詰らぬ、英吉利でなくちや行かぬ、獨逸でなくちや行かないと言ふ、語學の先生などの間には能くさう云ふ人がある、英語を一つ知つて居れば立派な大先生で、何でも彼でも英吉利か亞米利加でなければならぬやうに思つて、二言目にはあちらではあちらではと言ふ、あちらにも中々惡るいことがある、此等は驚くべき無智なる拜外論者である。さう云ふ人は日本人として考へて居るのでありませぬから、さう云ふ人がデモクラシー、ソーシアリズム、ボルシェヴヰズムを考へる時には、日本人として考へないからそれは危險である。社會主義が危險と云ふのではない、過激主義が危險であるのではない、日本人として考へないと云ふことが危險である。吾々が日本の人間として考へて居る以上には、普通の社會問題には何も危險は無いが、所謂脫線をして常軌を外れまして物を取調べ物を考へるやうになれば、是は巢鴨の病院へでも持つて行くにあらざれば危險である。日本人が日本人として考へて居る以上は、如何なる思想を抱いても國體に對する危險と云ふことは決してない。或る一部の人に取つて危險と云ふことはありませう。例へば資本主が溫情主義でなくては行かぬと考へて居る、勞働者が勞働組合主義を熱心に尊重して行けば、溫情主義なる資本主に對しては、勞働組合的の思想は危險でありませう。併し乍ら、國全體に對しては之は危險思想でも何でもない。國體と云ふものは誰人も之をきめたものでもなければ却て健全なる思想であります。國體から言へば、誰人も自分一己の考を以て改造し得るものではありませぬ。然らば此國體に對する危險と云ふことは、日本人が日本人として物を考へない場合の外には私は有り得ないと思ふのであります。即ち日本に於てレパブリカニズムを主張すると云ふならば是は危險であります。日本人が日本人として考へるならば、例へば政治の點のみに考を集注するとしましても、私は決してレパブリカニズムなどを主張する人などは一人も無いと斷言して差支ないと思ふ。今日の問題は左樣な所の國の形體に觸れやうと云ふのではない。遙にそれより手近な、遙に手前なる所の問題を取扱つて居るのであります。世上一般の說に從ひまして、此度の獨逸の大敗北はオートクラシーがデモクラシーに大負けに負けたのであると看做します。是が爲に獨逸の國體が變更されたのではない。露西亞に於ては國體變更である、墺太利に於ては國體の變更である、殊に匈牙利に取りましては

變革であるが、獨逸に於ては國體の變革ではない、カイゼルが退位して共和國になると云ふのは、一つの種類の共和國から他の種類の共和國になると云ふだけの話、私はさう云ふ風に解釋して居るのであります。但し聯邦に於ては國體の變革が起つた事は疑はありません。所が獨逸に於て今までオートクラシーであつた所のものがデモクラシーになつたと云ふ。此デモクラシーと云ふものはどう云ふ種類のものであるかと言ふと、是れは私共が考へて居る、私共が主張する所のデモクラシーではないので、名前はデモクラシーであるけれども大變違つたものであると思ふ。併ながら其デモクラシーでも私は日本の國本が動かない限りに於ては、何等の危險をも日本に來す物でないと斷言するものであります。此獨逸に打勝つた所のデモクラシーとは社會民主々義、ソーシアル・デモクラシーであります、私は此說が日本に行はれるやうになりました所が、日本の國本は是が爲めに少しも動かないと堅く信じて居るのであります。露西亞に蔓つて居る所の過激派の思想が日本に這入つて來ても、私は日本の國本は決して動かない、斷じて動かないと信じて居るものであります。然るに彼の國體擁護論者は其所まで行かない、社會民主々義の何であるかに思ひ及ばないので、普通誰人が見ても當り前と見て居るデモクラシーの思想を目してさへも、是が爲に國體に危險が釀されると考へて居ると云ふのは、私は彼等は果して日本人であるか否やすらをも疑はざるを得ぬのであります。吾々日本國民が自分の國に對して、左樣な薄弱な信念しか持つて居らぬのでは斷じてない、吾々は吾々の父祖の時代から今日に至るまで、國體の動搖、國體の危險などと云ふやうなことは夢にだも思はなかつたことで、十分なる信念を國に置て今日に至つて何等の不都合は見ないのであります。無論時勢に先立つて憂へると云ふことは甚だ結構なことでありますから、ごく微細なる所の危險でも、加はらんとしつゝある傾向があるのならば、聲を大にして是は危險である。此危險は今に於て其小なる中に之を防止しなければならぬと云ふことを叫ぶと云ふことは、國を憂へる熱心は大に敬服すべきであります。然し何もさう云ふ危險が無い。何も動搖が無いのに危險がある動搖があると云つて、自らも騷ぎ他の者を騷がすと云ふことは、私は日本人としては如何にも自信の無い、如何にも自らをも信ぜず國をも同胞をも信ぜず、人をも信ぜざる所の甚だ意氣地の無い所の人々であると斷ぜ

さるを得ないのであります。

## 五

危險は私の考では、日本人が日本人として物を考へないと云ふ所にある。是はごく少數の人に止まるのであります、日本人の全體から言へば、左樣な憂は無いと云つても宜い位、左樣な所の人々と云ふものは、成程一時は或部分には勢力を得ることがあるかも知れませぬけれども、國の全體の人から言へばごく少數でありますから、健全なる輿論の爲に必ず征服せられて仕舞ふ、特に之を撲滅するとか特に之に對抗すると云ふ必要のある程の力を得ることはないと信ずる。之に反して國を思ふことは甚だ厚いのである、決して國に對して不忠なる考を有つて居るのではない、唯見識の狹い其の眼光の届かないが爲に、國體に對しては何等かの危險が起りはしないか、國體が何等かの動搖を來しはしないかと云ふことを怖るゝ所の杞憂、此杞憂に基いて、而も忽卒なる所の運動をする所の人々が、若し日本に殖へるのならば、是は甚しい所の危險を釀す基になると吾々は信じて居る。

なぜなれば、戰爭前の世界の形勢でありましたならば別問題で、其時代であると云つても其憂はないと言へませぬが、戰爭の終りました今日の世界に於きましては、日本と云ふものは戰前の日本とは大變に地位が違つて居る、其一擧一動は悉く世界の人に依つて熱心に注目せらるゝ所の日本である。先刻も今井博士からお話があつたやうに、日本人は西洋人に對して劣るものだと考へるやうな行動を爲して居ると仰せられましたが、誠に其通り、成程進歩の上にも進歩して欲しい、良くある上にも更に良くあつて欲しいと云ふ點からして吾々は批評を致す、新聞紙に於ても政治家に批評を加へ或は實業家に批評を加へる。所が日本では誠に是が無遠慮である爲に、今まで誠に立派な人であるとして一般に尊敬せられた人でも、一度大臣にでもなれば必ずいつかは世の中の惡口雜言の的となると云ふことを覺悟せなければならぬ。最も手近い例が、或外國の全權公使若くは大使をして居つた時分には、新聞紙に於て雜誌の上に於て又一般の會話の間に於て褒められるのみで在つた人が、外務大臣になると翌る日から惡口を言はれる、掌の裏を返したやうに惡るく言はれる。大抵外務大臣になつた人は同じやうな歷史を繰返して來て居る。

否大臣ばかりではない、東京市長で以て惡口を言はれないで濟んだ人は、殆ど無いと言つても宜い。市長にならなければ例へば憲政の神樣尾崎行雄先生の如き、市長になつた爲に散々惡口を言はれてとう〳〵退いて仕舞はれた。阪谷男爵がなられても同じこと、今現に田尻先生の如きは盛んに惡口雜言を浴びて居られる、市長になられる前の田尻先生と云ふものは褒められてのみ居つて、殆ど惡口なんと云ふ者はどの雜誌にも出たことはない、人格の高い人と言つたが、市長になると云ふとあれは無能の奴ぢやと云はなければ、時候の挨拶も出來ない位になつて仕舞つた。私は田尻先生を辯護する積りでもない、外務大臣を辯護する積りでもないが、日本では公けの地位に立つと之に對しては、言論機關は斬捨御免、今日は罵り捨御免、斯う云ふ有樣になつて居るのであつて、私のやうな臆病な人間は、其點から言つても大臣や市長にはなりませぬ御免を蒙ります。尤も西洋でも其傾向はないと言へませぬが、日本のやうに滅茶苦茶な亂暴な無遠慮な罵倒國といふものは無いのであります。さう云ふ罵倒論を見ると日本は滅茶苦茶に可けない、政治家も可けなければ財政家も可けない、實業家も可けなければ何も彼も可けないやうに考へるが、



さうではない、吾々はさう云ふ言論のみに依て頭を充たして居るけれども、西洋人はさう見て居らぬ、日本の本當の値打を見て居る。殊に戰爭前と戰爭後の世界の日本に對する見方と云ふものは、非常に違つて來て居るのであります。晴れの舞臺に上つた、兎も角も日本は一人前の所謂一のパワーになつて居る。其日本に於きまして國體が危い國體が動搖する、而もそれが世界の人が見て少しも怪まない、最も進歩した思想であると認めて居るものが、若干の人に依て唱へられるが爲に、其國の抑も立つて居る立國の大本が動くと云ふことを若し世界の人が聞たならば、さうか日本と云ふ國はそんなヤクザな國かと今度は侮り始めるに相違ない。海軍は精鋭である陸軍も精鋭である、又近來は富の力も大變增した、日本は侮るべからざる所の國と思つて居つたが、併ながら國の因て立つ所以、其國體が僅かな外來の、而かも健全なる思想の爲に直に動くやうなものであるとしたならば、與し易きのみと外國の人は思ふでありませう。まことに日本の一切の事情を研究して事實を調査した人は、左樣なことに依て惑はされなくとも、唯新聞の記事に依て雜誌の記事に依て、日本を判斷して居る所の大多數の外國の人は、左樣な報道を聞けば直ちに

其の判斷に狂ひを生じて來ると云ふことは免れないので、此國民的の尊敬國民的の威嚴の失墜が戰爭を惹起し、外交談判を困難ならしむるに大に與かつて力があるのであります。無論虛勢を張つて置くと云ふことは駄目であります、無いものを有るが如くに見せやうと云ふのは駄目でありますけれど、日本の國本と云ふものは牢乎として動かない、二千年來の國の立つて居る所以は變らない、政治上の變化はあつたが變化は進歩である、國の因て立つ大本に至つては日本のみは少しも動かない國であつた、今も動かない、將來に於ても磐石の如く動かないものであると云ふことは、外國人に對しては國として第一の自慢たるのみならず、道德的に自から力を用ゐずして外國人をして尊敬せしめ、外國人をして日本に對する畏敬心を起さしめる最も有力なる事と存じます。此ことは一月號の中央公論に於て吉野博士が詳しく論じて居られるやうに考へますが、吉野博士の御論と其點に於ては私は全然同論であります。是は或人は國體の精華を外國まで發揮する、萬世一系の日本の國體を世界に知らしめると云ふ事で以て、隨分久しい前から唱へて居つた所であります。否德川時代の日本人の著述を見ますと、日本は神の國である。其他の

國は斯う云ふやうな國體を有つて居らないから、此特殊なる國を外國に知らせてやらねばならぬと云ふことは、本居、平田等の人々を始めとして隨分之を唱へて居るのであります、之と同じやうなことであります。併ながら、私はさう云ふ唯國の自慢と云ふ點ではない、世界の今日の有樣と云ふものは、皆國と國とがギリ〳〵一杯に立つて居るのである。少しでも隙があれば其隙に乘じやうと云ふのであります、卽ち國本がグラ付く等と外國人に思はせることは、其隙を見せる所以となるので甚だ以て恐る可き危險と信じます。是は或は黎明會の同人と私との考が大分違ふかも知れないと思ひますが、私は世界の平和を望むことは勿論でありますが、此度の戰爭は世界が平和に向つて進んだのでない、平和の方に後を向けて逆行しつゝあるものであると考へる。世界は愈々劍呑になつたと云ふのが、私の有つて居る堅い信念である。世界が物騷であるから、斯樣なる所の日本の國體に對する不安などと云ふことを少しでも持つと云ふことは、非常なる危險思想であると云ふことを痛切に感ずる。世界が平和に向ふ時節、國と國との間に於て强い國が弱い國を虐げ、進んだ國が遲れた國を虐げることがないならば、左樣なる緊張したる態度を

執らなくても宜い、少々位は頑冥なる思想が蔓つた所が蔓るに任して置て宜しい、それだけの餘裕がある。所が私の見る所に依りますると、世界は愈々緊張し愈々切迫して愈々不安が增して來たから、日本の國中に少しでも芥塵を置く、だぶつかして置くと云ふやうなことがあつてはならない。此國中にあるありと有ゆる間違つた考、古い考を有つて居る人、頑冥思想を有つて居る人が當り前の人と同じだけの米を食ふ。一人前の米を食つて頑冥思想を有つて居ると云ふことは不經濟千萬なこと、斯う私は考へまするが故に、此度此黎明會と云ふものが出來るに付て、私は熱心を以て之に加盟致して、此頑冥思想を退治して、國中に少しでも無駄飯を食ふ人の無いやうにしたいと云ふことを考へて、第一回の講演會から罷出た次第であります。日本の國本が若し少しでも動く憂があるのならば、之を憂ひて吳れると云ふことは有難い、さう云ふ人は尊敬して敎を聽て、少しでもさう云ふ危險のあるものは之を防がねばならぬ。所が左樣な憂の少しもないのにさう云ふ間違つた考に基いて、而も人の心を動かすやうなことをすると云ふことは、是は甚だ危いことであります。社會民主々義が獨逸に於て勝を占め、又露西亞に於ても勝を占めて居ります、其最も純粹なる形は名づけて過激派思想と云ふ、卽ちボルシエヴヰズムであります、過激派思想と云ふ特別なるものがある譯ではありませぬ、ボルシエヴヰズムと云ふ特別なるものがある譯ではありませぬ、是は社會主義の最も純粹なる形、時世に最も迎合しない阿らない主義を、有の儘に端的に出した形に外ならないのであります。

## 六

日本では過激派思想と云ふと、是は社會主義とは又一つ別な所の主義があつて戰つて居るやうに考へて居る。成程露西亞に於きましてはボルシエヴヰズムとプレヒアノフを首領とする所の少數黨と戰ひました。又現に獨逸に於きましてスパルタクス・グルツベと稱する一派が(日本では過激派と稱へて居る)、社會黨の現政府と戰つて居る。恐らく今日今晩頃も尙盛んに戰つて居りはせぬかと思ひます。であるから此二つが相敵對した所の主義であるやうに考へて居る。それで或人は過激派思想はいけない、是は危險であるが、社會主義殊に溫和なる社會主義ならば這入つて來たつて差支ない。是は大丈

夫であると斯う云ふ區別をする人がある、私は此區別が大變に危いと思ふ。溫和なる社會主義などと云ふものは世を忍ぶ假の形ほんの一時の假の形、今日溫和なる社會主義などはありはしない、ありとすれば時代錯誤であります。此溫和なる社會主義でも、日本人が日本人としてゞなく考へて其主義を奉ずれば危險になると思ふ。反對に所謂過激派の思想でも、日本人として考へて見る以上は何等の危險も日本には意味せない。なぜならば、日本人として考へる以上は、ボルシエヴキズムも何もし得ない。唯思想上一つの產物に止まる。多數の人が此思想に化すると云ふ事は斷じてない、日本人として考へて居る限りは決してないと思ふ。併ながら日本人が日本人として考へるのでない場合には、過激派思想でなくとも又溫和なる社會主義でなくとも、所謂デモクラシーの思想、溫和なるデモクラシー、當り前のデモクラシーと言はれる思想でも、是は危險を誘引すると堅く信じて居る。殊に英吉利や亞米利加で謂ふ所のデモクラシーと云ふのは、是は主として第三階級の爲に、主として資本家階級の爲に其自由、其活動を要求する所の一つの主義であつたのであります。さうあらねばならぬと云ふ譯はない。道理の上に於てはさうあらねばならぬ譯はありませぬが、それは空理で實際の現在の事實として、今日迄デモクラシーと言はれて居るものは、資本家階級の自由と活動とを要求する爲に、そればかりではありませぬが、主として其爲に主張せられた所の主義であるのです。此所でちよつと私は辯明して置く要を感じます。一兩日前に發行した日本及日本人に、慶應義塾のものは普通選擧尙早論を稱へる、田中敎授並に私の名前が書いてありましたが何の間違でありますか、私は普通選擧尙早論などは唱へた覺えはないのです。私は普通選擧論と云ふことは尙早どころぢやない遲れ過ぎて居る。だから今更こんなことを標榜して大騷ぎをやるのが馬鹿々々しい、其意味で私は黎明會で普通選擧の主張を具體的にしやうぢやないかと仰しやつたことに反對した。黎明會の事業はもつと先きのことを考へる。普通選擧と云ふやうな落ちて來るやうな熟柿に向つて居るのではない、其例は獨逸に在る。獨逸に於て抑々社會黨が出來まして、それは此前青年社會政策學會の時に話しましたが、其速記前段に收む　社會黨の二つの綱領は、一つは普通選擧、一つは勞働者の生產組合を立てる爲めに、國庫から補助を貰ふと云ふことであつたのであります。ビスマルクは敵の武具を奪

つて普通選擧を採用して仕舞つた、であるから二つの取つて置きの題目として標榜した、一つは却て官僚のビスマルクの爲に取られて仕舞つたから其運動は挫折して仕舞つた、そこで彼等の運動と云ふものは停止して仕舞つた。國庫から補助を貰ふと云ふ事は是はとう〳〵出來ませぬでしたけれども、ラサルレが生きて居つたら出來たかも知れないが、夫は大したことでもない。普通選擧のことはさう力を入れてやらぬでも、もう落ちて來るばかりになつて居る。それよりも何か新規の題目を掲げてやるが宜いと云ふので、そこで吾々は普通選擧と云ふやうな手近なことは止さう、それは外の人がやる、もつと暇のある人にやつて貰ふ、吾々暇の無いものはそれよりももう少し先きのことをやらうと云ふので、普通選擧運動に反對したので、普通選擧其ものが尙早と云ふとは反對であるので、私は普通選擧が行はれました所が大した重きを持たない、選擧權をみんなが持つ、多數の人が選擧權を持つのは冀はしいことだが、併しながら今日の日本の政治道德では、選出せられる人が替りまして替り榮の無い人が出はしないか、第一流の人間は議會などへは行かない。尤も議會には第一流の人間が居ないと言ふのではない、行かないと言ふので、行かなければ居ない事になるかも知れませぬが兎に角行かない。昔政治と云ふものが大切な時代に在つてはさうではないが、諸君今日は最早政治萬能の時代は過ぎて仕舞つて居ります。政治々々と云つて政治が何よりも重大だ、男子苟も志を立て名譽心を持て世に立ち大に爲さんと思へば、皆政治に向つたと云ふ時代は十九世紀の事であつて二十世紀のことではない。私は『政治は人文の一切にあらず』と云ふ事を繰返して主張して居ります。殊に慶應義塾に於てそれを能く言ひましたのは、慶應義塾に於ては政治々々と言つて政治が何よりもえらいと思つて居る、其迷夢を醒す爲に慶應義塾に於ては政治は人文の一切にあらず、あんな事は惡黨のする事だと言ふことを始終唱へて居る。其言は少しく極端であるかも知れないが私はさう思ふ、今日までの政治家と云ふ者に碌な人間は一人も無い。さう言ふと大分お咎めを蒙りませうが、ルーズベルトなどは大なる山師、大なる役者であつて人格の人でも何でもない。あれは日本の大恩人などと言ふ人がありますが其馬鹿さ加減に驚く、日本の大敵と見るのならば間違つて居る中でも間違が少い、大恩人なんて頓でもない話だ。現在より過去に溯つて見ても、ビスマルクを誰もえ

らい道德家だとは見ませぬが、英吉利には道德家の看板をかけた政治家があります。例へばグラッド・ストーンが人格の高い人でありましたらうが、彼が政治家として居る中にはひどい事がある。昔の人は止しまして今生きて居る一番吾々に關係ある人を捕まへますと、卽ちエドワード・グレーは戰爭の始まる頃は英吉利の外務大臣をして居つた人で、近頃は國際聯盟と云ふことを始めて稱へ出した人、ウキルソンに亞いでの人類の大恩人、大救世主と尊敬して居る人が日本にも少からずあります。此エドワード・グレーと云ふ人はどう云ふ事をした人であるか。彼は千九百十四年七月十日英國の下院に於きまして演說をして曰く、『向後英吉利國は英吉利の資本にして世界の何れの部分にも投下せん事を欲し、而して其投下に對して相當なる所の利權の割讓を求むる時があり、若し之に對して有力なるべき政治上の反對存せざる限りに於ては、英國政府は其全力をあげて此資本家の要求を貫徹するに努むべく、殊に相手方政府、卽ち利權を割讓すべき義務ある政府に對しては、其利權の割讓は其が鐵道の建設であれ何であれ、割讓すると云ふ事は單り英國の利益たるのみならず、其國の利益であると云ふ事を合點が行くまで說得することを努むべきものとす』、斯う云つて居ります、私は是は意譯をしましたから本文の通りではありませぬ。原文は近く發行になる『我等』と云ふ雜誌があります、其第一號に長い論文にして書てありますから、正確なことは其雜誌を御覽になることを御願ひ致します。（前段第三二九頁）是はどう云ふことを意味するかといふと、當り前の日本語に直して見ますと斯う云ふ事になる、英吉利は向後資本家が外國政府に利權の割讓を迫る場合には、其の資本家が自分で以て利權を取つて來るに拋擲しないで、政府の力で彼等を護衞して、相手方政府を屈服するまでやらすべしと云ふ、之を名けて資本的帝國主義、經濟的侵略主義と言ひます。是はグレーが千九百十四年に發言しましたけれども、千八百五十年に英國の外務大臣であつたロード・パーマーストーンが同じやうなことを主張して居る。是が英吉利の國是であるとエドワード・グレーが平氣で公言をしたのであります。所が左樣なる公言を爲す所のエドワード・グレーが國際聯盟を主張して居ります。國際聯盟が出來ましたら一時戰と云ふものは或ひは抑へられるかも知れませぬ、武器を以て戰ふ軍は抑へられるかも知れませぬ、英吉利の爲には仕合せなことであります。英吉利は陸軍は下手糞で

弱い、其陸軍が無くなつて仕舞ふ、徴兵制度が廢されると云ふ事は願つてもない宜いことだ。それと同時に海軍も廢して仕舞ふのでなければ何にもならぬが、ソレは何とも言はぬ。否米國の海軍は擴張すると言つて居る。現に海軍は大擴張をやつて居る。世界の平和、世界の正義の爲に獨逸を亡ぼし、國際聯盟を主張する他方に於ては、戰の道具をどんく擴張すると云ふ。其海軍の大擴張と云ふ者は何の爲めにするかと言ふと、必しも實戰の爲めに備へるのではない、英吉利の海軍は實戰の爲めにするかと言ふと、必しも實戰の爲に備へるのではない、英吉利の海軍は實戰の爲めと云ふよりも、資本的帝國主義の道具として大に役に立つ、此實例を擧げると大分長い事になりますから略して置きます。他の國の材料に依らず英吉利人が認めた材料を持つて來ても幾らでも例がある、英吉利人は之を名けて『ネヴアリズム』、獨逸のミリタリズムを軍國主義と譯しまして、軍國主義撲滅せざるべからずと云ふことを開戰の初めから主張して居る。然るに『ネヴアリズム』と云ふと文明的なるものゝやうに聞えるが、意譯致しますと海賊主義、海の泥棒主義であります。泥棒と云ふものは僅かなる船に積んだる在荷を取るだけであります、何萬



噸積んであつても財と云ふものは限りがある。然るに英吉利のネヴアリズムは國全體を攫つて持つて行つて仕舞ふ、海賊主義と云ふ。言葉は弱過ぎます。乍去支那語にも日本語にも『ネヴアリズム』を現すべき、强い泥棒を現はした字が無い。據ろなく私は之を海賊主義と譯します。英吉利人でもそれは認めて居る、ネヴアリズムと云ふ者は直ちに戰をすると云ふよりも平時に於てやる。卽ち之を平和の戰爭と云ふ、或は經濟戰爭、詰り人の國を奪取る。或は國を奪はないでも國の平和的產業の結果を奪取る。此資本家を特に擁護する爲に大なる海軍を動かす、又非常なる經費を使つて英吉利の外交機關を充實して置くと云ふことは、是はデモクラシーと云ふ名前の下に主張をさせられて居るけれども、吾々は決してそれはデモクラシーとは思はない、それはプルートクラシー、民主々義ぢやない富民主々義であります、英吉利で言ふ所のデモクラシーと云ふものは眞正のデモクラシーではない、プルートクラシー若くはプルートデモクラシーであります。亞米利加に於て言ふ所のものもそれである。錢と云ふものが大變大切である。議會に於て資本家の後援を得て置くと云ふことが大切である。政黨と云ふものが大切になつて

政黨內閣と云ふものが要求されたのは資本家閥の爲めである。英吉利に於きましては政黨內閣と云ふものは、資本家閥が無ければ圓滿に行かない、ロイド・ヂョーヂといふ人は偉い人ではあるが、タイムス新聞の持主ロード・ノースクリツフと云ふ人に使はれて居るやうなもので、ノースクリツフが打遣つて仕舞へと言つて打遣る方針を執つたならば、此度の選擧の結果は大に違つたらう。日本でも新聞社會に大なる資本閥が起つて來まして、政治上の或力と結託をする、勿論新聞界の健全なる分子ではないが、斯ういふ事が大分起つて來るやうであります。併ながら之を英吉利のタイムス新聞以下の金權政治に比ぶれば迚もお話にもなりはしない。ノースクリツフは一方にタイムスを以て輿論を製造する。英吉利人は數ペンスを投じて其政治上の意見を買つて其れで空なる頭を塡充する。而してノースクリツフは其製造した其輿論に丁度うまく適當する樣な政治家を拵へてそれを內閣へ送る。是が少し遣り損ひをすれば、其の遣り損ひを當り前の事と思はせる樣に輿論を變へさせる。それで其政治家が愈々可けなければどうにかして替へさせる。ノースクリツフは選擧人が殖へたつて殖へないたつて大した違ひはない。選擧權の擴張は宜い事と考へて居るがそれは表面の語、眞の國の素質ではない、日本にはさう云ふ大勢力家は無いが、資本閥が後にあつて繰つると云ふ事は段々增して來ます。さう云ふ政治と云ふことに吾々は力瘤を入れる氣にはなれない。其政治の運用に於ては、選擧權の擴張も縮少も普通選擧も制限選擧も、吾々は殆どどれでも宜いと思つて居る、と云つて何うも拋つて置く譯に行きませぬ。普通選擧の行はれる爲には力を注がなければならぬが、それで非常に良くなるだらう、非常に結果が擧がるだらうと思へば必ず失望に終つて仕舞ふ、と云ふのは政治では決して本當のデモクラシーは行はれない。本當のデモクラシーと云ふのは何であるかと言ふと、それは今日の社會の根柢に於てデモクラシーを最も妨げて居る所のものを取去つて仕舞はなければ出來ない。デモクラシーの起ることを妨げて居るものは、政治の上にも成程あることはあります。又政治外の社會の生活の上にも彼方此方にあることはあります。けれどもそれは根本的のものではない附隨的のものである。根本的のものが落ちて仕舞へば、自ら其の力が衰へて來るのである。其根本的のものを見ずして唯政治の上だけで以て幾らデモクラシーを望んでも、

又さう云ふやうな形式が幾ら備はつても、決して本當のデモクラシーが來るものではない、それは私が名つけて言ふシュードデモクラシー、嘘のデモクラシー、虚僞なる民主々義、形の上に於けるデモクラシーで本當のデモクラシーではない。本當のデモクラシーと言へば、デモスと云ふのは民、クラシーと云ふのは支配と云ふことである。而して其支配と云ふのは政治上の意味から言へば、日本はモナルキアでありますから、上御一人が支配なさります。從つて之に就て彼此れ問題は無い。其意味に於てデモクラシーなんと云ふことはちつとも考へられない、唯運用の上に於て吾々は問題を見出すのであります。其問題は何であるか其は外でない。我々は生きて行かなくてはならぬ。生存して行かなくてはならぬ、吾々の生存を確立すると云ふ所の必要より眞正のデモクラシーを要求する。即ち國に生れて來た者は如何なる無能なる者であつても、如何なる低能な者であつても、如何なる卑しい者であつても、人間として恥かしからぬ生存の出來得るやうになつて居る社會、若くは國と云ふのであります。其方に向つて行く有ゆる運動有ゆる傾向を名づけてデモクラチツクと私は名づけるのであります。其方に向つて行くのでなければ、選擧權の擴張でも普通選擧でも私は少しもデモクラチツクとは認めない、所が斯う云ふ國の中、社會の中へ生れて來る者は如何なる微賤なる者と雖も、人間として恥かしからぬ生活をして行くと云ふことは今日出來て居ない、何等の保證も之に對して與へられてない。そこで私は第一に國の憲法の土臺に國民の生活を保證すると云ふことを認めて貰ひたい。明文に必しも現はさなくても宜しうございます。日本の憲法は歐羅巴の憲法を模倣したのですが、歐羅巴現在の憲法と云ふものは財産階級、資本階級が取つて來た憲法であります。資本家階級が其國の最高の權力者又は第一第二の階級から奪取つた所の一つの詫證文であります。斯く言ふと、憲法は甚だ詰らないものゝやうに私が考へて居ると云ふ譏りを受けるかも知れないが、詰らないものと考へて居るのではない、詫證文を取つて置て呉れたからこそ色々なことが出來たのです。さう云ふ詫證文無かりせば吾々の今日の生活と云ふものは不安心である。乍去此詫證文に於きましては、主として第三階級、即ち動産階級の利益を本位として箇條が設けられてある。昔は土地を有つて居る者が經濟上に於て一番威張つて居るから、是がいつも政治上に威張つて居つた。

英吉利の議會は地主若しくは地主代表者ばかりで固めて居つた議會であります。それが千八百三十二年の選擧法改正で變りまして、今度は地主ではなくして動產を持つて居る、所謂資本を持つて居る階級が一番威張れるやうになつて居ります。今日の憲法政治と云ふものは、それに丁度合ふやうに出來て居るのです。でありますから日本の方にもありますが西洋の憲法に於きましては、身體財產の不可侵と云ふことが規定してあるのであります、殊に財產の神聖が重大なことゝして規定してあります。例へば先達の內閣に於いて暴利取締令を出した時に、憲法違犯である財產の不可侵と云ふ憲法の根本に背くからと云ふことを八釜しく言ふ人がありましたけれども、是は憲法の條文の上から解釋すると正しいと思ふ。仕方がない。併し乍ら財產不可侵一點張と云ふことが最早時勢遲れであります。今日は財產より貴いものがある。昔と雖もあつたのですが、其時分には存在を認められなかつた。今日は少くとも其の存在は認めてあります。





昔は財產の無い人間は家畜と同樣に認められて人間と認められなかつた。今日は財產の無い勞働のみに依て生活する者でも、人間として認められるやうになつた。さてなつて見ると其數は非常に多い。財は無くして勞働に依て生活する者が國民の大なる部分を占めて居る。其大部分を占めて居る所の無財產者階級に對しては、財產不可侵の箇條は殆んど無關係である。生存の不可侵、人間として存在の尊貴と云ふことが何よりも一番貴いのである。是は今日の憲法には明文の上に載つて居ない、それよりも遙かに痛痒を感ずることは少い所の、財產の不可侵と云ふことは大變に重きを置てある。であるから米の買占などをして國民の生活を脅かす者があつてそれを取締らうとしても、憲法の財產不可侵の條文に背くぢやないかとやられるとギュッと參る、參る譯です、それだけ時代錯誤的になつて來たのです。乍併憲法の條文に於て書く必要はない、さう云ふ精神を持つて行きさへすれば宜い。卽ち是れからは社會と云ふものは財產が一番貴い者であると云ふ趣旨を修正しなければならぬ。財產も尊重しなければならぬが、それよりも貴いものは人の生存である。生存を一番貴いものとして國の正義、國の社會的の施設、否、

國の一切の計劃と云ふものは、先以て國民全體の生存の安全、生存の不可侵、生存の保證と云ふことから着手しなければならない、それでなければ幾ら選擧權を有つて居たつて食べることが出來なければどうすることも出來ない。代議士を選ぶよりも我身、我妻、我子が其日々々を人間として恥かしからぬ生活をして行くと云ふ方が遙かに大切である。私は若し國民が人間として生存を十分に保證せらるゝことが出來れば、選擧權などは無くても宜いと申さんとするのであります。暴論と言はれるかも知れぬが、畢竟吾々は何の爲に選擧權を欲しいか、選擧權を行使するのが國民として先以て人間として恥かしからぬ生活を爲し得て、後に國の進歩國の大なる文明的使命に與かりたいからである。然るに吾々の生存其ものが保證されない、生存其者が非常なる不安に置かれて居る間は何事も始まらない。政治上の一般の機關をいくらいぢくり廻して見て、デモクラシー〳〵と言ても何がデモクラシーであります。即ち私は英吉利や亞米利加に今現在――他日は無論變つて來るでせうが、今行はれて居るデモクラシーなるものは嘘も嘘も眞赤な嘘のデモクラシー、左樣なものが流行ると云ふことは一向歡迎する値打はないと私は考へて居る。他方に於て社會民主々義ソーシアル・デモクラシーと云ふのは、是は第四階級の專制を主張するものであります、即ち其の說に依ると、今迄の世界と云ふものは奪掠の歷史であつて、階級と階級とあつて一つの階級が他の階級を奪掠しつゝある、其奪掠者となる階級と被奪掠者となる階級とが變つたゞけで、土地を有つて居るものが土地を有たない者を奪掠し、動產を持つて居る者が動產を持つて居らない者を奪掠して居るのが現在の時代である。斯くの如く奪掠し合つて居る今日に於ては、どうしても被奪掠者が先づ自覺して立たなければならぬ。さうして此奪掠と云ふことを止めなければ行かぬ。今日奪掠せられて居る處の第四階級なるものは、此被奪掠者の最後のものである、此最後の被奪掠者が奪掠を免れることになれば、それ以下の階級は無いのだから最早奪掠せらるゝ者はないことになる、即ち奪掠と云ふことは止んで仕舞ふと申すのです。而して更らに論を進めて申すには、其奪掠を止めるには、被奪掠者たる階級が有ゆる他階級に對して戰爭を挑まなければならぬ。之を名けて階級戰爭と云ふのであります。諸君若し斯の如くにすれば、矢張り階級と階級が爭つて行く所の戰爭が國內に續くのであります、國と

國との間の戰爭が無くなる位は何でもありません、國際間の戰爭は悲慘ではあるけれども、四年か四年半も經てば濟んで仕舞ふ。國內に於ける階級戰爭と云ふものが始まるとしたならば、五年や十年で終るものではない。此度の露西亞の如きは別でありますけれども、普通の場合に於てはさうでない是は誠に厄介な話、それよりも未だ〳〵國と國との間に慘虐の行はれる戰爭の方が短くて濟むだけ可い。戰爭は國際間に於てはいけない、國內に於ては宜いなどと云ふ道理はありません。如何なる形に於ても宜くないのです。であるから、私は階級戰爭に依て此掠奪を止むべしと云ふ說には、徹頭徹尾贊成する事が出來ません。道理の上に於ても、――實際の上に於ても、將た又感情の上に於ても贊成することは出來ません。而して斯く主張する社會黨が他方に於て最も熱心なる戰爭反對論者、世界平和論者であるのは矛盾も亦極まれりと信じて居ります。併し右の樣な說を日本に於て主張する者が殖へても日本に於ては危險ではない。十分にお互に議を盡し合つて、何れが正しいかと云ふことを論じて行けば、歸着する所には歸着する、歸着しない人があつた所が害にはならぬ。却て自分の思想を愈々磨いて行く上に於ても、少しも妨害にはならぬと私は考へて居ります。兎に角此ソーシアル・デモクラシーは、矢張り本當のデモクラシーでない。卽ち私が向後日本に起つて吳れなければならぬ、吾々が自ら其一員となつて日本に大に起さなければならぬと思ふ所のデモクラシーでは全然ありません。何となれば、其は第四階級と云ふ多數の人間は含んで居るが國民の全體ではありません。而して其一部の者が非常なる憎しみ、非常なる敵愾心を以て、他の階級と戰爭をすると云ふのですから、是は斷じて望む可きでない。それは眞正なる平和を得る所以でもなし、眞に生存の確立を保證し得る所以でもないと私は信じて居る。否、獨露に於ても必ず左樣であると信じます。私の考へて居る眞正なるデモクラシーと云ふのは、前申す通りに、國民の總ての者が人として恥かしからぬ生活をし得るやうにする、然うする上に於ての障害物を取除けると云ふことであります。其障害物は何かと言ふと、それは政治の上には無い、それは社會の上にも無いと云ふことを言ひたい。然らば那邊にあるか、それは經濟生活の上にある、私は經濟學を專門にして居るから、我田に水を引くと云ふ評を受くるかも知れませぬ、其評は甘んじて受けます、私は確にさう信じて居ります。吾々の生

活の第一着手は經濟生活、經濟生活が立たなければ他の生活は始まらない。人として有ゆる行動を始めやうと云ふ一番初めの經濟生活に大なる妨害があつて、吾々の前途を妨げて居る間は眞のデモクラシーは起らない。吾々の考へるデモクラシーは之を取去ると云ふことである。而してそれを取去ると云ふことはどうするかと云ふことは、今晩はお話は致しませぬが、之を取去ると云ふ爲にあたり八方がぐら〳〵動くと云ふのでは躊躇しなければならぬ。即ち此吾々の國民生活の不可侵、保證と云ふことを確立すると云ふことが、日本の國本を動かすことであるならば、吾々は端的に之を要求することは出來ない、我慢しなくてはならぬ、吾々に取つては日本人であると云ふことが與へられたる事實です。日本であれば君主國の内に住んで居ると云ふことは不可動の事實である、之れを動かして吾々は眼の前に横はつて居る妨害物を取除くことは出來ない。所が私の堅く信ずる所に依れば、此除けると云ふ事は少しも日本の國本を動かすことにはならぬ。日本の國本をより強くより盛んにより清くする所以であると信じます。單り國内に於て國本が確立し國本が鞏固になるのみならず、外國に對して日本の國本を發揚することが出來ると私は信じて居るのであります。然らば此目的を達するには、如何なることを爲す可きかに就ては、向後機會ある毎に卑見を開陳して行く所存であります。本論は其等に對する一の緒論として御覽を願ひ度いのであります。

＝大正八年一月十八日黎明會第一回講演、同三月同講演集第一輯掲載＝



F. VI, 64.

# 二　暗　雲　錄

# 一　暗雲世界を鎖ざす

## ―経濟的ボイコット主義の脅威―

最近の中央公論を見ると、『過激思想對應策』といふ題の下に吉野博士を初として諸大家諸君の意見が公表せられて居る。吾輩一々之を拜讀したが、悉く結構の御論と申すの外はない。併しながら所謂過激派なるものが、今日實際に於て如何なる狀態にあるかに就ては、吾々日本に在る者は未だ正確な知識を有しない。右に論ぜられた諸君も、之を確かに知つて立論せられたと思ふものは一人も無いやうである。然るに如何に過激派に對應すべきかと云ふ事は、理論の問題ではなくして事實問題である。想像を以て對應策を講ずる事も多少の參考とならぬではないが、場合に依つては全然無用の論とならぬと

も限らぬ。此點から見ると、『大日本』記者滿川氏の論は想像でなく事實に立脚した的確なものと言へる。氏は最近一篇の意見書を起草して同志間に配布された、之れは雜誌に公けになつてゐないやうであるが、可なり廣く配布せられたらしい。吾輩も之を熟讀したが、右中央公論所載の諸說に比すれば、遙かに徹底した意見を述べられてゐるやうに思ふ。何かの形に於て一般の目に觸れるやうにならぬといふのは殘念である。吾輩は過激派の實情を十分知らぬ者であるが、朧ろげに知つてゐる處から判斷すれば、右滿川氏の意見に對して全部に近い贊同を惜まないものである。

元來過激派なるものを日本で過激派と譯してゐる事が甚だ累をなしてゐる。誰が始たのか知らないが、過激派そのものにとつても、過激派ならざる吾々にとつても迷惑千萬と言はねばならぬ。成る程彼等は今日までの實際上の行動に就て言へば、過激も過激甚だ猛烈な事をやつてゐる。併しながら彼等は決して過激にやる事を主義としてゐるのでも、目的としてゐるのでもない。ボルシェヴキキといふ名稱は少しも其の實を現はす爲めに用ゐられた名ではない。社會主義、無政府主義といふ如き一定の內容をもつた名稱でない。若し內容を持つた名を與へんとすらならば、矢張り社會民主主義といふ外はないものである。只その主張を徹底的に打ち立てゝゐるに外ならない。無政府主義でないのは勿論、第四階級の手に大なる政權を集中せむとしてゐる大なる有政府主義である、政府肯定主義である。然るに我邦では過激派といふ名から想像して、彼等を無政府主義者の如く解してゐるのは大なる間違ひである。又それは露西亞で起つた主義であるところから、トルストイと關係がある樣に想像してゐる者もあるが、是亦大間違である。トルストイが右の頰を打たれたら左の頰を向けよといふ、絕對的無抵抗主義である事は何人も知る所である。然るに彼の過激派は無抵抗主義どころか大なる抵抗主義である。第四階級をしてあらゆる他の階級に何處までも抵抗せしめようとするのである。トルストイの思想とは全然正反對とこそ言ふべけれ、その說を奉ずるものでは決して無いのである。トルストイの思想は吾々から見れば高尙ではあるけれども、畢竟空想に外ならぬ、所謂文學者的瞑想に耽つてゐるものとしか思はれない、此世を動かすべき生きたる思想ではない。之に反して過激派の主義は、直ちに幾十幾百萬の人間を奮起せしむる力あ

るところの、一の生きた主義、ビッグ・リヴキング・プリンシプルである。

それ故に聯合國がいくらやきもきしても、外からの壓迫位でたやすく消滅すべきものではない。又た戰亂に乘じてレニン、トロツキーの輩が露西亞の愚民を瞞着した結果出來たものでも無い。その根柢は露西亞の民心に、否歐羅巴の民心に深く根ざして居る。普に政治上の手段を以て對應策などを講じたところで到底駄目なものである、尤も對應策といふ文字は瀧田君が好んで用ゐる文字で、右に論じた諸家が自發的に考へ出したのでなく、瀧田君の註文に應じて意見を述べられたものであらう。それ故に右諸家が必ずしも對應策を考へて居られるといふ譯ではあるまい。吾輩の考へでは、露西亞に於ける過激主義に日本で對應策を考へるのは全然無用と信ずるのである。日本に起れば之に對應すべきどころか、對抗して行くべきは言ふまでもない。が、それは今日現在の問題ではない。否、近き將來に於ても、斯くの如き問題は日本に取つて何等の意味をもたない、何となれば、吾輩の信ずるところでは、日本人の頭には過激派的思想は到底侵入しないからである。この思想を注入しようとするには、先づ日本人の頭の構造を根本的に變へてしまはなければならぬと信ずる。露西亞に於て過激思想が如何に熾んになつても、露西亞が徹底的に之を以て國を立て社會を造つても、それは露西亞の事で、日本の事ではない。露西亞が勝手にさういふ主義を採用するのを、日本で干渉したところで仕方はない、否、干渉すべき性質のものではない。只、その過激主義なるものが日本の國に害を及ぼす場合には飽くまで對抗せねばならぬ。此點は獨逸の社會民主主義も同樣である。彼等が如何なる主義を採らうとも、それは國內の問題であつて、外國が干渉すべきではない、恰かも支那が共和國となり獨逸が共和國となつても、日本が之に干渉すべき理由をもたないと同樣だ、只それが日本を脅かす場合には如何なる主義と雖も、之と對抗せねばならぬ。然るに露西亞の過激派を討伐せねばならぬといふ愚論が、今世界に行はれてゐる。之は英米の立場から見れば共の必要があらう、併し如何に必要があつても、他國の內政に干渉するのは間違ひである。殊に亞米利加の如くモンロー主義などと言つてゐる國が、過激派に對してモンロー主義を認めないとは得手勝手にも程がある。即ち日本として過激派征伐、露西亞の過激派を日本の力で抑壓してやるとか、或ひは獨逸が之れに感染するのを

妨げるとかいふ爲めに、國家として何事かするといふ事は、斷然爲すべからざる間違つた事である。只前に言ふ如く、日本なり日本の存在なりを危うする如き場合、若くは世界の平和を脅かす如き場合には對抗せねばならぬ。然るに過激派は日本の存在を少しも脅かしてゐない。世界の平和をも脅かしてゐない。露西亞のザーは世界を脅かした、殊に日本を脅かした、然るに此の危險は過激派が之を取除くに與つて力があつた。日本から言へば、寧ろ過激派を褒めてこそやるべきである、少くとも過激派の露西亞である限りは、露西亞の方面から日本を脅かす危險は決して起つて來ない、所謂北門の憂は全然日本から取去られたのである。吾々は少くとも北の方面に對しては枕を高うして眠られるのである。獨逸とても其の通り、獨逸の軍國主義は日本を脅かした事は一度もないが、併し膠洲灣占領の如き事をやらるれば油斷はならぬ。それも社會民主黨の國家となつてしまへば、膠洲灣占領の如き暴行は働くまい。即ち日本を脅し得る危險は獨逸の方面からも取除かれた、それ故に遠き將來は知らず近き問題としては、日本は過激派に對して對應策を講ずる必要は寸毫も之を有しないのである。

然らば過激派の憂がないから、日本は全然安心して居られるかといふに、正反對である、他の方面に於て大なる危險が日本を脅かさうとしつゝある。即ち此意味に於て我輩は、今や漆黑なる暗雲が世界全面を掩つて之を鎖ざさんとしつゝあると絶叫せざるを得ぬ。それは何であるかといふと、最近外國電報に依つて其の詳細が傳へられた、對獨講和條件なるもの是である。あの浩瀚なる條項は殆んど今日の人類の知識を傾け盡して獨逸を窮迫せんとするものであつて、その周到綿密なる事は實に前代未聞と言はざるを得ぬ。讀者は須らく彼の條項なるものを仔細に玩味して見るべきものである、軍事上に於て獨逸が再び軍國主義を再興する事のないやうにするは結構なことである、其爲めに周到綿密な條件を課するのは吾々の双手を擧げて贊成する處である。併しながら彼の規約の大半は之には少しも關係が無い。又戰爭の跡仕末として世界の平和を回復するに必要な條項のみではない。否、その以外の條項の方が遙かに多いのである。今その一々を此處に指摘せずとも一言を以て盡すことが出來る。即ち彼の條項の大半は獨逸を經濟的に滅ぼすこと是である。產業上に於て獨逸を世界の表面でゼロにしてしまうといふ目

的を以て規定せられたものである。而して其相手は獨逸國のみでなく、獨逸國民の全部である。獨逸六千萬の人民を悉く犧牲に供するのである。此點に於て實に前代未聞の新例と言はねばならぬ。是も獨逸が非人道的狂暴を逞しふしたる酬ゐと云はゞ言へるが、何も知らぬ一般人民は可哀相なものである。獨逸委員は其大部分は實行不可能であると云つてゐる。シヤイデマンは之を以て死刑の宣告に等しきものだと言つてゐる。

今更仕方はないが、吾輩殘念に思ふ事はあの條件を定むる時に、之を人道的に之を正義的に綏和すべく、我全權委員が何の貢獻をなしたかを與り聞く事の出來ぬ事でる。吾輩は屢々講和會議に於ける日本の使命は、聯合國が圖に乘つて苛酷な條件を敵に强ひんとする際に、之に對抗して飽までも眞正なる世界平和、眞正なる人道の立場に立つて、敵に對して何處までもフェーア・プレーを以てすべきことを徹底的に主張するにありと公言して居つた。が、吾輩の此希望は一も實現せらるゝを見ない。日本は只自國の問題のみを提出して、それすらも散々な目に遭つて辛じて體面を得たに過ぎない。日本といふ自家の立場以外に世界全體の上から打出した大主張に至つては、日本は少しも與る所がなかつたのは、世界に於ける日本の存在を殆んど無意義ならしめたのであつて、深く遺憾とせざるを得ぬ。併し過ぎた事は仕方がないとして、敵なる獨逸にあの樣な苛酷な條項を强制せんとする、其の精神が世界に勝を占めんとする事は、他の國の立場としても絶大なる危險を意味して居ると言はねばならぬ。之は決してひと事ではない。情は人の爲ならずといつた如く、フェーア・プレーといふ事はあいみたがひである。獨逸に苛酷な條件を强ふる勿れといふ事は、他の何れの國にも之を强ふるなからしめんが爲めである。然るに一度び獨逸に對してあの樣な苛酷な條件を課する事が公認せられるとすれば、向後同じ樣な場合が起れば同じ樣な事が起るものと思はなければならぬ。何れの國も獨逸の如き軍國主義の國となることはあるまいけれども、萬一野心ある政治家の爲めに誤られて、獨逸に類した事をやるとすれば、その結果は再び公認せられた此の苛酷主義が、其國に適用せらるゝものと覺悟せねばならぬ。之は日本に於ける軍國主義者にとつては此上もない好い警告である。獨逸の眞似をやればその結果は、斯くのごとくなるといふ實に惻然として怖れても及ばざるところの實例が打ち立てられたのである。之は消極的に

誠に結構な事であるが、併し左様な極端な場合にならなくとも、假りに日本が向後非常な勢を以て其の力を増し、其の富を増すものとすれば、自ら列强の嫉視を蒙ることゝなるのは勿論であらう。其嫉視は一度び世界の表面に於て是認せられた殘酷主義の應用となるなきを保せないのである。ひとり日本のみではない、世界の何れの國でも同樣の覺悟を以てかゝらねばならぬ。卽ち吾輩が之はひと事ではないといふ所以である。

今は獨逸に對してそれでよいと言つて居る世界の列國は、他日或は己れが今日の獨逸の地位に置かれる事がないと斷言することが出來ないのである。殊に經濟的に孤立せしめられること、換言すれば國民が餓鬼畜生道に追ひ込まれることの危險は、向後永く世界の表面に横はつて來ることを是認せられた譯である。日本の樣な島國に於て之が何事を意味するかは、吾輩の此處にくだ〳〵しく說明するを要せざる所である。支那の如き大陸國といへども此運命を免れない。亞細亞、亞米利加、亞弗利加、否歐羅巴の國々といへども、經濟的孤立を以て脅かさるゝことは、獨逸の軍國主義の危險どころの騷ぎではない。軍國主義は事實戰爭のみに限られて居る。經濟的壓迫主義は戰時平時を通じて共に國民全體を脅すものである。正義人道の上から軍國主義が呪はるべきものならば、此の經濟的壓迫主義は更に更に呪はるべきものである。國內に於けるオートクラシーがいけないと言ふが、世界的の經濟的オートクラシーは更に之に數十倍するものである。思へば恐ろしい運命に世界は步一步陷りつゝありと言はねばならぬ。之れ吾輩が暗雲今や世界を鎖ざすと繰返し絕叫せざるを得ぬ所以である。

此文に對照して後段一三四五頁掲載の『唯一條の光明』を參照せられむことを望む。

（大正八年七月『中外新論』掲載）

## 二　世界を欺く者は誰ぞ

今日國際聯盟と云ふことが、既に出來上り掛けて居ると云ふことは諸君が御承知の通りであります。私は從來國際聯盟と云ふことに對して全く否定的な言を發して居りま

す。所が國際聯盟が出來ましたと云ふことで、それ見た事か、汝等はそんなものはいけない、或は出來まいなどと言つて居つたが出來たではないかと云ふやうな、特に私へ向けて名差しての御批評でありませぬが、大分さう云ふ事が彼方此方に見えて居ります。私はそれに對して今晩御答を致したいのであります。私が考へた如く、或は私のみならず大分さう御考になつた方があるが、國際聯盟といふものが出來損ふか或はまるで出來ないかであれば今日よりは尙結構であると思ふ。今日出來たのは私共が恐れたよりも尙惡くなつて居る。全然出來なかつたならばまだ宜かつたが、出來た爲め實に日本として厄介千萬な事になつたと私は考へて居ります。日本では私共がさう考へることを以て固陋な考であると云ふやうに考へられるのであるが、さうでない所の證據に、此處に五六冊の英吉利の雜誌三四冊の亞米利加の雜誌を持つて來ました。其中で最も正直に告白して居るのを一寸讀上げて見たいと思ひます。

第一は最近手に入りました、昨年十二月二十八日のステーチストと云ふ雜誌であります。其の論說欄に『他人が吾人を見る如く』As others see us といふ論文が載つて居りま



す。其全體の趣意は卽ちリーグ・オブ・ネーションスに徹頭徹尾反對するにある。ロイド・ヂョーヂは一體自由黨に立脚して居りながら、政略上保守黨の團結の力に依つて表面は成程非常な優勢を占めた、彼の政治上の地位は固い樣に見えて居る、併し乍らそれはロイド・ヂョーヂに取つては成程勝利であるかも知れないが、英吉利に取つては大なる禍である。去るべき者は早く去つて呉れた方が英吉利の爲には宜いのである、彼が無理に政權に與つて居たい爲めに、自由黨に立脚地を持つた人でありながら、反對黨の力を借りて無理にやつた結果として、是から保守黨の人氣を取るべく大分保守的政策を執るに相違ない。併しながら、其總てを以てしても尙もつといけない失策は、國際聯盟に深入りした事である。何故ならば、國際聯盟と云ふことは吾人を拘束して、將來何年かの間一定の行動範圍以外に出でざらしむる事である。然るに世界は常に進步しつゝある、變化しつゝある。英吉利は今日の儘で居られないのである。それを今自分の政權を維持することに日も維足らない所のロイド・ヂョーヂが其立場から國際聯盟に熱心して、之を使つて英吉利の將來を縛つてしまつた。自分の國を縛つたのみならず他の國も縛つてしまつた。

それが將來の爲め利益になれば宜いけれども、吾人の見る所では決して利益にはならない、是は非常にいけないことである。斯う云ふのであります。私は決して誤譯も曲譯もして居ない證據には、一寸原文を讀んで見ます。

We look upon a League of Nations as most dangerous—as almost certain to end in reaction, despotism, and a war even more damaging than that from which we are just emerging. (Statist p. 1195. December 28, 1918.)

『吾人は國際聯盟を以て危險なるものと認む、吾人は國際聯盟を以て今將に免れ出でんとしつゝある所の戰爭よりも、尙人類に危害を及ぼすべき戰爭を惹起し、反動と專制の時代に終るの外なき時代を開くものと認む』。斯う云ふのであります。斯く申すのは純粹の英吉利人でありまして、而も決して過激な言葉をする人ではない、英吉利に於て押しも押されもせぬ第一流のギルト・エッヂと申す可き經濟雜誌の主筆記者が、論說に於てさう明言して居るのであります。私共が若し日本に於て之と同じ文句を飜譯としてゞなく、自分の言葉として言つたならば、今日では大分贊成を得られるかも知れないが、今より一月前に之を言つたならば、愈々以て我同胞は私を以て英吉利嫌ひの氣違であると罵られた事であらうと思ひます。所が英吉利人はそれを倫敦の眞中で活字に刷つて發行して、日本まで來ることを政府が少しも禁じて居ないのであります。國際聯盟と云ふことを否定でもすると、其人はまるで世界の大勢に通じないか、若くは非常な固陋である或は軍國主義者であるかのやうに罵られて居るのが例である。今其例を持つて來るのを忘れましたが、私は其方々に伺ひたい、英吉利人が言ふ位のことを日本人が言つたつて私は差支ないと思ふ。それ以上のことを決して言ふのではありません。次に又是非申上げて置きたいのは次の一節であります。同じ記者が申しますのは

It is clear, therefore, that all our present evils are the consequense of the mismanagement of the idle rich. (Ibidem)

英吉利が今日のやうに墮落するやうになつたのは、畢竟は惰けたる所の金持階級、簡單に言へば惰富階級の失策の結果である。

We want an end of all that..... Hitherto we have acted as if the idle rich, whom



F. VI, 65.

unfortunately we trusted with the management of our affairs, delighted in setting religion against religion, and neighbour against neighbour……The surest way of ending that is to get rid of the idle rich. ……

吾々は此等總てが終局せんことを希望する、吾々は惰富階級でもないのに、惰富階級になつたかの如くに其心持で今日までやつて居つたが、惰富者が惰富者らしくやるなら又勘辨するが、惰富者でない者が惰富者であるやうな惰け方をして居ると云ふのは大變な間違であると申して、其匡正法が書いてあるのであります。さうして又た他の所に左の通り書いてあります。

But unfortunately, we cannot refrain from adding that Mr. Lloyd George, in calling into council with him the reactionary party, is doing his best to injure the country and the Empire. (p. 1198. Ibidem.)

不幸にして吾々は斯う云ふ結論に到達することをどうしても辭することが出來ない。ロイド・ヂョーヂ君が彼の勢力を維持する爲めに、反動的の黨派の人々を味方に引入れたといふことは、彼は英國と帝國とを害すべく彼の最善を盡くしつゝあるものなりとの事是であると云ふのです。國の爲め最善を盡したのでなく、國の害の爲に最善を盡しつゝある事是であると書いてあります。私は隨分ロイド・ヂョーヂ君の惡口を言ひますが、ロイド・ヂョーヂは彼の國を滅すべく最善を盡しつゝあるなどとの思切つたことを言つた事は未だありません。然るに斯くの如き言が而も一千九百十八年十二月二十八日、國際聯盟と云ふ問題がどん〳〵進行して居る間に英吉利に於て書かれたのであります。諸君、何卒篤と御勘考を願ひます、猶此外にも英吉利のものも色々持つて參りましたが、其は略して今度は亞米利加に就て申上げます。

此處に紐育で發行するゼ・ニユウ・レパブリツク『新共和國』と云ふ雜誌があります。米國は日本へ近いから英國のより少し新しいのが來て居ります、即ち一千九百十九年一月十八日の發行に係るもので、私は極めて新らしいものを持つて來て、御取次を致すのであります。其一月十八日のゼ・ニユウ・レパブリツクに The Supreme Issue『最重要問題』と云ふ題で、チヤールス・ベーアドと云ふ人が短い論文を書いて居ります。チヤールス・ベーア

ドと云ふ人はコロムビア大學教授で政治學の泰斗であります。彼は熱心に獨逸に對して開戰すべしと主張した論者であつたのですが、之に反對する所の同僚教授が其の反對論を述べた爲に大學から免職を食つたので、大學教授の言論を壓迫するのは怪しからぬ、自分は其人とは全然正反對の意見を持つ者であるけれども、斯樣な大學教授を職人として扱ふ樣な大學には一日も居られぬと云ふので、非常な長文の辭表を叩付けてコロムビア大學を罷めた硬骨學者であります。其顚末の大要は私は其頃の『大日本』と云ふ雜誌に書きました。或は御覽になつた方があるかも知れませぬが、亞米利加が自由だなどと言つて居るけれども、日本などよりはもつと言論を壓迫して居ると云ふことを申上げる爲に、其一例として一寸其時起つた例として書いたのであります。所が廻り廻つて同じベーアド先生の論文を、今日此の黎明會の席上に於て紹介することになつたのであります。扨て其のベーアド先生の最重要問題の第一に曰く

To release political prisoners whose offense was to retain Mr. Wilson's pacifist views after he abandoned them. p. 343.

と云ふのであります。是れを當り前の日本語に意譯して言ひますと、正直にウヰルソンの平和論を信仰して、さうしてウヰルソンが變節改論した後も、尙元のウヰルソンの議論を主張して居た人々が、ウヰルソンが變節改論した後引捕へて牢屋に放り込まれて居るが、其の人々を直に解放する事と申すのであります。是は隨分皮肉ではありませぬか。英語で書いてあるから一寸吾々には左程皮肉に聞えませぬが、其意味を言へば甚だ皮肉であります。第二は略します、第三は

To release American citizens held in the interest of foreign governments for interpreting Mr. Wilson's "liberty, self-government, and undictated development" to mean a curtailment of British dominion in some parts of the earth. (Ibidem.)

是れはもう少し猛烈であります。外國政府の利益の爲めに今ウヰルソンの所謂自由、民族自治强制せられざる發達云々の主張を、地球の或部分に於ける所の英吉利の專制を奪取ることを意味するべく解釋す可く保持せられて居る事から、亞米利加の市民を解放する事。直譯で分らないが當り前の日本語で言ふと、ウヰルソンが自由の、民族自治の、强制

發達のと云ふことを言葉通りに解釋してはならぬ、此は必竟外國政府の利益の爲めに英國の權力をチョン切ることゝ解釋す可きであると强制されて居ることから、米國市民を解放することゝ云ふのであります。何と皮肉ではありませんか。否ウキルソンの民族自治は英國をチョン切る計でなく、日本から朝鮮や臺灣をチョン切ることにも解釋せられさうな危險は、我々の眼前に横たはつて居るのであります。

第四には、To remove the blighting hand of the post office censor from political publications. (Idiben.) 郵便局が書狀を開封して檢閲することを全然廢して貰ひたい。第五には法廷が今日全く政治上の理由に依つて左右せられて居るのを解放して貰ひたい事。第六には戰爭の間一切停止せられて居る所の言論集會の自由を回復する事。以上六ヶ條であります。ベーアドと云ふ人は決して獨探でもなければ和探でもなければ何でもない。忠實な亞米利加人で而も亞米利加に於て有數なる政治學者で、亞米利加第一流のコロムビア大學の教授を此間までして居つた人であります。私の書いたものに對して經濟上の議論は貴樣から聞くが、經濟問題以外に口を出して亞米利加を批評をするのは以ての外の事だ、と云ふ御議論が或英字新聞に書いてありましたが、それでは、私は日本人で經濟學者であるから、亞米利加の政治を論ずることを止しまして、其代りに亞米利加人でさうして政治學者であるベーアドの言ふことを、亞米利加の政治を論じて斯の如く言つて居ることを以つて私の言に代へませう。其れで果して如何でありますか、私を非難した某英字新聞は之に對して何と申さるゝか伺ひ度いものであります、私は特にウキルソンを攻擊する爲に擇んで來たのではない、數ある雜誌の中に於て集めて見ると斯う云ふのがある。諸君『タイムス』新聞しか讀んでいけないならば別問題である。『マンチエスター・ガーヂアン』の外讀んでいけないのならば別問題である。然らざる限り吾々は眼を持つて居ます。英吉利人がロイド・ヂョーヂに對し、亞米利加人がウキルソンに對して、斯くの如き言を發して居るのを讀むことが出來ます。即ち亞米利加の國論、或は英吉利の國論なるものが、必ずしもロイド・ヂョーヂ、ウキルソンに依て代表されて居ないと見なければならぬ。而して此批評は唯一つの例を擧げたのでありますけれども、私はもつと例を擧げる事が出來る。即ち『リーグ・オブ・ネーションス』などと云ふものは、決して本當の永久

の平和を持來す者ではないと云ふ事は、今日以前に於て既に英吉利、亞米利加に於て聞いて居るのであります。然らば吾々日本人に於てそれを取るか取らないか勝手である。必ずしもロイド・ヂョーヂが云ふ事だから是非信仰しなければならぬ。ウヰルソンの言つた事だから何でも金科玉條と仰がねばならぬと云ふことは少しもない。のみならず、現に出來上つた所の國際聯盟の箇條を御覽になれば、少しも日本に發言權を與へて居ない、日本などと云ふものは少しも彼の中に入つて居ない。日本の委員が行かなくても彼の位なものは出來る。詰り我々は委員諸君の旅費だけ損したに過ぎないのであります。唯若干の外務省の老朽若朽連がゾロ〳〵と巴里へ行つて、佛蘭西語が出來ないで間誤付くと云ふだけの事である。それだけならば入費が少いから宜い。西園寺侯が灘萬の親爺などを連れて行くのはいけないと言つた人もあるが、灘萬の親爺を連れて行く位の事はどれ程の經費でもない、序に天プラ屋の爺でも蕎麥屋の爺でも連れて行くが宜い、其損は知れたものであります。然るに日本の蒙る損は迚も其れ所の話ではない、夥しい戰費は全部フイになつてしまふ、私は日本が獨逸に對して戰つたのは間違である、戰ふのではなかつたと私は始終言つて居る。まあ戰つた以上は仕方がないとして、然らば何の爲に戰つたかと云ふ事を考へ、而して其得た所のものは返さないと云ふ覺悟がなければならぬ。さう言つたら是は軍國主義だと云ふ批評を下さつた方があつたが、併し得た所の島を無慘々々返してしまふならば何の爲に戰つたのである、それも何處の國も取らないならば公平で我慢が出來ますけれども、他の國は取つて日本は取らないと云ふ道理は毛頭ない。若しも夫が日本人の事を考へないで、もう頭が日本人でなくなつて居る人ならばさう思ふのが當り前かも知れない。民族自決主義とか、或は無併合無賠償とか云ふ特別に外國で拵へた言葉で頭を變へてしまつたら、是は別問題でありますけれども、そんな拵へた言葉を以て頭を詰めて居らない所の當り前の日本人、特に屁理窟に依つて揑ね上げた人でない日本人は、今度取つたマーシヤル、カロリンを返すと云ふことは、それは馬鹿々々しいと誰も言ふのであります。尾崎行雄さんは頻りにそんな小さな島を貰ふことは要らぬと主張せられて居るさうであります。併し乍ら尾崎さんは先づ佛蘭西に對し英吉利に對し亞米利加に對して、何物も取るなと說いた後、最後に吾々日本人に左樣云ふこと

を聽かして下さるなら伺ひます、幸ひ同先生は歐羅巴へ行かれるさうでありますから、一つ盛んにやつて下さいまし、通辯の駐りしたのを連れて行つて間違なく飜譯して貰つて駐り御賴みしたいものです。其をなさらないで日本人に向つて、日本人たる尾崎さんが小島などを取るなと計り仰せられたのは、斷じて承服することは出來ません。少くとも私一人は尾崎さんと立合演說でも何んでもして其非を鳴らします。

普通選擧權に就ても尾崎先生は世界の大勢が段々デモクラシーになつて來る、殊に國際聯盟には日本は是非入らなければならぬ、國際聯盟に入らうと云ふにはせめて普通選擧となつて居なければ、迚も一人前の交際が出來ないと說かれて居ります。是は實に飛んでもない愚論駄論と斷言せざるを得ぬ。尾崎さんは果して日本人として御考になつたか否かを疑はざるを得ぬ。恰度條約改正の時に於きまして、條約改正をするのに日本の商法民法、斯う云ふものがなければいけないと云ふので大急ぎで之を拵へた。出來たことは出來たけれども大急ぎで飜譯したので、取調が不十分だから尙早派だの延期派だのと方々で大騷ぎをやりました。初めて佛蘭西の民法を飜譯してやつたが、それがいけないとて今度は獨逸流にするガタ〳〵やつて今でもガタ〳〵〳〵やつて居る、此意味では故穗積八束博士が『民法成つて忠孝亡ぶ』と絕叫せられたは大に玩味す可きと存じます（但し私は博士とは決して同論ではありません）。總て西洋人に能く思はれたいと其の眞似ばかりするのは、恰度田舍から出て來た女が東京人に好く見られたい爲に、無茶苦茶に白粉を顏に塗つて居るが手を出して見ると眞黑である。日本が西洋の眞似をして白粉を塗るのは宜いが、唯顏ばかり塗つて見ても、往來を歩くと人が笑ふ。尾崎さんの言はれることは失禮であるけれども、恰度田舍娘に顏を塗らせる工夫であります。此くの如き御考の尾崎さんとは私は迚も一緒になることは出來ないと考へましたから、國際日本協會の御招きは卽時に御斷りを申上げた次第であります。私は衷心から切望します、國際日本協會の諸君は、右の如き合の子的頭腦を根本的に一洗して、而して後黎明運動に從事して頂きたい、然らざれば寧ろ私共は撲滅の對象として諸君と對抗す可き必要を見出すに至るでありませう。何となれば、日本人が日本人として物事を考ふるにあらざる以上、其は危險を包藏すると私は確信すること、前回に申述べて置いた通りであるから

であります。

そこでもう時間がなくなりましたが、仕舞に私の謂ふ世界を欺く者は誰ぞ。斯う問を出します時に答は直に分つて居る、卽ち英吉利と亞米利加である。此英吉利と亞米利加の各代表者はロイド・ヂョーヂとウヰルソンで、さうして欺かれると云ふことは、今日日本人に大分判りつゝあるだらうと思ひます。尙時が經つに隨つて私はもつと明になると思ひます。恐らく極めて近き將來に於て、日本が騙され世界が騙されて居たと云ふことが明になると思ひます。特に申上げて置く事は、將來此國際聯盟に加はらない國なり、或は是れから脫退する國に對して、エコノミツク・ボイコツトを以て之に對抗すると云ふことを、彼等が力說して居ることであります。是は實行するか否か、兎に角さう言つて脅して居ります。戰はしない、國際聯盟は戰をしない爲めに拵へたのだから戰はしないが、併ながらエコノミツク・ボイコツトをする。又獨逸に對しても國際聯盟に反對したならば、エコノミツク、ボイコツトをすると言つて居ります。佛蘭西は多年の願望を玆に達して、アルサス・ローレンスを取りたいと云ふのに亞米利加は反對して居る。佛蘭西が之を言ふのは極めて正直で宜い。何の爲に戰つたか、佛蘭西はアルサス・ローレンスが欲しいからこそ非常な骨を折つて戰つたのである。極く正直に欲しいと云ふことを言つて居る、私は洵に宜いと思ふ。それはもつと立派なことを言ひたいには相違ないけれども、事實心に思つて居る事を口に出さず嘘を吐いて欺くのはいけない。佛蘭西は世界を欺いては居ないのである。所が正義人道無併合無賠償を高唱しつゝ賠償以上のものを賠償せしめ、併合以上のものを併合する、卽ち國際聯盟と云ふ併合をやるのは人を欺くに當ります。小さな島の一つや二つ打棄つても宜いが、島は二つとも取れないのみならず、全部併合してしまふと云ふのは、日本に取ては甚だ迷惑な話である。無併合無賠償と云ひますけれども、實は一種の併合であります。卽ちボイコツトに依て經濟上に於て虐めるぞと云ふ事は、例へば日本の如きには非常な威喝であります。既に戰爭中亞米利加から物資が來ないで、彼の鐵船交換問題などで非常に吾々が苦痛をしたことがあるから、日本人には此威喝が非常に利くのであります。又威喝を半分と聽いても、半分でも三分の一でも實行されたら日本は實に困る。日本は戰は可成强いけれども經濟上に於ては弱い。經

濟上に於てボイコットをせられると云ふことは、獨逸が辛いよりも佛蘭西が辛いよりも英吉利が辛いよりも誰が辛いよりも、日本は辛い。國際聯盟に是非入れ、入つても日本の要求と云ふものは其中に少しも現れて居ない、併し入らなければボイコットをすると云ふことは、啻に世界が欺かれたのみならず、其欺かれた中でも一番馬鹿を見たのは日本と云ふことになる。私共はさう考へて居るのであります。

是は黎明會の講演として甚だ可笑しなことのやうでありますが、其點は豫てから自分は杞憂になれかしと思つて居つた事を、今日では杞憂でなくして、日本は洵に迷惑であると言つて仲間を脱ける事も出來ない破目になつてしまつた。此困難重出の際に當つて、日本國中に黨を樹て異を挾んで、國體の擁護をするなどと云ふ馬鹿々々しいことに浮身をやつして、國力を割くと言ふが如き、愈々以て危險で、即ち頑冥思想の撲滅の急務と云ふ事が、今度の國際聯盟の案が發表せられたるに就て餘計に痛切に感ぜられますから、黎明會講演としては甚だ不適切な御話のやうでありますけれども、開會の辭に附加へて一寸其事だけを申上げて置くのであります。猶洩れた點は追々に詳論したいと存じます。

今晩はホンの前座の御話として是れで御免を蒙ります。

＝大正八年三月黎明會講演全四月全講演集第二輯掲載＝

附言　左記書簡は未見未知の在米一同胞より中央公論社氣付小生宛にて今日接手したものである、私簡を無斷にて公表するは宜しからざれども、在米國の仁にして猶斯く考へらるゝ人あるは、予の持論に有力なる左券たる可しと信じ、發信者の姓名だけを省き、其全文を玆に掲ぐることゝしたのである。

猶外にも在米、在歐の未見の同胞より略々同樣の激勵の書狀に接したこと、過去二三年の間には尠からぬことも申添へて置く。（八、三、八、附記）

前　略

毎月中央公論誌上に於て先生の御高論に接して快哉を叫び居申候一般に內地人の思想が著しき變動を起して彼の世界の模範空想家ウイルソンの所謂自由主義又は民本主義、即ち實際の假面的軍國主義に幻惑せられ確實なる國家主義を反駁するに至りしは最も遺憾とする所に御座候。

此時に當り先生の如き憂國の學者あるは不肖萬里の海外にありて國を憂ふるの者に取りて百萬の味方を得るの心地致申候本日の新聞によればウイルソンは米國海軍大

擴張案の通過に佛國より祝電を寄せたりと有之候實に僞紳士にして迚も國際聯盟等を擔ぎ出すの資格なきものと認め申候。日本の南洋諸島占領に反對ならば先づ布哇、比島の獨立は勿論の事カリフオルニアは墨國に返却し米國人は合衆國をアメリカンインディアン族に讓渡してサツサと英本國に歸還すべきが當然かと存申候、故ルーズベルト氏は南洋諸島の日本領有は當然の結果なりとしウイルソンの國際聊盟を以て狂人の夢なりと評せしは適論なりと存申候

六十の坂を越えて未だ鼻下甚だ長く妻君の虚榮を滿足せしめんが爲めに一身を賭してての渡歐は天晴なるも講和會議に大々的の味噌をつけて歸國の事は今より見破られて實に哀れなものに御座候。

來る七月より米全國をして禁酒せしむべしと申居候何でも突飛にさへあらば名譽なりと考ふるウイルソンに取りては或は理想ならんも實際に於て數千年來の習慣を一朝一夕にして破壞し去らん事中々の困難事にしてこれが爲めに種々なる惡習を惹起すべきは明々白々の事實に御座候。一時禁酒せよといふは尙ウイルソンに向ひて御前の鼻下を今日より短かくせよといふに等しく到底實現し能はざるの事に御座候。

ウイルソンの寢言は聽て朝鮮の獨立問題となり、支那の對日本要求となり伊太利對ユーゴースラブの爭鬪となり世界至る所暗澹として世界的の大不安を漲らし申候。實にウイルソンの如きヒポクリテイツクなる人士を統領とする米國を模倣するは男性的直線的なる獨逸軍國主義を學ぶよりも數千倍の危險を感ずる次第に御座候。

實にウイルソニズムはミリタリズムよりも危險にして愚生をして言はしめばウイルソンは世界人道の敵世界平和の攪亂者にして同時に米國々家の破壞者に御座候。來るべき大戰もウイルソンによりて數年の期間を早められたものと信じ申候。亂筆のまゝにて一言申上候益々御自愛國家のために御盡瘁の程奉願上候。匆々頓首

二月七日　紐育にて

福田先生

○○○○

# 三　如何に改造するか



F. VI, 66.

## 一

今日の御話は二つの目的を持つて居ります。一つは前會吉野博士から段々私に對して御批評も戴きました、之に對して御答して置く必要があると思ひます。もう一つは第一回講演會に於て『國本は動かず』と云ふ御話を致した最後に、吾々の社會改造の前途には大きな障碍物がある之を取除ける爲めに、若し日本の國本に動搖を來す樣な事があるならばいけない。然るに私の信ずる所では此障碍を取除ける爲に日本の國本は益々發揚せらるゝ、否日本の國本を發揚すると云ふ事は、來るべき世界に於て此障碍を取除くと云ふ所から必ず始まらなければならぬ、斯う信ずる所以を申上げました。然らば其障碍を取除くと云ふ事はどう云ふ事であるかは、何れかの機會に申上げると云ふ御約束を殘して置いたのです。今日は其約束の一部分を果したいと思ひます、其全部は追々に申上げる事としなければなりませぬ。何故なれば色々の問題がありまして、一回の御話ではそれは出來ないと私は思つて居るのです。別々に分けて、どの點が吉野博士に答ふる點、どの點が前會の申殘した事を充たす點であると云ふ樣に分けては申上げませぬ。如何に改造するかと云ふ事に就ての私の考を申上げれば、是が兩樣の目的を達する所以になると思ふのであります。

## 二

前會の御話に對しまして戴いた批評の中、私が日本人として考へる時には如何なる思想も危險でないと申した、又吾々が考へる時既に日本人であると申上げた、是がまだ十分に說明がしてない、と云ふ御非難を承はりましたが、如何にも御尤な事と思ひます。また第二には吉野博士は私の言ふデモクラシーと云ふ事の意味が少しく可笑い、殊にソーシアル・デモクラシーに對する見解が、例へば室伏高信君が批評したやうに間違ひではないが、畢竟唯名前の相違で、福田君はそれをソーシアル・デモクラシーと名付ける、我々は名付けないと云ふ點にある。斯う云ふやうな御話があつたやうであります、さうしてそれに續いて第三には福田は、經濟上のデモクラシーでなければいかぬと言ふが、畢竟それは同

じ事になるではないか。若し善政と云ふ事がデモクラシーと云ふ意味であるならば、吾々卽ち吉野博士も無論善政を主張するのであると云ふ御話がありました。是れが今日の御話の一點であります。

## 三

先づ事實の點から訂正を致して置かなければなりませぬ。室伏君の私に對して下された批評で、吉野博士が之に裏書をせられたことは、今や當に獨逸の最大政黨になつて居る所の社會民主黨と云ふものは、是はうそのデモクラシーであると私が主張した。何故うそのデモクラシーであるかと申せば、是は總ての人民のクラシーではない、其デモクラシーは一部分の階級を指すに外ならぬ、恰も英吉利、亞米利加で今日までやつて居る所の政治上のデモクラシーと云ふのは、金持のクラシーであつて全人民のデモクラシーでなく、ソーシアル・デモクラシーは貧民政治、第四階級のクラシーである、故にうそのデモクラシーであるのと同じである。卽ち我々は今右を見ても左を見てもうそのデモクラシー計であつて、本當のデモクラシーと云ふものは、吾々が向後新たに見出し新たに建設しなければならぬものである。斯う私が申したのである。之に對して室伏君が福田が獨逸の社會民主主義は全人民のクラシーでないと言つたのは、明に事實の誤謬であると云ふことを或る雜誌に書かれました、それは私も慥に讀みました。併しそれに對して私は何等の駁論もしない、何故しないかと言うと、地球は太陽の周圍を廻るものであるのに、太陽が地球の周圍を廻ると云ふ者に對してそれが誤謬であると云ふ說明を、小學校の生徒に向つてなら爲すべきでありますが、室伏君の樣な卓越な識者に向つて申上げることは、如何にも愚の至りであると存ずるからであります、私は割合に閑な人間でありますが、併し左樣な詰らぬ事に費す時間は幸ひに持つて居りませぬ。そこで私は室伏君に對して御答しない。平素室伏君の御議論には深く敬服して居りますが、此點に就ては除外例を求める外はないのであります。恰も吉野博士が第三階級と云ふのは勞働者階級であると始終言つて居られる通りであります。吉野博士の例に倣へば、或人が鼻を口と呼ぶ。其れは間違つて居ると申すと、否己れは昔から鼻のことを口と名づけて居つた、鼻と云はうが

口と云はうが人々の勝手であると云ふやうな話であります。社會民主主義と云ふものは、是は決して私が勝手に命名したものではない、鼻の下に口があるか口の上に鼻があるかの問題ではない、私は鼻を鼻と呼び口を口と呼ぶのです、吉野博士はソレはイケない、少くとも己れは大學の講堂に於て常に鼻のことを口と呼び來つた、世界中一人の取除なく鼻を鼻と呼ぶのではないとは斷じて疑を許さないと仰有るでせうか。獨逸に社會民主黨Sozialdemokratische Partei と云ふ立派に名を附けて、世界中に認められたものがあるのです。決して私が勝手に付けたのではない、而も此頃出來たのではなくとうの昔に出來て、自ら社會民主主義と云ふ名を付けて之を標榜して居る、世人も一樣に之を認めて居る。然るにそれはソーシアル・デモクラシーではない。ソーシアル・デモクラシーは斯う云ふものでなければならないと吉野博士が仰有るのは、己れは昔から鼻のことをいと呼んで居たと仰せられるのと同じであります。既に三十年來社會民主黨といふ看板を掲げて自らも之を稱して居るものがある。其事實に就て私が言ふのである、決して私一人の解釋でも何でもない其社會民主黨の標榜して居るプログラムがあります、屢々修正になつたものであります。其最後に確定した綱領を御覽になると、私が言つた通りに彼等が言つて居ります。自ら社會民主主義者と言つて居る人が、吾々が傳ふる所吾々が主張する所は斯うだと言つて居るのであります。其原文を左に掲げませう。

Diese gesellschaftliche Umwandlung bedeutet die Befreiung nicht bloss des Proletariats, sondern des gesamten Menschengeschlechts, das unter den heutigen Zuständen leidet. Aber sie kann nur das Werk der Arbeiterklasse sein, weil alle anderen Klassen, trotz der Interessenstreitigkeiten unter sich, auf dem Boden des Privateigentums an Produktionsmitteln stehen, und die Erhaltung der Grundlagen der Gesellschaft zum gemeinsamen Ziel haben.

Der Kampf der Arbeiterklasse gegen die kapitalistische Ausbeutung ist notwendigerweise ein politischer Kampf. Die Arbeiterklasse kann ihre ökonomischen Kämpfe nicht führen und ihre ökonomische Organisation nicht entwickeln ohne politische Rechte. Sie kann den Übergang der Produktionsmittel in den Besitz der Gesamtheit nicht bewirken, ohne in den Besitz der politischen Macht gekommen zu sein.

*Diesen Kampf der Arbeiterklasse zu einem bewussten und einheitlichen zu gestalten und ihm sein notwendiges Ziel zuweisen—das ist die Aufgabe der sozialdemokratischen Partei.*

例を以つて申せば、吾々黎明會が綱領三則を擧げて之を掲げて居る以上、此處が惡い彼處が惡いと言つて御批評下さるは難有い、然し吾々の主張は此の三則であると云ふこと丈けは御信用下さらなければ御話が始まりません。社會民主黨が悉く皆さう言つて居ること丈けは、如何しても否認することは出來ません。是は解釋の問題ではない、單純明白なる一の事實であります。

社會民主黨は明にプロレタリアの階級一勞働者階級——第四階級が天下を取ることを以て其任務とすと明瞭に言つて居る。其でなければ社會民主主義ではないのであります。卽ち第四階級が天下を取る事を名づけてソーシアル・デモクラシーと言ふので、其外に社會民主主義なるものは世界に存しないのであります。其はソーシアル・デモクラシーでないと吉野博士が仰つても、世界に通用致しません。又た是は諸君も必ず御承知の事であります。卽ちマルクスとエンゲルスが抑も此社會民主主義の初めての運動を起した時に、天下に公表したものは所謂『共產宣言』であります。是は日本語にも飜譯されて居ります。近來河上肇君が之を雜誌に精細に掲げて居る。併し元來は餘程以前に堺利彥君等の邦譯したものである。其共產宣言の一番終りに

Proletarier aller Länder, vereiniget euch!

總ての國の第四階級よ汝等結合せよと書いてあります。何の爲めに第四階級のみに結合せよと言ふか、總ての國の民よ結合せよと言ふのではない、總ての國の第四階級よ結合せよ。第四階級よ他の階級に對して階級鬪爭を開始すべく結合せよと云ふのであります。是れ位明かなる證明はない。故に室伏君が何と言はれやうが、吉野博士が如何に熱心に裏書をせられやうとも、右の綱領や共產宣言が存在して居る限り、室伏[illegible]行吉野裏書、福田宛の此手形は甚だ御氣の毒乍ら不渡處分をする外はありません。

而して實際の事實は如何にと云ふに、實際の事實は獨逸に目下革命がある、是は獨逸社會民主主義の革命でありまして、其の革命の成功と否とは社會民主主義の勢力如何に因るのであります。又露西亞に於きましてはレニン、トロツキーの下に於て明に第四階級

の獨裁政治と云ふものを標榜し且既に實行しつゝある。第四階級プロレタリアの階級が共權力を握つて其理想を實行してをります。唯其統裁力が弱いものだから、聯合國などから干渉を受けて居るに過ぎない、獨逸に於ても今色々爭つて居りますけれども、畢竟は第四階級の獨裁政治にならうとするので、スパルタクス團は今直ちに第四階級の獨裁政治を實現しなければならぬと云ふのです、之に對して今直ぐ之を認める事は不得策である不利益であるが故、漸次に其態度を執らうと云ふのがエベルト、シヤイデマン派の考である。兩者の間には唯だ緩急の差があるのみで、主義に違ひがあるのではありません。主義とする所は、凡てのソーシアル・デモクラツトを通じて第四階級が天下を取ると云ふことに限られて居るのであります。故に私はソーシアル・デモクラシーとは社會主義實行上の一の手段である、社會主義其ものは其他にイクラも違つた手段を取ると申したのであります。斯の如き明かなる世界的の事實を福田が勝手の解釋だと言ひ、名前の附け方に過ぎぬと言ふのは、地球の周圍を太陽が廻つて居ると云ふのと殆ど同じ程度の思想に屬すると言つても、決して過言ではないと信ずるのであります。

過激派と言ひ穩和派と言ひますが、日本で勝手に過激派、穩和派と云ふ名を付けたのであります。過激派とは露西亞で言ふマキシマリスト、ボルシエヴキキの事で、是は最も純粹な社會民主主義であります。決して無政府主義者ではない。サンジカリストでもない。又たトルストイの如き淺薄な空想とは何の緣もありません。彼等が主張する社會民主主義、最も純粹の非妥協的、非讓步的の主張であると云ふに過ぎないのであります。之に反對する所の者は、斯の如き社會民主主義を否認するのではなく、社會民主主義の實行をどうしようかと云ふに就て曖昧な態度を執ると云ふに過ぎない。卽ち政治家なり或は人として卑屈なる連中と言はなければならぬのであります。さうして此態度の違が、純粹に表面標榜した通り直ぐ端的に行はふと云ふのと、其は先づ時機を見て徐ろにやるべきだと云ふ漸進派との爭ひで、彼等の爭ひはプリンシプルに就ての爭ひではなく手段に就ての爭ひであります。態度の問題であります。此態度が如何になるかは重大である、併しながら何れにしても此穩和派でも過激派でも、均しく第四階級が社會を支配する事を名けてソーシアル・デモクラシーと言つて居るのです。言ひ換れば、プロレタリア

ン・デモクラシー Proletarian Democracy である。唯だプロレタリアンと云ふと言葉が長くもあり語呂も惡い、又餘り人口に膾炙して居ない。今日では餘り人口に膾炙して居ない語は迚も一般運動に伴はない、そこで、ソーシアル・デモクラシーと云ふ一般に知れ過ぎて居る字を借りて來たのである。實はプロレタリアン・デモクラシーと言はなければならぬ、プロレタリアのデモクラシーであるからプロレタリアトクラシーと云ふ可きです。即ち全人民のクラシーでないことを自ら標榜して居るのであります。思ふに室伏君の解釋は次の點から間違つて出て來たのであらうと思ふ。

即ち社會民主主義者は言つて居る。今迄の世の中は總て奪掠者と被奪掠者との苦しい爭鬪であつた、一番初めは第一階級が總ての階級を奪掠して居つた。次で第二階級が之に代つた。然るに產業革命以來第三階級が起つて來て、是が社會に許されたる所の奪掠者になつた。而して今現に此第三階級が社會の全體を奪掠しつゝある。是がいけない。故に此第三階級の掠奪に代へるに第四階級に其權を與へて貰ひたい、第四階級は最低の階級で、其下には何の階級もない、即ち第四階級が權力を取れば奪掠したくとも奪掠するものが無いから、當然且つ自然的に奪掠が止むのである。さうするには第三階級から其の權力を奪掠するより外はない。他の方法では取れない。最もマルクスの說に隨へば、社會進化の法則上自から第四階級に其權力が移つて來ると云ひます。併ながら世界は熟柿主義者計りではありません、生の柿を樽に入れて早くうならせ度い人が澤山ある、そこで社會民主主義の運動が起るのである、つまり社會民主主義は樽柿主義であります、社會民主主義がなくても自然さうなる。唯さうなる時機を促進する爲に一つの運動が起る。其運動を名けて社會民主主義と言ふのであります。此第四階級の手に權力が與へられねば社會には其瞬間から問題はなくなるかと言うと、此奪掠と云ふのは奪掠される其下があるから行はれるのである。然るに今日第四階級が一番下で最後のもので其下に奪掠される何の階級もない、第四階級は奪掠したくとも出來ないのである。第三階級ならば下に第四階級があつて、多數の得意があるから奪掠の商賣が繁盛する。併ながら第四階級の手に權力が來れば、奪掠せられる人間があつても、奪掠すれば奪掠せられる者は自分自身のもので、自分の財產に對して泥棒は出來ない。であるから奪掠といふ

事は止む。今までの人類の歴史を惱して居つた所の奪掠と云ふものはなくなると、斯う主張するのであります。之を室伏君は手取り早く御讀みになつて、社會主義は全人類のクラシーであると早合點して居られるのではありますまいかと存じます。

日本にも社會民主主義者が若干居られまして、可成久しい以前から種々刊行物の上に於て其主張を述べて居られます。室伏君にしろ吉野博士にしろ此等のものは御覽の筈であります、尤も中にはチヤムポンの議論もありますが、先づ堺利彦、山川均、高畠素之此等諸君の今迄の御議論は――將來如何變るか分りませんが――右申した社會民主黨の立場を其儘に代表して居られますから、西洋の書物がなくとも、私の申上げたことは十分御諒解が願へると存ずるのであります。

固より社會主義者の目的とする所は社會民主主義其ものではない、私は社會民主主義と云ふのは實行上の唯一つの方法である、社會黨の本旨の目的其ものでない、目的を達する所の一つの手段であると屢々申して居ります。之に對して日本の社會主義者の或方（慥か山川均さんだつと思ひますが）は、社會民主主義が方法と云ふことは初めて福田から聞くと云ふようなことを書いて居られます。成程日本では初めてかも知れないが、世界では初めてゞない所か、一般に認められて居る所であります。否右に掲げた綱領中に其意味が述べてある。全人民が全人民を自ら治むると云ふ事を無論目的とするのである、然し乍ら此事の出來上つた瞬間はもはや社會民主主義はないのである。社會民主主義は二階へ登る梯子段のやうなもので、二階へ登る爲めには踏段は必要であるから之に依るのであるが、二階へ登つてしまへば梯子段はもうなくても宜いのである（降るときは別問題です）。此梯子段が社會民主主義であつて、社會民主主義共者は決して窮極の目的でない。一の方法手段である。私が資本家的侵略國に取りて大なる危險を意味すると屢々申上げるのは、此方法手段たる卽ち階級戰爭を企つる社會民主主義のことであります。既に目的に到達すれば階級戰爭はない、然れば危險も何もないことは言ふ迄もないことであります。唯だ途中の經過が長く續くときは、此の危險の爲めに人類が大損失を蒙ることを、私は深く恐れるのであります。卽ちそこを明にしなければならぬ。社會民主主義運動は社會主義の總てゞはなくして唯其の一方法である。而も政治上の一の方

法に外ならぬ。であるから目的を達すれば社會民主主義はなくなる。即ちプロレタリアの權力を握る社會主義に至るまでの暫行的主義である。其ソーシアル・デモクラシーは決して人類の爲めに全人類を支配せんとするのではなくして、先づ第四階級の手に權力を取らうとする其事を主義とするので、最後の達せんとする所は、同じ事であるが、其到達するに取る方法手段は違ふ。故に私がソーシアル・デモクラシーは、うそのデモクラシーであると言ふのは、決して獨斷でないとは益々明かでありませう。同じ山へ登るには東から登る者もある西から登る者もある、達する所は矢張富士山である。けれども何處から登るのも同じだ、吉田口から登つても御殿場口から登つても、頂上行くのだから同じだと言へませうか、決して同じではありません、私共は登る路も矢張一番安全な一番近い、一番正しい、一番人間らしい路を通つて頂上へ登つて行かなければならぬと主張するのであります。社會民主主義は危險があつても人が迷惑しても、藪の中でも、溝の中でも宜いからやつて行けと申すのですから、私は之をうそのデモクラシーであると言ふのであります。私は窮極に達する手段方法其ものも、亦常に必ず本當のデモクラシーに據らなければならないと主張するのであります。達する所目的は同じであつても、途中の道が本當のデモクラシーでなければならぬ。一階級の專横、一階級の凡ての他の階級に對する戰爭であつてはならぬと主張するのです。其の點が私が極力社會民主主義に反對する所以であります。

然るに河上肇君は、その社會問題研究と云ふ雜誌の第一號に私の事を書いて居る。福田は社會民主主義の思想を撲滅しろと言つて居ると一番に掲げてある。是は同君が讀者の興味を釣る手段であつたかも知れない（宮武外骨君は釣られた一人であります）。私は社會民主主義を撲滅せよなどと云ふことを言つた事はない、對抗せよと申したのです。そんな撲滅と云ふ言葉は黎明會を拵へるに就て、頑冥思想に對して初めて言つたので、其他に人の思想を撲滅せよと云ふやうな事は云つたことも書いた事もない。此方が撲滅と言へば人も撲滅と言ふ、互に思想の撲滅、思想の撲滅と言つたら物騷な事である。殊に私は社會民主主義に對しては非常に深い敬意を持つて居る者であります。敬意を持つて居りますけれども、大變な間違があると云ふ事を從來攻擊するのであります。私

はマルクスに對しては大なる一の經濟學者として深き敬意を抱いて居ります。學者としてマルクスを尊敬し、又非常に私淑して居りますが、マルクスに間違があることはドシドシ之を指摘して居る。是は學問の態度で仕方がない。であるから恐らく日本でマルクスの惡口を言ふのは一番私が多いかと存じます。併し少々高慢な話でありますが、本當にマルクスを知る一人は私であらうと私は自分でさう信じて居る。私が社會民主主義に對抗せよと申したのは、此方の本當のデモクラシーの解釋を以て推せば、他の嘘のデモクラシーも此方に變つて來る、正しい道を示し正しいデモクラシーを發揚すれば、嘘のものも自らそこに變つて來ると信ずるからであります。此の本當のデモクラシーを發揚すると云ふこと、此れが卽ち今晩の主題たる如何に改造するか、と云ふ問に對する答になるのであります。

## 四

社會民主主義者は第四階級の手に依つて世界を改造しようと考へる。私は全然さう云ふ事は出來ない、否第四階級の手に依てと云ふ事は、世界の改造を遲くする所以であると確信して居るのであります。それと同じに英吉利や亞米利加で今迄やつて居る所の、唯だ政治上の手段を眼中に置く所のデモクラシーも、亦世界の改造を大に遲くする所以であると信じて居ります。抑も人間の生活社會と云ふものは、目的を自覺する所の欲望と目的を自覺せざる所の衝動と云ふ二つから起つて來る。欲望にも色々あります、衝動にも色々ありますが、大別すれば欲望と衝動である、然るに今日の世界は衝動生活を成るたけ壓抑々々して成たけ欲望生活にし、出來るだけ欲望の生活に變へやう〳〵として居るのであります。有ゆる哲學を擧げ有ゆる政治を擧げ、有ゆる經濟學を擧げてさうしつゝある。成べく自覺せよと敎へる。成ほど自覺は美しいものである、また自覺の價値は甚だ大なるものである、併しながら吾々の行動が皆自覺の行動であつたならば、人生は興味索然たる落莫なものになつてしまふ。吾々が一擧一動に目的を立てゝ、其目的の實現と云ふ事にのみ行動する事になつたならば、人間は誠に杓子定規の味の無いものになつてしまふ。否人生の本當の發達本當の成長は目的を自覺した所の欲望行動よりも衝動

行動から起つて來る。無論唯衝動に任せると云ふきりではいけない、此衝動を善導して意識した所の目的に、何時も合致するやうにすると云ふ事は必要である。必要であるけれどもそれをする爲めに、所謂角を矯めて牛を殺してしまつて、衝動を衝動たらしめなかつたならば是れは大變です。衝動の發現が自ら人生の發展に向ふ樣、所謂心の欲する所を行つて矩を喩えずと云ふやうでなければいけない、今日の社會がいけない、今日の社會組織は大に缺陷があると云ふのは、此衝動生活を總て出來るだけ殺してしまつて、皆目的を自覺した所の欲望生活にしてしまふと云ふ力が餘りに大である。其が爲め人生が段々窮窟なつまらぬもの、感興の缺けたものになつて仕舞ふ。勞働問題も此處から起つて來る。勞働問題は賃銀を餘計にするとか時間を短くすると云ふ事のみではない。それは一つの手段に過ぎない。賃銀を成たけ餘計にする時間を成たけ短くすると云ふのは、勞働を以て單なる欲望充足の手段たらしめない、勞働が卽ち人生である、勞働の喜びが人生の喜びであると云ふ意味を發揮せしめるに必要な前提であるからである。

吾々の衝動には色々あります、獨逸の學者も色々之を分類して、第一に生存の衝動、第二に行動の衝動、第三に競爭の衝動、第四に認識を求むる所の衝動、第五に營利の衝動等と色々に分ちますけれども、經濟上の立場から申せば衝動は二つに分れる。物を造らんとする衝動、物を得んとする衝動此の二つであります。シアツフエンス・トリーブ又はショプングス・トリーブ物を造らんとする所の衝動、エルヴエルブングス・トリーブ又はベジツツ・トリーブ物を得物を所有せんとする所の衝動、此二つであります。先頃吾黎明會の同人たる木村久一君から英吉利の哲學者バートランド・ラツセルと云ふ人の書物を借りて拜見しました。それは『社會改造の原理』と云ふ本であります、此書物全體を貫いて居る所の精神は、私が豫て申して居り今も申した所の物を得んとする所の衝動、物を造らんとする所の衝動、それと殆ど同じ事を書いてある。私は非常に知己を得た事を感じて居るのであります。私は常に社會問題や勞働問題の說明に分り易く當嵌めて do 軍と have 軍と名つけて居ります。do 軍は常に what I do と言ふ者、have 軍は常に what I have と言つて居る者でありまして、私は前者を do 軍後者を have 軍と名けて居ります。俺は爲す俺は何か造り出すと云ふ事に依て生きて行くのが卽ち第四階級、勞働者階級、又吾々もさ

う文學者もさうです、藝術家もさうです。物を造り出すことをラツセル先生はクリエーチブネツス創造する事と言つて居る。是が社會の大多數であります。所が社會の一部分には自ら物を造り出さない、或は作り出してもそれには重きを置かないで、親から讓受けて持つて居る、或は自分の事業が成功して澤山の財産を持つて居る、或は土地を持つて居る、或は爵位を持つて居る、或は權力を持つて居る、或は地位を持つて居る、兎に角物を持つて居ると云ふ事に依て社會に跋扈して居る者が是がhave軍である。政治上に於ても此have軍とdo軍が常に對抗して居る。經濟上に於ても最も著しく對抗して居る。而して國際間に於ても矢張對抗して居る。專ら新たに物を造り出す所の國として國を立てゝ居るものもある、反對に過去に造出した大なる富を持つて居つて、世界に横行して居る國もある。例へば日本の如きは前者に屬して居る、持つて居る物は甚だ少い國が貧しい、今現に造りつゝあるもの又た將來造らんとする所に、日本の國本が置いてあると言つて宜い。日本は富を以て跋扈しよう横行しよう侵略しようと思つても出來ない、卽ち資本侵略主義を行はふと思つても到底出來ない。所が英吉利の如き亞米利加の如き又佛蘭西の如きは過去に造り出した富が非常にある、之を禁じようと思つても、自から持つて居るものを以て世界を侵略する事になる。英米は卽ち其れである。佛國は澤山富を持つて居るが、所謂ランチエール（仕舞ふた屋）の國民で、之を貯金とし之を貸金とし之を不動産として僅かに利息をとつて、つましくやつて安心して居ります。國際間の資本的侵略も、國内に於ける資本的侵略も同じ事である。畢竟物を持つて居ると云ふ事が、物を造り出さんとする事に勝たんとするのが今日世界の大勢である。私が世界を改造しなければならぬと云ふのは、此根本を變へなければならぬと認めるからである、卽ち世界を再び元に返す、否元より進んで之をクリエーチブ・ウオルドにしなければならぬ創造的世界にする。所有の社會、所有の經濟、所有の政治を成たけ縮少し、創造の社會、創造の經濟、創造の政治をウント擴張しなければ、人類の本當の幸福は得られないと確信するのであります。

## 五

是が如何に改造するかと云ふ事に對する御答。即ち私の社會改造の原理であります。デモクラシーが本當か嘘かと云ふも、詰り此改造の原理の遂行の上に必要なる手段でありますれば之を正當とし、さうでないものは吾々は之を排斥せんとするのであります。政治上のデモクラシーも此の目的を達する上に害をなせば、それは排斥しなければならぬ。私は社會政策の上に於て生存權と云ふ事を以て議論の出發點とすることを主張して、既に二十年近くに及んで居りますが、近來は大分御蔭を以て流行つて來ました。例へば安部磯雄君も近來は米田庄太郎君も頻に生存權と云ふ事を仰有る。之に對して田中萃一郎君等は罵倒して居られる。又は之と對立して勞働權、勞働全收權と云ふ私の熟語も矢張其儘採用して居られる、全收權是は收と云ふ字であるが、米田君は報酬の酬の字を用ひて全酬權と云つて居られる、收と酬の違ひ位で、私の拵へた文字まで使用して下さる事は私は甚だ喜んで居ります。併し私は生存權と云ふ事を主張するのは、是は無論第一歩と認めて居るのである。今日は法令改善の第一歩と云ふ穗積博士の御講演がありましたが、私は生存權の認承を以て社會改善の第一歩として主張するので、それで止まつてしまふと云ふのでは決してない。今日左右田博士も居られますが、博士は私の生存權を批評せられて、之を以て文化價値と認める事は間違である、是から始めるのだ、と云ふ大變綿密な論文を御出しになつて居りますが、私は初めからさう云ふ考で生存權の認承を第一歩とするので、先づ第一に社會に生れる者は先づ生くべき權利を持つて居る。生きて居る者は生かして呉れろ、どうでも生かして呉れろと社會に向つて要求する所の權利があるものと認めなければならぬ、そこに立たなければ何事も始まらぬ、社會政策に基礎が缺けて居ると云ふのが私の主張である。それで終ると云ふ意味では毛頭ないのであります。但し文化價値と云ふ字を同博士から拜借したのは慥かに私の淺學の致す所、今日此機會を以て謹んで博士に返却しまして、爾後は用ゐないことに致します。

然らば終りは何であるか、此生存を樂しむと云ふ事である。生存を樂しむ、ラスキンの言葉を以て言へば、ジョーイ・フォア・エヴァー、永久の樂しみ。人生を一つのジョーイとする事であります。有ゆる政治上の生活、有ゆる經濟上の生活、有ゆる社會上の生活を人生のジョーイとして樂しむ事は吾々の目的である。所が今日の人生はジョーイでない段

々人生を苦痛にする計りであります。であるからいけないのである。人生を樂しみとすると云ふ事は、今まで物を澤山持つて居なければ出來ないと解釋して居る。昔の支那の言葉に恒產無き者は恒心無し。倉廩滿ちて榮辱を知る。成程是は眞理です、眞理ですけれ共、併ながら眞理が却て虛僞よりも害をなす事がある。此恒產無き者は恒心無し、倉廩滿ちて榮辱を知ると云ふ言葉は、眞理であると同時に大に人生に害を爲した言葉であると考へる。今迄貴方がたも誠に良い格言と思つて居られたでありませう。けれ共、共は御爲ごかしで、是は東洋のみならず西洋でもさうであります。併ながら早い時代に文明に達した國は、ポゼスト・クラス物を所持して居る階級を社會維持の大黑柱として居つたので、其時代の教訓であります、恒の產無き者即ち何かしら物を持つて居なければ本當の樂しみがない、恒の志がない、倉廩滿ちなければ榮辱を知る事は出來ない、其日〳〵の生活に困つて居つて何の榮辱かあらん、今日實際の事實は誠にさうです。何故事實はさうであるか、世の中がポゼツスト・ウオルド、所有の世の中になつて居るからである。殊に產業革命以來の世界と云ふものは、總てのものを皆貨幣に引直して考へる。貨幣經濟、營利經濟の世の中である。貨幣で積つた利益を收得すると云ふ事が、有ゆる經濟的活動の標的になつて居る。であるから貨幣の價値を以て言ひ現はされる所の結果がなければ成功でない。如何に人が努力しても其結果が貨幣價値となつて現はれなければ、是は失敗であると斯う言ふ。例へば會社を設立して一箇年營業して資本が缺損したと云へば是は確に失敗と言ふ。之に反して配當が二割五分或は昨年のやうに六割十割と云へば是は大成功だと言ふ。奚んぞ知らん、其所謂成功の中には人生を害する事が行はれて居る事があり、又は其の所謂失敗したと云ふ中には、貨幣の價値に見積つては缺損であるけれども、人生の價値に向つて大に寄與したことがイクラもあります。併ながら今日の經濟觀はそれを問はない、今日は貨幣價値の世の中であるから、貨幣の增減を以て總てのものを判斷する。經濟上に於ては其が最も的確な標準たり得るのであります。大體に於てそれは大に宜しいに相違ないが、吾々の人生觀、世界觀其ものが、悉く斯く貨幣價値化してしまつたから甚だ困るのであります。

今日の修身訓、學校で教へて居る普通の倫理學に於て何を教へるかと云ふと、勤儉をし

ろ、貯蓄をしろ身を節しろ、又家を興し父母を顯はさなければいかない、斯う云つて教へるが、其總ての動機は皆貨幣價値に積られなければ殆ど判斷が出來ない。浪費が惡いと云ふのは、物を浪費する事が惡いのである可きであるのにさうは言はない、金を浪費する事が惡い、金錢をさう使つてはいけない、成るたけ節儉しろと言ひます。小學校の子供に向つて貯金帳に切手を貼らせる、餘計貼つた者は感心だと言つて褒められる、乍併こんな間違つた事はない。貯金をするのは何故良いかと言うと、自分が何か造り出した物を濫りに使つてしまはないで、後の爲に之を蓄へて置く、それが貯金帳へ殘るのならそれは誠に宜しい。けれども子供は何も造り出さないで、貯金をするのには親に御小遣を貰つて來て、それをベタ〳〵と貼るのであります。親は其日に食ふにも困る、衣類にも困つて居るが、子供が、學校へ行て貯金帳が他の子に負けては困る。他家の子供は暮しが好いが爲に幾らでも貼れるが、自分の家は日傭取りで五十錢か六十錢しか取つて來ない、本來ならば一錢もやれないのであるが、學校へ行つて子供が可愛さうだから、母親は食ふ物も食はずに貼らせてしまふ。貯金を爲した爲め却て人生を害して居る。然るに學校の先生は之を褒める、日本の學校道德學校倫理は之を褒めるのです。實に馬鹿な事です。又若い青年が世の中へ出で成功した或は失敗したと云ふ時に、何と言ふかと云ふと、學校を出てから先づ三井物產會社の社員になつて月給が幾ら取れる、配當が好くなつた之を褒める。或は學校出身者にも隨分近來成金が出ましたが、教へた青年諸君が何百萬圓又は何千萬圓の成金になつた。先生よりも偉い者だと言ふ。他の人が汽車に乘つても決して新聞にも書いて呉れないが、此等の成金青年が一寸汽車に乘ると直ぐ誰々が何處へ行つたと書いて居る。實際其人が偉い人であつてもそれを言ふのではなくして、唯金を儲けたから彼は偉い、其人自身が金を儲けたならばまだ宜いが、親の金で學校を卒業して親が其中に歿くなられて、其の財產を相續したから金持だ偉いと言ふ、甚しきは妻君がゆもじに包んで持參した金があるから偉いと云ふ。尤も醜業婦で何萬圓持つて居る偉いと云ふ社會ですから、終身的醜業男でも金があれば偉いと崇めるのは、論理一貫とは云へませう。斯くの如く總て皆貨幣の價値を以て人を偉い偉くないと見る。それは世の中に於て偉い偉くないと見るのは何でもないと言ふが、斯う見るから總て子供を教育する上に於て、

青年を教へる上に於て、それから外れた事は出來ない。矢張學校を出たら相當に人に負けないやうに月給を取れるやうになつて呉れなければ、是は失敗したと考へる。どうしても考へざるを得ない事になります。青年がさう望む親がさう望むから、總ての人が抑も人生の出發の初めに於て、貨幣價値を澤山獲得するやうにしなければならぬと極めてかゝります。それを自分で造り出さなくとも持つてさへ居れば宜い、卽ち持つて居るものゝ、ポゼツスして居る金額が、社會生存の根柢になつて居る、是が今日の社會であります。

個人に對してさうであるのみならず、多數の人、團體の行動に對しても矢張さうである。總てのものが皆さう云ふ風になつて居ります。今日普通選擧と云ふ事が唱へられますが、私は此前も申した通り、普通選擧は何でもないと考へて居ります。唯以上の意味に於て、持つて居るもの、財產上の制限を撤廢すると云ふことは、實に結構な事であります。今までの選擧權と云ふものは、何か物を持つて居らなければ之を與へない、此制限を撤廢して物を持つて居る居ないは選擧權の有無に拘はらない。卽ち所有の有無或は多寡と云ふ事と、政治權の行使と云ふ事を分離すると云ふ事に於て、普通選擧は非常な意味を持つて居る、非常な進步であると考へます。乍併唯選擧權だけに於て、所有の有無と云ふ事と政治權の行使と云ふ事とを引離すのみで、其から先は依然として居るならばそれは何にもならない。否學校の教育を受けた者或は兵役を卒へた者には、選擧權を與へると云ふ事は、成程道理の上に於いて正しいやうでありますけれども、矢張精神的に所有、或は何か持つて居る者は選擧權をやらうと云ふ思想であります。幾らか宜くはなつて居るけれども、矢張依然として持つて居る物を本位としてゞなければ、物事が考へられないと云ふ淺墓な心理を現して居る。人間として生れ、國民であれば政治に參與すべきものであると云ふのでなければ普通選擧は意味を成さない。財產を持つて居る居ないで其制限をするのは宜くない。けれども教育の有る無し知識の有る無しで制限をするのも、矢張同じく宜くない。それならば全然無制限にすべきかと言ふと、私はさうは考へない。私は其人が物を造るか造らないかと云ふ事に依て區別すべしと主張するのであります。卽ち普通言ふ所の普通選擧は悉く感服しない、何故感服しないかと云ふと、勞働者として、或は精神的勞働者として、或は企業者として、或は資本主として、或は地主として色々な經濟

的職分を盡して、兎に角社會の表に立つて何ものかを造り出しつゝある人と、社會に何ものをも造り出さないで唯己が持つて居る者、先祖傳來親から貰つた所のものを持つて手を拱いて食つて居る、手を拱いて食つて居るならばまだ害がないが、自動車を乘廻して人を引倒して遊んで食つて居ると云ふ有害無用な人々に、選擧權を與ふるのは嘘でありません。社會に何物をも創造しない何ものをもクリエートしない、社會に一の貢獻する所なき者に、物を創造する者と同じ權利を與へなければならぬと云ふ事は、是は可笑しな話である。是こそ制限して宜い。日本では幾らか其の意味の制限がある。即ち華族には衆議院議員の被選擧權がない、是は大變結構である。此制限を撤廢しろなどと云ふ議論も出て居るやうでありますが、是はずるい。何もしないで選擧に干與しようと云ふのは間違つて居る。尤も華族さんの中でも大變働く人があるそれは實に敬服すべき人も隨分ありますが、さうでない人が又澤山ある、他の階級より比較的多いのである。さう云ふものが粒々辛苦して居る生産者、又は廣義に於て何物かを造りつゝある藝術家、文學家、操觚家、學者と同じ權力を與へて呉れと云ふのは蟲が善過ぎる、若しそれが欲しければ華族である事をやめるか、又は何か實際世の中の爲めになるものを造り出す生産者、創造者たる資格を以て要求するが宜い、華族たる資格を以て之を要求するのは甚だ間違つた話である。だから普通選擧の擴張は唯それ丈けが善いと云ふのではない、若し之を改善するならば、願くば此の法を逆にする、今はポゼツション――所有と云ふ事に餘り重きを置き過ぎた。是からは所有と云ふ事を全然無視せよとは言はぬけれども、物をクリエートする、創造する造り出すものに、寧ろ重きを置くと云ふ事にしなければ、人生を充實し文化を發展す可き社會改造と云ふ事にはならないと思ひます。

吾々が歴史的に受取つて居る所の今日の生活に於て、何が最も創造的の生活であるか、最もクリエーチブな生活であるかと言へば無論結婚生活である。人間が造り出される、是れ位創造的なものはない、而して其最も創造的なものが最も清い最も樂しみの多かるべき筈のものである。即ち最高のクリエーションは最大のジョーイと結付いてあるべきである。然れども實際は必ずしもさうなつて居ないのは、社會が惡いのである。今日の社會に於ては、醜業プロスチチユーションといふ事が、有ゆる形の社會の惡事の代表者

である。プロスチチユートする者は惡人でも何でもない、プロスチチユートする人にはプロスチチユートしない人よりも善人もある。社會の制度として人生の中で人生を造る爲めの行爲である。其のクリエーションは最も大なる樂しみ、最も大なる道德と一致しなければならぬ筈のものがさう云ふ事が一切ない。尤も醜業者でも子供を生む者もあるけれ共、其は非常に迷惑とする所である、目的でない。クリエーションの爲めに有るべきものがクリエーションを最も嫌つて最も避ける。又最も重大な樂しみジョーイとして、是れ以上なものが最も嫌惡の念を惹起さす結合である。さうして何の爲めに斯の如き人間の最高なる所の生活の方面がさう惡用せられるかと云ふと、それは金が得たい爲めである。プロスチチユーションと云ふ字は身を犧牲として横へると云ふことです、卽ち金の代りに犧牲となつて身を横へる、身を横へる事が目的ではない金を得たい爲めに身を横へる。神から與へられた人間が持つて居る所の最高の仕事を、金を得たい爲めに最も下等な仕事にしてしまふ。是れ以上の悲む可きことはない。所謂財婚も同一種類に屬します。所が是れと殆ど相違のない關係に陷りつゝあるのが現在の勞働である。

それで勞働問題が起る。勞働は結婚生活に續いで、殆どそれに匹敵する程のクリエーチブな生活の衝動の實現であつて、さうして又最も大なる樂しみの之に結付いて居る筈である。又結付いて居つた。人間の衝動の中で何が一番强く人間の行動を司配するかと云ふと、俺が斯う云ふものを造り得たいと云ふ衝動である。藝術家が藝術品を此處に造り出した、學者が著述を此處に完成した、と云ふことは子供が木屑を集めて家を一つ建てた、女の子が紙を持つて折鶴一つ拵へたと云ふのと同じに、人間の樂みの最も淸い最も高い最も大なる者である。聖書に『世に人の生るゝ之に優る悅なし』とあります。西洋の諺に『人間は神の作るものゝうち最高の產物である』と申しますが、實は『人間は人間の作るものゝ中最高の產物である』のです。それに續いでは人間の生活に役立ち、人生を發展するに役立つべきものが、そこに造出されると云ふ事が最も大なる樂しみを與へる。生活品の生產、藝術の創造、學問の研究、其造り出す事には非常な苦痛が伴ふでありませう、幾日も〳〵夜も殆ど寢ない位又食事も殆どしない、所謂寢食を忘れて其仕事に從事する、それは苦痛です。苦痛でありますが出來上つたときの樂みに較べれば、其苦しみは何で

もない。昔の名工が刀一振打つには齋戒沐浴して世の中と全く絶つて、非常な精神的の生活をして一振の刀を拵らへ出す。側から見ると實にどうも苦しい、吾々はアヽ云ふ事をしたくないと思ふけれども、當人から見れば何を以ても替へ難い、王侯の樂しみを以てするも之に替へる事が出來ない。藝術家の藝術に於ける、文學者の著作に於ける、學者の研究に於ける皆同じである。世に有と有ゆる人間が此創造の衝動を最も自由に發揮するのが、是が此世の天國で、是が本當の人生、本當のジョーイ・フォア・エヴアーである。社會の各員が子供に至るまで年寄に至るまで不具癈疾の者に至るまで、何ものをか其天分に應じ其境遇に應じて、日々に時々刻々に何ものかを造り出しつゝあり得ると云ふやうな社會の組織が一番宜い組織である。然るに今日の社會は其正反對で、社會の大多數をして造らざらしめんとして居る、造つても人が造れないやうにしようとして居る仕組である。其が所謂惡い意味に於ける――總ての意味でないが、惡い意味に於ける所の資本主義の缺點である。是が今日の賃銀勞働、雇傭生產制度の大缺點であります。

今日の勞働と云ふものは一の樂しみもない、否勞働の特色は苦しみである。ベーンソル・エギザーション（苦しい力作）と云ふのが今日の勞働である。日本語の勞働でも英語のレーボアでも獨逸語のアルバイトでも昔は其仕事をする爲め、物を造り出す爲の苦しみを指して申したのです。之を假に名ければクリエーチブ・ベーン創造の苦しみとも云ふ可きもので、恰も婦人が子を產む時の苦しみの如きものである。聖書に『女子を產む時苦しむ、既に子を產めば其悅之に優るものなし、何となれば人此世に生れたればなり』と云ふことがありますが、誠に其通りであります。人が生れたと云ふ事に依て分娩の苦しみは十分に償ふて餘りあるのであります。英語のレーボアと云ふ字は分娩と云ふ意味もあります、勞働と云ふ意味もあります、今日は專ら勞働の意味に用ゐて居つて、而も苦しい力作と云ふことになつて仕舞つて居ります、此は單に言葉の上の轉化たるに止まらないのであります。昔の勞働は非常に苦しいが其結果が現れる。此處に刀が一つ出來る、花瓶が出來る、自分の製作品には自分の魂を籠めたものが出來るから、其悅びが前の苦しみを償つて十分に餘がある、所が今日の勞働はさうでない、勞働それ自らは苦しみでないのが幾らもある。何時間か一定の仕事に從事する、人間は無爲には暮すことは出來な

い。監獄に於て獨房に居るのが一番苦しい、何も爲ないのが苦しい。コレは人間には行動の衝動があるからであります。何かするのは苦しみでない。然るに今日の勞働が苦痛であるのは勞働其事が目的でなくして、其勞働は他人の爲にする勞働であるからである。殊に勞働者自身に一のイニシエーチヴ（創意）を許されず、創意は全く雇主のみにあつて、勞働者は唯だ服從的に他人の創意したものを執行するに過ぎないから、勞働が苦痛となるのであります。勞働者は資本主に雇はれて勞働をする、出來上つた物は自分の物でない、造りつゝある瞬間、少しづつ完成する瞬間資本主の懷が肥える。出來上つた物是が自分の物であると言つて現實に見る事が殆ど出來ない。多くは大なる生產行程の一部分々々をやつて居るのであるから、昔の工業家や藝術家のやうに幾日か苦しんだけれども、茲に立派なものが出來上つたと云ふ其出來た時の悅びは、今の職工には全く與へられて居らぬ。軍艦が出來て此中何萬分の一此大きな軍艦を建造するに多少貢獻をした嬉しいと云ふ念もありませうけれ共、藝術家が初めから終り迄一つの物を作つて出來上つたと云ふ喜びに比べれば非常な相違がある。是は一には生產が段々大規模になつて來るので已むを得ない、又た分業が發達して來ればどうしてもさうなる事は已むを得ないが、今日の仕組は其已むを得ない程度より遙に超えて、勞働者と其勞働の產物との關係を全く引放してしまつて居る。殊に今日の生產の進步と云ふものは、所謂分業が益々發達しなければ能率が昂まらない、分業が發達すればする程勞働者と勞働の結果が益々遠くなつて、自分々々が毎日働いた結果がどうなつてしまつたか、てんで知らない者が多くなつてしまふから、其仕事に何等の趣味何等の樂しみがなくなる。唯日々同じ事を繰返して居る。而も繰返して居つても、其日に創造の樂しみがあれば一時間働けば一時間働いた樂しみがあるけれども、勞働其事が目的で勞働して居るのでない、賃銀を貰ひたいから勞働するので、毎日働いて居るのは一月後に何圓何十錢の賃銀が貰へるからで、勞働其事には何の樂しみもない。是れ今日の勞働が非常に苦しい所以である。今日の勞働が一つのプロスチチューションである所以である。其人自身の樂しみとなり得る勞働と云ふものが、唯金錢の一定の額何圓何十錢と云ふだけに意味がある、其だけが結果である。無論是だけに對して樂しみはあります。月の末に賃銀の支拂を受ける、月給を貰ひます

れば、俺も斯うやつて一箇月無事缺勤なくして勤めただけに、三十五圓の月給を貰つたと云ふのは聊か樂しみであるけれ共、樂しいと思ふ次の瞬間は苦しみになる。諸拂を濟せれば殘る所は三十錢もないと云ふ事になる。何となれば、金と云ふものは使ふ爲に得るのであります。さうして今日の勞働者の生活は取つた金を殘し得ると云ふ餘裕は殆どない、否それで足らない。我物だと云ふのはほんの一時か半時です。吾々も經驗がありますが、月給として貰つた時は大分あるやうであるけれども、もう學校から家に歸る間には何分か減る、辨當代を取れる、會費の割前を差引れる。翌日になれば又減る。其から月末になれば益々減るから、我物と云ふ感じは誠に瞬間的なものである。それが今日の總ての勞働の有樣で、貨幣價値が人間の働きの價値として萬事こゝに掛つて居ると云ふ事は、人間生活の樂しみ、人生のジョーイと云ふものゝ大部分を打破してしまつて居ります。今日の賃銀制度と云ふものは、人間の經濟歷史の上に於て彼の奴隷制度を除いては、最惡なる否奴隷制度と殆ど同じ位な惡い制度である。後にも先にも此樣な惡い制度はない。成程封建時代には百姓を壓迫し商工者を壓迫しました、併乍ら其時分には百姓に於ても工業家に於ても商人に於ても、創造の樂しみと云ふ者は幾分かあつたが、創造の樂しみも何もないのは、奴隷制度とさうして今日の賃銀制度時代である。今日の賃銀勞働制度の事を賃銀奴隷制度『ローン・スクラーフェライ』と或學者は名づける。誠に其通りで、而して勞働問題は是から起るのであります。勞働問題は必しも仕事が辛いから起るのではない、勞働問題は單に口腹の問題ではない。人生の樂みジョーイがないから勞働問題が起るのである。であるから勞働問題の解決には賃銀を餘計にしてやつたら宜からう、時間を短くしてやつたら宜からう、溫情主義で懷柔したら宜からう、或は何或は何と言つて、兎に角勞働者の頭を撫でるやうにしたら能く行くであらうとか、或は此頃內務省の何とか云ふ人が言つて居るやうに、資本と勞働の利害が縱斷的に一致するものであると、云ふことを證明したら宜からう抔と云ふ愚論が行はれて居ります。所が一致しないに決つて居るものを一致すると證明する事は出來ない、東から出る太陽が西から出ると證明しようと言ふのと同じ位な愚である。資本と勞働は今日の制度に於て一致すべき者ではない、今日の仕組に於て一致すべきものではない。今日の仕組に於てそれが當り前であ

る、對抗すべきものである。唯對抗する爲に不都合を來さないやうに、社會の秩序を紊さないやうに力を盡さなければならぬ。是は溫情主義とか言つて御爲ごかしで彌縫しても終には分つてしまふ。然らば眞に一致せしめるにはどうするか、是れ卽ち改造の必要なる所以、改造の目的とする所であります。

## 六

改造には前回に申し上げた樣に、先づ吾々の前に横はる岩を取除けなければならぬ。其には先づ第一に生存權の保障認承と云ふ事を第一として、吾々の生存をジョーイたらしめるに障碍たるものを取去らなければならぬ。それは何であるかと言ふと、勞働と其結果とを引離すことをやめる、言葉を換へて言へば、ボゼツションと云ふ力が馬鹿に强く、物を造るクリエーションと云ふ力を押へる、人間の創造的衝動を全く殺して居る所の今の組織を改めることが必要である。デモクラシーでもさうである。私の解釋する眞正のデモクラシーとは、詰り社會を成し國を成して居る以上は、社會を成し國を成して居る所の全員が其國の發達、繁榮を以て直ちに自分の悅びとするようにすることであります。國のジョーイは卽ち國民各自のジョーイであると云ふやうにすると云ふ事である。日本が戰爭に强くて大變に勝つた、其勝つたと云ふ喜びは日本を構成して居る所の吾々日本國民が一同勝利したと云ふ事になれば、其勝つたと云ふ事が大なる意味を爲す。日本が負けると云ふ事は日本人全體の負けと皆悲しむのである。然るに日本が外國へ兵を出すことが日本國民個々の意志でないならば、たとへ勝つてもそれは國民一般のジョーイとはならない。そのやうな戰は最も惡い戰である。卽ち此の度の戰爭に日本が入つて獨逸に對して戰爭した事は、私は始めから反對して居る。日本人は本氣で此戰爭に力を入れない。日露戰爭の時は國の興廢が此一擧に在りと思ふから、例へば一里進んでも日本人全體が一里進んだと思ひ、一つの城を取つても日本人全體が取つたと思ひ、皆萬歲萬歲で國旗を出して大に喜んだ。國の勝つたと云ふ事は國民全體の勝つと云ふ事で、何物を以つても代へる事が出來ない。戰爭中の國民生活は苦しみであつても、日本國民全體は大勝利を得たと云ふ悅びがあるから、奉天に大勝利を得た旅順に大勝利を得たと云

つて破目を外して騒ぐことが出來たのである。然るに此度膠州灣を取つても一向さう悅びもしなかつた、旗を出すにも已むを得ず出したが雨が降つて來れば引込めてしまふ。殊に西伯利に出兵したのは左樣で、兵隊に對して恤兵品をやるに國民が冷淡であると云ふけれども、冷淡な譯である。恤兵品をやると云つても國民の生命を意義あらしめる爲めに必要であるから出すのである。今度西伯利へ出兵したのは國民の生命に意義も何もないから、之に熱心出來ないのは當り前の話である。それを政治家が幾ら煽動しても其煽動には國民は應じないのであります。又普通選擧權であります。普通選擧が宜しいと云ふのは、吾々が參政權を有する爲めに、此苦しい人間生活にジョーイを得れば意義があるが、唯之を取りさへすれば宜いと云ふのは、國民生活の上から如何にも意義がない。生活の充實、人生の悅びと云ふ事が合體して始めて本當の政治である。唯政治が民本主義だけを標準にしてやると云つても、民が一向愉悅しなければ民本主義にはならない。夫よりは專制政治でも民を悅服する名君の下に、或は名政治家の下に立つた方が樂しい。

先達も或朝鮮の學生が言つて居る、日本に合併せられて吾々の生活が如何に善くなつても、吾々は非常に腐敗した朝鮮の獨立國民である方が宜いと　是が本當の叫びであらうと思ふ、朝鮮が日本になつたからさう云ふやうになつた、元の朝鮮人はさう云ふことは感じなかつた。如何にその國の政治が惡くても、他の國に司配されるよりも自分の國である方が宜い。日本人は日本は自分のものである、英吉利人は英吉利は自分のものであると云ふことが、卽ち『我が物と思へば輕し傘の雪』で、如何なる苦しみがあつても此苦しみを十分に償ふところの樂しみがある。自分のものならばどんなに苦しんでも、決して人間の生命を傷けない。反對に極く輕微な仕事でも自分のものでないと、樂しみがない厭である苦しみである。同じ書物でも學校の教科書となれば厭になる。前には愛讀して居つた書物でも教科書になると厭になるものである。同じ驅出しても唯走るのなら樂しいけれども、人の用事で手紙を持つて行くのは厭だ。況んや人を乘せて車を輓いて驅出すのは苦しい。如何に驅ける事が好きでも賃錢を貰つて車を輓くのは厭である。短艇を漕ぐのは樂しいけれども、竹屋の渡で年百年中船頭をやつて居るのは、側から見れば風流に見えるか知れないが本人は苦しいに違ひない。總て人間の行動は自分のもの

にすれば樂しい。物が造出されゝば更に樂みは多くなる、是がデモクラシーであつて、吉野博士の言れたやうに、私が經濟上のデモクラシー、インダストリアル・デモクラシーが本當のデモクラシーであると云ふのもそれである。何となれば、今日の政治でも社會でも法律でも何でも、ジョーイと云ふ事に重きを置いて居らぬ、所有の衝動のみに重きを置いて居る、本當の生命の充實の本義に背いて少しも樂しい衝動のない生活にして居る、否な悉く欲望づくめにして衝動を殺して居る。之を活かすには生活に於ける創造、卽ち勞働と云ふ事を今の賃銀奴隷制度から解放して、之を人生の樂しみとするやうにしなければならぬ。是れが本當の解放であります。此解放此改造は今英吉利や亞米利加に於て盛んに唱へられて居る『コントロール・オブ・インダストリー』（產業の共同管理）と云ふ事によつて行はれんとしつゝあるのであります。此事は何れ後日黎明會講演會に於て少し詳しく御話を申上げませう。今日は唯だ改造に就ての大體論を緒言として申上げて御免を蒙つて置きます。

＝大正八年四月黎明會講演同五月同講演集第三輯掲載＝

## 四　英國の金輸出禁止令

私の今日申上げることは、前回までに申上げましたことゝは違ひまして、英吉利の經濟狀態、就中其貨幣制度が戰爭の初以來私が屢々公言致して居つた如き其眞相を、此頃になつて果然暴露したことを御話して、英國の財力の偉大なるに眼の眩んで居た人々の誤謬を立證したいと思ふのであります。私は開戰の初めに當りまして、獨逸佛蘭西露西亞竝に墺太利が兌換制度を直ちに停止したことに就いて屢々公に意見を述べたことがあります。從來戰爭に當つて兌換制度を停止した例は幾らもあるのである、否な殆んど全部戰爭の時に於て、兌換制度停止といふことが行はれたのであります。併しながら其の停止が戰爭の始まると共に行はれたといふ例は、これ亦殆んど無いと申しても可いのである。大抵は戰爭の半ばになつて兌換を停止したのである。其の最も著名なる例は、前々

世紀の終りに當りて、英吉利が佛蘭西と戰爭した時がそれである、これが最も大なる兌換停止の例であります。これが爲めに英吉利に於きましては、經濟生活の上に非常な影響を受けたのである、卽ち物價の騰貴――異常の騰貴を見たのであります。然るに當時の英吉利に於ては、この兌換制度の停止と物價の騰貴との關係に就いて種々の議論が鬪はされたのであります。此の度の戰爭に就いても、我が國は勿論英吉利に於ても又獨逸に於てさへも、兌換制度の制限若くは停止と物價騰貴との關係に就いて、必ずしも識者の意見は一致して居りませぬ。殊に我が國に於きましては、政府に於ては民間の大多數の意見と違つた考を以て今日まで繼續して居るのであります。併しながら利害の關係の無い第三者の地位にあるものからいふと、此の二つの間には餘程密接なる關係があるといふことは大多數の意見であります。英吉利に於ても同じことであります。然るに前々世紀――十八世紀の終りの英吉利の兌換停止に就いては、此れ程の意見の一致は無くして甚だ區々なる意見が行はれて居つたのであります。政府は此の問題をどう取扱ふかといふことに就いて、何も判然たる主義も方針も無かつたのであります。

時に甚だ偉い人が現はれて來て、兌換制度を停止して不換紙幣を行つた爲め、而も其の不換紙幣の額が甚だ多いが爲めに、今日のやうに金の價が高く、而して一般の物價も非常に高いのであるといふことを、最も有力に唱へ出した人が一人あります。其人は一八〇九年今より百十年前當時倫敦で發行して居つたモーニング・クロニクル新聞に、前後三回に亘つて非常に雄大なる論文を揭げて之を論じたのであります。此の人はリカルドと申します。此の人は經濟學の三大家――アダム・スミス竝にマルサスと此の人――の一人として今でも崇められて居ります。殊に今日の經濟學の理論を完成した人として認められて居る。また今日の社會主義の理論、殊にマルクスの說の出發點は此のリカルドの說にあるのです。併し一八〇九年に於けるリカルドは、まだ左樣の大家ではなく、否な經濟問題の議論は一度も公に試みたことなく、此の新聞に出した議論が世に公にした始めてのものであります。リカルドは是れまで株式引取引所の仲買であつて、非常に仲買の商賣に成功して財產を作つた人であります。彼は事業の才もあつたものと見えて非常に成功した。さて財產が出來て見ると、最早金溜にのみ屈託するを足れりとせずして、



F. VI, 69.

聊か社會の問題に著眼して見ると、當時英吉利に於て兌換制度を停止したといふことが、有らゆる社會上、經濟上困難の源であるといふことを彼は認めました。彼は戰爭當時に此の道理を見出したから、國の爲め之を默視することが出來ないで、椽大の筆を揮つて新聞紙上三回に亘る大論文を草しました。これ以來彼は經濟論者、經濟學者として段々世に認められるやうになつて、遂に經濟學三大家の一人となつたのであります。

リカルドの議論は、兌換制度の停止の爲めに今日金の價も高く、隨つて一般物價も異常に騰貴するといふことが起つて居るので、幾ら外のことをしても駄目である。これは兌換制度の回復といふことをしなければならぬといふ趣意であります。之に對して最も有力な反對をした人は當時有數の財政家である所のボーサンケーと云ふ人であつた。其の間に論戰が繰返されました。併しながら此の論戰にはリカルドの說が段々勝利を占めて、英吉利に於ける財政、經濟、金融政策といふものは、今日に至るまで――今日に於ては殊更戰爭が始まつてからは形式上であるけれども――リカルドの說を嚴重に守つて居つたのであります。卽ち英吉利は其銀行制度、貨幣制度、金融制度を極めて狹い意味に解釋して居る、極めて嚴格に解釋して、其の解釋に基いて財政上の計劃を立て、少しも之を動かさなかつたのであります。卽ち一八四四年に出來た所の英蘭銀行條例といふものがあります。これは時の宰相のピールが制定したのであるから、一名それをピール條例ともいつて居ります。これには屢々攻擊が起つて居るけれども、併しながら英吉利一八四四年の銀行條令といふものを嚴重に守つて居るのであります。恰も一八四六年の自由貿易政策に對して色々の議論があるにも拘はらず、戰爭の始まるまではそれを嚴重に守つて、英吉利の二大財政々策を代表して居たのであります。

この一八四四年の銀行條例の精神は何かといふと、英蘭銀行が發行する所の兌換券といふものは、出來るだけ正貨の準備を充實して置く、正貨の準備の不足といふことを最も嚴重に取締つて居る所の制度であるのであります。我が日本の兌換制度は此の主義を取つて居るのではありませぬ、我が國のはこれより遙に自由な遙に融通のつく制度を採つて居ります。卽ちそれは獨逸の採つて居る所の制度を日本が眞似たのであります。この制度が良いか惡いかといふことは今日お話する積りではありませぬ。兎に角英吉

利はさうであります。即ち戰爭の始まるまで英吉利が採用した所の金融貨幣財政々策の根柢は、今より百年前に英佛大戰爭に苦めた所の苦がい經驗に鑑みて、寧ろ羹に懲りて膾を吹く底の嚴重なる堅固なる所の方針に基くものであつたのであります。

英吉利が兌換制度を十八世紀の終りに停止したのは、決して戰爭が始まると同時に行つたのでなくして、戰爭が始まつた後、戰半ばになつて行つたものであつた。然るに此の度の戰爭に於きましては獨逸佛蘭西露西亞、墺太利等の諸國にては、戰爭が始まると同時に兌換制度を停止したのでありますが獨逸に於ては豫ねゝ準備してあつたものと見えて、之に關する法律を直ぐに出しました。續いて佛蘭西も眞似たのだらうといつても宜い、或は豫て準備したものでもありませう、同樣の手段に出でました。兎に角その間には僅かの時日しか無いのであります。故に此度の戰爭は、今までの何れの戰爭とも違つて、少くとも歐羅巴大陸に就て申せば紙の戰爭であります。今までの戰爭は半ば金若くは銀を以て、半ば紙を以て戰はれた戰爭であるが、此度の戰爭は敵味方とも英吉利を除くの外は總て紙を以て戰爭したのであります。英吉利には金がある。兌換の準備が充實して居る、故に決して獨逸に負けないといふことは、英吉利と雖も金を投げたのではなく、たゞ紙丸を投げたのである、獨逸の方へ紙丸を投げて戰をして居つたのであります。この事實は戰爭に金は要らない、戰爭に現金は要らないものであるといふことを證明したのであります。

不斷我が日本を始めとして、世界の金貨若くは銀貨を本位とする國にあつては、その本位貨幣の信用を維持する爲めに、非常に高い價を拂つて正貨の吸收に勉めて居つたのであります。平生の生活の爲めに金が要り銀が要るのではありませぬ。我が日本は御承知の通り、金貨本位の國であるけれども、これだけの人がお集りになつて居る中に、誰も金貨一片を持つても居なければ家に歸つてもありますまい、けれども我々は金貨本位の國として、不換紙幣の國ではないといつて誇つて居ります。即ち金貨、銀貨は流通の爲めに必要といふのでなく、又戰爭の爲めにも必要であるのでないといふことは此の度の戰爭に當つて歐羅巴諸國が總て金貨を流通しないといふことで分る。貨幣の本來の用途は流通といふことであるが、然るに金貨も銀貨も本位貨としては全然要らないのでありま

す。然らば何が爲めに要るかといふと、これは仕舞つて置く爲めに要るのであります。中央銀行或は其の外紙幣を發行する銀行の庫の中に準備として萬一に備へる爲めに要るのであります。貨幣といふものは流通する爲めの物である、仕舞つて置いては貨幣たる用を爲さない。然るに本位貨たるところの金貨は、流通する爲に少しも要らないで、唯だ仕舞つて置く爲めに要するのである。その仕舞つて置くのは何の爲か、永久仕舞つて置くならば無くても同じことであるが、何時か一度取出して使ふ時があるから仕舞つて置くことが意味を爲すのであります。山本農商務大臣であつたか、前內閣の肝商退治政策に關して議會で質問された時に、これは寶刀の如きものである、暫く之を鞘に納めて置くと答へられました。けれども寶刀を鞘に納めて置くのは、必要のある時に拔いて使ふことがあるからである。若し單に鞘に納めたきりであるならば、中身がすつかり錆びて仕舞つて、寶刀を仕舞つて置くのではなく、錆刀を仕舞つて置くことになる。何時か取出して使ふ時があるので、その仕舞つて置くことが意味をなすのであります。此處が大に肝要であります。金貨を仕舞つて置くのは、何時か之を使ふ時があるから必要であるのである。その使ふ時はいつであるか。——此の度の大戰爭で歐洲諸國が非常に軍費を使つたに拘はらず、金貨は使はなかつた、卽ち戰爭に金貨は使はぬでも濟むその爲めに不便はあつたけれども、兎に角濟むといふことは最も的確に證明されました。此の度の大戰爭は色々の教訓を與へましたが、その內に金貨は戰爭に對して何も要らないといふことを、最も有力に我々に教へて呉れたのであります。然らば仕舞つて置く金貨は何時必要であるかといふと、戰爭が濟んだ後の話である、平和を克復した其曉の話であります。戰爭中は兌換制度を停止しても、若し不換紙幣を非常に多く發しなければ大した差支はない。併しながら戰爭の濟んだ後でも、長く兌換停止をして置くといふことはこれはいけない、出來るだけ迅速に舊の兌換制に復して、健全なる狀態に回らなければならぬ、それに就いては金貨が必要であるから之を仕舞つて置くのであります。

獨逸、佛蘭西、露西亞に於きましては、戰爭が始まると同時に兌換制度を停止しました。殊に獨逸は其の中でも一番早くやつたのであります。これは不斷その必要を十分認めて居つたからであります。金貨を段々使ひ減らして、手元が手薄になつて心細くなつて

から兌換制度を停止したのでは、戰爭が濟んだ後で兌換制度を回復する時に困る。どうせ今ありたけの金貨を使つた所で大戰爭が出來ないことは分つて居る。英吉利の兌換制度も何時か之を停止する時があるに相違ない。それなら初から停止した方が宜い。例へば今一商店が破綻する、總ての借金に對して不十分な有金を提供するよりも、先づ支拂を停止して其の間に整理をすれば、いざ再び店を開けるといふ時に、仕舞つて置いた金が役に立つ。最初之に手を着けて仕舞へば、その時にどうすることも出來ない。どうせ何時か明白に兌換停止をすることが分つて居るならば、初めからした方が宜いといふので、獨逸ではいきなり兌換を停止したのであります。これは私は非常に賢い非常に巧妙な方法であるといふことを初めから認めて、多くの機會に於て屢々之を申して置いたのであります。今日に至つて其の私の申したことが能く確められたのであります。

處が之に反して英吉利に於きましては、兌換制度を停止しなかつた。戰爭中少しも停止しなかつた、依然として戰爭前の兌換制度を其の儘存して居つたのであります。そうして英吉利は大に誇つて曰く、獨逸が幾ら何といはうが佛蘭西が何といはうが、金の延棒が山程あるといはうが、我英吉利を見よ、この大戰爭を決心して從事したに拘はらず、兌換制度に少しも手を付けない。英吉利は天下の金融の中心である、干戈の戰には負けるかも知れぬが、財政上の戰には決して負けない、この財政上の英吉利はどうしても敗けるものでないといふことを英吉利人は常に誇つて、政治家も誇れば銀行家も誇り學者も……皆誇つて居つた。而して日本に於ては優秀なる我々の同學、或は先輩、或は後輩に至るまで、皆擧つて英吉利の爲めに讃美歌を唱へて、一言の非難批評を加へるものも無かつた。その中にも最も有力なるものは、我々の最も尊敬する堀江歸一君の戰時經濟論であります。これは慶應義塾から出版されて居るが、英吉利の經濟制度に對する讃美歌であります。處が獨り堀江君に限らず大抵の人は同論者であります。上田貞次郎君の如きも亦同樣でありました。同論でないものは一人位でありました、私一人喋べつて居る、他の者は默つて居る。私一人さういふことは無い、それは嘘である、一時の話で忽ち馬脚を現はすといふことをいつて居りました。而して今日私は果然英國は其眞相を暴露せりと申上げるのであります。

戰爭中英吉利の兌換制度は成程形式的には停止しない、少しも手を付けなかつたけれども、戰爭が始まると間もなく、所謂モラトリウムと云ふ支拂停止命令を政府から出して、民間の債務者にお前達は借金を暫時返さなくても宜いといふことを命じた。つまりそれは英吉利の金貨を外國に取去られることを防ぐ爲めにしたのであります。英吉利の有つて居る債權は莫大であるが、同時に債務も亦莫大であります。そこで金を借りて居るものは暫時返さなくて宜い、貸した金はどん〳〵早く取立てるといふことになつた。これは各國に振出した手形に對して若し英吉利の中央市場がその請求に應じてどしどし正貨を支拂ふことになると英吉利の金貨は忽ち手薄になつて甚だ困難であるから、拂はなくても宜いといふことを命令したのであります。ところが各國は皆な英吉利の眞似をした、我邦は眞似をしなかつた、大抵なことは眞似をしたのでありますが、これだけは必要が無かつたのでやりませぬ。日本を除いた外の國は、何等の必要も無い所の南亞米利加の小さい國まで眞似をしました、尤もそれは一年許り後れてのことであるけれども、兎に角眞似をした。獨逸の方はどうしたかといふと獨逸の方では之に對して對抗的に支拂禁止をやりました、獨逸は事實支拂が出來なかつたのであります。英國は兌換を停止しませんけれども、支拂停止といふことは事實兌換制度の停止に近いのであります。然るに英吉利の支拂停止といふことは後に罷めになつたけれども、事實上殆んど變りが無い。即ち英吉利に於ては金を持出すことは事實上許さない、日本は事實上債權を有つて居るけれども、金を取出すことが出來ない。取出しても英吉利以外に之を持去ることが出來ない。これは日本許りでなく總ての國がさうで事實上金の輸出を許さなかつたのであります。即ち事實上英吉利は兌換停止と殆んど變らなかつた。否それに附け加へて、英吉利は戰爭中に兌換券を多く發行しました、これは事實上の不換紙幣であります而して其の數が非常に多い。私は英吉利の富は天下に冠たるものである、富は充實して居るが實は危ない、經濟上英吉利が危ないといふことを再三公に申述べました。當時私がそんなことを申しますと、イヤ英吉利嫌ひの氣違ひだとか云はれましたが、今日はそれが的確に認められることになりました。兎に角戰爭中は此の如くであつたのであります。

さて休戰となりましたに付いて、私は英吉利も流石に現時の金融狀態を出來得るだけ改善し、事實上兌換制度を回復するであらう、世界金融の中心たる實を擧げるであらうと希望して居りました。英吉利が世界金融の中心であるといふことは英吉利が金の自由市場であつて、幾らでも買ふことが出來、又英吉利に向つて幾らでも之を賣ることが出來る、金を自由に取ることも出來れば又遣ることも出來る、世界中の金は皆な英吉利に集つて來るからである。世界の年々の金の產出の六七割は、實に英國の領土內に產出することも忘れてはなりません、假りに英吉利が金の世界市場でないとしたならば、最早英吉利は世界金融の中心たる所の事實は無くなつて仕舞ふ。であるから英吉利は自衞上からいつても、出來得るだけ早く其の金融を當り前の狀態に回復することを努めるだらうと思つて居つたのであるが、昨年十一月休戰の成立してより先月に至るまで、一向さういふ樣子が無い、金が英國から出ることは依然として事實上禁ぜられてあつた、一片も出ない樣にしてずつと來たのである。然るに遂に本月の一日――一九一九年四月一日になつて、英吉利は法律を以て金の輸出を全然禁止しました。獨逸が一九一四年八月に於て斷行した所のことを、英吉利は五年後の今日に至つて、而も戰爭が濟んで國際聯盟が平和會議の議に附せられ、段々極まつて來ようといふ最中になつてやつたのであります。下司の智慧は後から附くといふが、戰爭が濟んで仕舞つてから、戰爭の初めに獨逸のやつたことを、休戰して仕舞つて講和會議の談判中にやるといふことは、下司も下司も大下司である。是から下司の智慧は後から附くと云はないで、英吉利の智慧は後から附くと云つた方が宜い。是は卽ち英吉利の固陋なる財政政策を採つた結界であります。英吉利と雖も金融狀態の改善を願つたに相違ない、政治家始め總ての人が之を希つたに相違ない。然るに兌換制度の眞の回復をやることが出來ないのみか、却つて今日になつて英吉利の經濟上の立場が非常に困難な、非常に薄弱なことを世の中に隱して今まで我慢をして世界の耳目を瞞着した結果、遂に彌縫し切れないで大襤褸を出したのであります。又英吉利嫌ひと云はれませうが確に英吉利は此の金輸出禁止令によつて大襤褸を出したのであります。

さて、英吉利の惡口はそれだけにして、此の禁止令が我が國にどういふ影響を及ぼすべ

きか、これは非常に大切なる問題であります。英吉利は無論之を勵行するに相違無いが、併しながら場合に依つて或は長く之を維持せずして、此の四月から施行する所の金輸出禁止令を解くことがあるかも知れぬ。併しさうなつても駄目である。英吉利の金融市場たる地位は非常に怪しいものとなつて居る。それがどういふことになるかといふと、英吉利の貿易政策が非常に變化して、今後は成るべく金を國外に出さないやうにする。事によると英吉利から品物を買ふことが出來なくなるかも知れぬ。今まで日本の英吉利に於ける貿易上の關係は、英吉利の物を買ふことが多かつた。英吉利から物を買つて亞米利加に物を賣つて居つた。處が英吉利は今や賣るべき物が非常に減つて來て仕舞つた。自國に於て要するものが非常に多いので、外國に賣る物が非常に減つて仕舞つた。其の處へ持つて來て英吉利は金融市場の中心たる爲めに、最も肝要なる金の自由なる輸入、輸出を止めた。出ることを止めれば入ることも大に減ります。出ることのみを止めて入ることを依然十分にすることは決して出來ないといふことは、昔時制限主義の長く行はれた時に證明されて居る、決して一方を止めて一方を止めないといふことは出來ない。

英吉利に金が豐富に入つて來ることは、佛蘭西でも獨逸でも絶對に及ぶ所でない。これは英吉利に於て金の流れが自由であるからであります。始終金が流れて居るからです。獨逸や露西亞の如きは溜池である、何時も金は停滯して居る。英吉利は溜池でない川である。であるから假令小さい川床であつても、汲めば汲む程段々流れて來て、決して盡きるといふことはありませぬ。片つ方は溜池で片つ方は川であります。處が川の水の出て行くのを止めれば、一方に入つて來ることが出來ない、出て行くから入つて來るのである。川床を高くして川の出口を塞いで仕舞へば、上流が汎濫するのみで外から水が入つて來ることは出來ない。英吉利が獨逸のやうに溜池になれば、獨逸と同じ狀態にならなくとも、今のやうな自由の市場として世界金融の中心たることは出來ない。卽ち此の一事は極めて的確に、英吉利の今まで取つて居つた所のことが、出來なくなつたことを證明して居るのであります。英吉利の財、英吉利の富の力といふことに今まで眩惑されて居つた世界のものは、皆な間違つて居つた、獨逸の軍備上の力の强いことは、世の人は皆な認めて居つた、併しながらそれよりも英吉利の富の力經濟の力といふものは、一層强いもの

のやうに皆な思つて居つたが、其の強いと思はれた經濟上の力、富の力が案外に弱つて來たことは、この一九一九年四月一日の金輸出禁止に依つて、的確に證明せられたのであります。

之に就いて實は英吉利の輿論を知りたいのでありますが、英吉利の輿論を知るべき四月一日以後の雜誌はまだ參りませぬ。只だ亞米利加の雜誌で之に就いて評論したものが昨日參りましたが、まだ十分讀む時間がありませぬ。兎に角此の如くにして、事實の上に於て前に無理をしたといふことが、今日崇りをなして醜體を暴露して來た。之に加へて亞米利加が正義人道を振り翳してやつて居ることは、全く瞞着であるといふことが殆んど總てに知られて來た。我が國の新聞を御覽になつても、殆んど總ての新聞はウヰルソンの所謂僞正義人道といふやうなことを書いて居ります。殊に憲政會の機關たる報知新聞で猛烈に書いて居ります。これは一面現內閣攻擊の爲めに書いて居るかと思はれるけれども、之を二三年前の同新聞と較べると丸で別人の如き感があります。新聞は其の日〳〵に讀むのであるから、一寸心附かないかも知れませぬが、試みに二三年前の報知を讀んで見ると全く別人の感があります。或は萬朝に於てもさうであります。否な日々新聞にしてもさうであります。當時の新聞の輿論はさうでなかつたから、隨分危なかつた。幸に今日は世論が一變したからして、私の攻擊は止めても宜い、今日英米攻擊を私は廢めても安心であります、私の主張が國民多數の輿論となつたから安心しました。けれども初めは隨分骨が折れました。亞米利加の新聞でも英吉利の新聞でも私のことを書いて、何故日本政府は福田を牢に拋り込まないのかと云つた位であります。又或大學の私の尊敬する先生も私に忠告された。私は此議論の爲め牢に投げ込まれても少しも厭はぬ覺悟ですから其忠告は斥けました。

私は何も惡意を以て英米を攻擊したのでないことが今になつて見ると分る。世論も今になつて分つたから、急に國際聯盟を脫退しろ、條約調印を拒絕すべしといふやうなことを云つて居るけれども、これは私は大反對である。日本の國論が相應の準備を以て人種差別撤廢論を主張しても、あの問題の通らないのは仕方がない。それは政治家が外交上の手段としてやるなら仕方はないが、我々國民としてそんな無理な註文を通すことは



F. VI, 70.

出來ない、又現內閣の態度が軟弱であるとか、或は講和委員が意氣地が無いと云つて政府を攻擊することも、私は大反對である、それは大間違ひである。

今日の世界の現狀では誰が行つても駄目であります、政治家などが行くから駄目なので行かない方が遙に宜かつた。人種差別撤廢問題など、あれは無理であります、强く主張したり或は伊太利の眞似をした所が、證文の出し後れで初めから間違つて居る。私は決して先見の明を誇る譯ではないけれども、正義人道の一點張りで世界は行つて居るものではない。政治家は多くは惡黨であります。外國の民主的政治家も多くは惡黨である、普通の政治家は勿論惡黨である、惡黨と惡黨とが言はゞ牽制し合つて居るから宜いのである。然るに其の惡黨を以て神である佛である、人道の神正義の佛であるといふやうな議論が頻りに唱へられて居る。若し我々がウキルソンの正義人道論を其の儘に受取つて居つたならば、今日以上に失望し今日以上に落膽したに相違ありませぬ。幸にして其處まで行かなかつたから、我々の失望はこれだけ位で濟んだのであります。

私は決して亞米利加を敵視しようとか英吉利を敵視しようと云ふのではありませぬ。否亞米利加や英吉利の良いことは充分認めて居る、獨逸よりも遙かに良いことを認めて居る。けれども國と國とが對立する時は、國各々の立場があつて、亞米利加の國際主義、人道主義が必ずしも何處にも當嵌まるものではない。日本は侵略的ではいけない、日本の侵略的でないことは事實である。併しながら國としての立場から主張するのは、これは人間が神でない限り仕方が無い、世界が神の國になつて居ない以上は仕方がない。成るべく無理をしないやうに、成るべく他國に迷惑を掛けないやうにしなければならぬけれども、向ふが勝手なことをするのに對して、何事も御無理御尤もと默視することは出來ない。矢張り日本の立場として主張する所が無ければならぬ。一足飛びに國の境界が撤廢されない以上、我々は現狀に應じてやらなければならぬ。

諸君、今後の世界は愈々益々虛僞の世界になります、殊に英吉利と亞米利加は非常に嘘をいふやうになる。殊に十九世紀に於いて世界文明の中心になつて居つた英吉利の財——經濟力といふものは、獨逸の軍備上の力よりも强いと今まで認められて居つたがさうではない。唯之れを利用して世界を侵略するに强いのであります。識者は英吉利の

前途を憂慮して、遙に獨逸よりも危いといふことをいつて居ります。少くとも今まで思つたやうに英大に富んで居ない、であるから英吉利を中心として日本の經濟政策を樹てるとか、金融政策貿易政策何でも英吉利を中心として立つて居るといふことは止めなければならぬ。政治上に於ける問題も同じことでありますが、經濟上・財政上英吉利を中心とすることを止めるといふことは、今日に取つて大急務であると信ずるのであります。日本は日本としての立場を十分に考へてかゝらねばならぬのであります。金輸出禁止の電報に接して私は愈々宿論を確めましたから、其事を一寸申上げて開會の辭を終ることに致します。

＝大正八年五月黎明會講演同六月同講演集第四輯掲載＝

# 五　虚僞のデモクラシーより眞正のデモクラシーへ

## 一

今日は私共黎明會の者が大阪毎日新聞社のお招きを受けまして大阪に參り、講演會を開きました處が、斯くの如き多數のお方がお出で下されたのは、參つた私共は勿論東京に留守をして居る所の同人に於ても、必ず深く感謝する所であらうと存じます。黎明會の趣意は御承知の事と存じますが一言申上げますれば、黎明會には三つの箇條を掲げて居るのであります。一番初めに吾々は日本の國本を學理的に闡明して、世界人文の發達に於る日本の使命を發揮する事、第二には世界の大勢に逆行する頑冥思想を撲滅する事、第三には世界の大勢に順應して國民生活の安固充實を促進する事、此の三箇條であります。

之は別に說明を申上げる迄もなく、文字の上に現はれた儘で明瞭の事と存じますが、或は若干の誤解がないと申されないのでありまして、東京に於る新聞雜誌の記事に『國本を學理的に闡明する事は些か其意を得ない、日本の國本は別に學理的に之を闡明する必要も何もないのである』といふ樣な說もあつた樣でありますが、成程日本の國本が學理的に解釋して始めて分るといふ意味であるなれば、吾々が斯の如き綱領を揭げて居るのは或は無用であるかも知れません。併し私共の趣意はソウいふのではありません。吾々が日本人であつて、而して日本の國が昔からの國本を持つて居る事はよく存じて居ります。其國本は如何に世界の形勢が變らうが、如何に世界に於ける日本の地位が變らうが、斷じて動くものでないことは何等の說明をも要しないことであります。唯吾々は此動かない所の國本に對して、更に吾々は國民としての覺悟を明かにし、又覺悟を公表する爲に多少學問に活きて居る吾々が、學理的に之を解決して、其解決した處を成るべく廣く人に知らせる樣にしたい。そして吾々の力を俟たなくても日本の國本の動かないことは明であるが、更に國本の國本たる所以を學理上から明かにしたいといふ趣意に外ならないのであります。

## 二

世間では西洋に於てデモクラシー思想が盛である事、國際聯盟によつて種々從來と違つた取極めが出來るといふ事によつて、日本の國本が動搖するのではないかといふ憂を懷く人があります。併しながら私共は如何に世界の大勢が變つても、否日本がデモクラシー趣意を取るやうになつても、日本の國本共者には何等動搖の起るものではない事を確信して居るのであります、危險思想と言ふ事をよく言ひまして――或は私共を目して危險思想と言ふ人がないではありませんが、私の考へ否私共の考へでは、危險思想なるものは殆ど日本に於いてはあるまいと思ふのであります。吾々が日本人であつて日本人として物を考へる限には、如何なる思想も日本の國本に對して危險を意味する事はないと深く信ずるのであります。よしんば吾々が社會主義を研究し若くは社會主義を奉ずるに至つても、日本人として社會主義を奉じて居る以上、日本の國體には何等の危險をも

感ずるものではないのであります。然らば其日本の國本と云ふものは何であるかと言へば、說明を要するまでもなく、吾々は君主國の民であると云ふ事を誇りとして居るものであります、世界に於て各國の誇りと言ふものがありますが、今世界に於いて最も多く誇とせられて居るものは何であるかと言ふに、其國が列國の間に處して他に立優つた所の、權力とか富とか文化とか軍備とかを有して居ると言ふ事是れであります。就中英吉利は世界に於て最も大なる領土と富と權力と海軍とを有して居る事を誇りとしつゝあるのであります。又米國は大なる富を有して居る事を誇とし、獨逸も曾ては强い陸軍を有して居る事を誇として居つたのであります。卽ち世界に於いて國が誇りとする所のものは、今日では國が何か持て居ると言ふ事、就中領土と富と權力とを持つて居ると言ふ事であり、他の國も之を認め其國民も亦之を誇としつゝあるのであります。シカモ我日本の持つて居る所の富は決して世界に誇るに足るものではない。又今日に於ける日本は世界の上に於て、或は英國が或ひは獨逸が持つて居るやうな權力を持て誇りとする事は未だ出來ない。日本の誇りとする所は其の持つて居るといふ事ではなく、寧ろ將來である。日本が現に其作りつゝある所の富、乃至日本が將來に作らんとする地位或は富である。シカモ日本は是等に對する將來の望みを持つて居る丈で、現在持つて居る所のものに就ては『日本の持て居る』と言ふ事に依て、世界に誇るに足るものは殘念ながらないのであります。

## 三

然し乍ら日本には『持つて居ない』といふ事を世界に誇るに足るものがある。夫は何であるか。先づ世界各國を通觀するに、大體侵略的と防禦的との二つに分れ、其中間の者は殆どない。卽ち自國領土、自國の富、自國の權力を更に增加すべく侵略しつゝある國と、斯くの如き侵略を防がんとするに汲々たる國と此二種類に分れます。然るに日本は向後はいざ知らず今日迄の所、世界に立つて侵略の念を抱いた事は未だ曾てない。私は日本の國本として世界に誇るべきものゝ一は侵略意思がない事である。他國に於いて見る如く、富權力を以て世界に誇り又之を利用して他國を侵略するといふ事は、或る意味に

於て幸であるかも知れぬが、或意味に於いては不幸である。日本は斯樣な事は出來ない出來得ないのである、此國本にして變らざる限りは、私は日本は世界の上に立ち日本の使命を十分發揮する事が出來るものと考へます。之に反し日本が獨逸及び英國或は當に來らんとする米國の眞似をして侵略國となり、若くは其有する富を以て、或は權力を以て誇とするに於ては――夫れを日本の國本となすに至つた時は、私は日本が世界の人文に對して貢獻すべき其の使命は、殆どなくなると考へるのであります。何となれば、左樣な事には既に先輩がある、今更新しく日本が眞似をする迄もない。タトヒ日本がやりかけて見ても、日本は殆ど何事をも出來ないと思ふのであります。故に夫れ以外に於いて世界人文の發達に對して、日本の使命を發揮する點は多々あるだらうと思ひます、否發揮せなければならないのであります。

## 四

今次の大戰爭に依つて世界は一體に行き詰つて了つた。此の世界を救ふ處の一つの力は確に二千年の永い間に亙つて非侵略國であつた處の日本に存するものと私は考へて居るのであります。然るに此世界の大勢を無視して、日本をして侵略國たらしめんとする考へを持つたものがあるやうである。此の世界の大勢を容れる事を拒み、日本として依然暗黑の日本たらしめやうと言ふ考へを持つて居るものがあるのは、今日世界の形勢に對して甚だ危險な事であります。其危險思想は頑冥な闇黑の思想である。或は國體擁護とか國體維持とか樣々なる名目、美はしい名稱を付けてあるが、其包まれて居る者は甚だ酷い頑冥な危險思想であります。只彼等は其醜い所の思想を體裁好く世人に見せんがために、名を國體擁護とか勤王とか愛國とかいつて居るに過ぎない、如何に美麗な名稱に依つて、如何に麗はしい衣を被せても、醜いものは矢張り醜い、タトヒ我々は瞞着することが出來ても世界を瞞着する事は出來ない。此の頑冥思想を以つて日本を救ふ所か、日本が世界の大勢から孤立して立つのを少しも顧みないものである。只日本のみを本位として日本は一番善い國である、他國は之れに比べる事が出來ないと言うやうな古い世界の醜い所の思想を、多數の國民が抱くやうになつたならば、是れこそ實に國を危う

するものと深く思ふのであります。

## 五

故に吾々は之を能ふ限り善導しなければならぬ。否只之を敎へるのみならず――戰爭前の世界なれば之を敎ふる丈に止めてよいが、今日大戰終了後の愈々切迫した時代に於て、左樣な頑冥思想が國中に少しでもあると言ふ事は、日本に取り危險な事であるから、吾々は力を盡して其頑冥思想を撲滅しなければならぬ。之れが私共の身分として敎育に携はつて社會に出づる機會が少いので、今度黎明會を組織し東京及大阪に於て講演會を開き、我々の思想を述べ訴へんと欲する所以であります。吾々の考へる所を以てすれば、頑冥思想を撲滅するには言論を以つてし、思想は思想を以てのみ戰ふべきもので、健全なる言論は不健全なる言論を自ら撲滅すべきものであると信じます。其外の手段を以て、或は政府の權力を以て、或は甚だしきは民間に於て互に暴力を揮つて他の思想を撲滅し、他の思想に打勝たんとするが如きは無用であり有害であります。正々堂々思想は思想を以て戰ふのみである。然るに日本には政治家も澤山あり、又社會の表面に立つて活動して居る人も澤山あるに拘はらず、世界の大勢が斯くの如く切迫しつゝあるにも拘らず、此大勢を無視して依然暗がりの頑冥思想打破に力を盡す人が少いのは甚だ遺憾であります。即ち吾々は自分の力の小なるを顧みず、黎明會を作つて此の危險思想打破に努め、國民の分を盡さんとする所以であります。

## 六

吾々は國民生活の安固充實を促進するといふ事を標榜してゐるのでありますが、私自身の考へとしては之が最も肝要であると思ひます。今日國民生活は甚しく不安を感じつゝあるあり、之は決して容易に取り去ることが出來ぬものと信ずるものであります。成程經濟界の景氣なるものは、一朝にして何等の動搖不安を感じないやうに見ゑますが、岡目八目吾々から見ればそれは一時のもので、我々は段々生活の安固を缺きつゝあると思ひます。之を救はざれば國の健全なる發達世界の健全なる發達を期することが出來

ないと考へます。故に黎明會の綱領の第三條に、國民生活の安固充實を促進すると云ふ事を標榜して居るのである。サテ此の三箇條を掲げて吾々は各々研究した所を述べて、各好む專門とする所に從つてやつて行くつもりでありまして、今日も吉野、渡邊、大島諸君等が段々と各自其得意とし研究せられた所に依つてお話があつたのであります。が、私は主として經濟學を研究して居りますから、專ら經濟上から自分の考へを述べたいと思ふのであります。

## 七

今や世界に於てデモクラシーの聲甚だ盛んである。今度の戰爭はオートクラシーに對するデモクラシーの戰爭であると申します。乍併、オートクラシーとデモクラシーの戰爭の意味は、一般に解釋せられて居るのとは大變違ふて居るやうであります。此の事は此前に大阪毎日新聞の講演會に於ても少しお話したことでありますから、今日は略して申上げませぬが、戰爭の結果が敵國獨逸墺太利の敗になつて聯合國の勝になつたために、成程オートクラシーがデモクラシーに打敗けたに相違ない。獨逸に於けるオートクラシーは確かに敗けた、シカモ全然跡を斷つ程滅びて了つたのである。けれども之に打勝つた所のデモクラシーは如何なる種類のデモクラシーであるか、我々は之を靜かに考へなければならぬ。獨逸のオートクラシーに勝つた所のデモクラシーは、之は決して眞正のデモクラシーでないといふことを考へなければならぬ。私の見る所に依れば、獨逸のオートクラシーに打勝つた所のものは二つの虛僞なるデモクラシーである。虛僞なるデモクラシーの第一は、獨逸に於ける所のソーシアル・デモクラシー是である。

## 八

此戰爭は主として獨逸に於ける人心が變化した爲に獨逸が敗けになつたのである。之を聯合軍の軍隊の力で勝つたと思ふのは大なる誤りである。聯合軍の勝利は打勝つた勝利でない、拾つた所の勝利である、佛國戰場に於て聯合軍が只拾つた迄である、恰も他人が鐵砲を打つた後から行て、マンマと獲物を拾つたやうなものである、獲るは獲つても

自分の彈丸で取つたのではない、自分の彈丸は遠く的を外れて外に飛んで行つて了つたのであるが、幸ひ他の彈丸によつて獲られたものである。然るに之を自分が打つたものとして『ナーニ俺が打つた彈丸が見事に命中して』と誇つて居るのである。聯合軍の勝利は自分の力によつて得たものでは斷じてない。然るに此勝利を恰かも自分の手によつて得たものゝ如く勝ち誇つて、獨逸を何處までも窘めやうとして居る、甚だしきは獨逸のカイゼルを道德上の罪人として裁判しようなどと蟲の好い事を言つて居る、或は左樣なことが事實となつて現はれるかも知れませぬが、事實となつても隨分蟲の好い話であります。獨逸が降參するに至つた處の第一の原因は、獨逸の國民が最早や戰を欲しなくなつた、獨逸の兵隊が最早や戰を冀はなくなつたといふ事之である。戰ひを欲しない軍隊を以てしては、獨逸が戰ふ事が出來ないのは當然である、是に於て已むを得ず降參したのである。然らば何故國民や軍隊が戰はなかつたか、夫れは獨逸國民の心が變つたからである、ドウ變つたか、獨逸國民の心が社會主義に歸したからであります。

## 九

此の戰爭が獨逸の敗に歸しオートクラシーの敗に歸したと謂はゞ、成程デモクラシーの勝利に相違ないが、其のデモクラシーは第一に獨逸のソーシアル・デモクラシーが勝つたのであつて、之は英國や米國が唱へて居る所のデモクラシーと同一のものでない。獨逸が負けた以上聯合軍が勝つたのではあるが、獨逸が先づ負けてから聯合軍が後から勝つたのである。勝負といふものは同時に起るものと思つて居つたが、獨逸が先づ敗けてそして氣が付いて見ると、聯合軍は自分が勝つたといふことを發見したのである。聯合軍が勝つたといふことゝなると其旗頭は米國である。其デモクラシーが盛んであるのはオートクラシーに勝つた爲のデモクラシーでなく、今度の戰爭のため後から急にデモクラシーとなつたのである。即ちオートクラシーに對してデモクラシーを勝たさなければならぬので戰つたのではなく、戰ひをしなければならぬから、オートクラシーに對抗すべくデモクラシーになつたのである。

## 十

英國哲學者バートランド・ラツセルの書物に、私と同じ事を言つて居る。曰く『英國や佛蘭西はデモクラシーを愛するが故に、獨逸を憎むと言つて居るが之は反對である英國や佛蘭西は、獨逸を憎む爲めにデモクラシーを愛するやうになつたのである。何となれば、戰前にデモクラシーを甚しく虐待したのは事實である。決して彼等はデモクラシー主義でなかつたが、戰爭になつて急にデモクラシーになつた。之は何故かと言へば、獨逸が憎いからであつて、獨逸がオートクラシーの國であるから、此敵にデモクラシーを引張り出したに過ぎない、獨逸が憎いからデモクラシーを愛するやうになつたのである』と。ラツセルは之を書いた爲めにタツタ一冊の書物の爲に、英國官憲に捕へられ殆ど監禁同樣の身になり、英國內地は歩いても好いが海岸地方は行けぬといふことになりました。殊に最近到着した書物を見ると、ラツセルは遂に牢屋に投ぜられたやうであります。彼れの祖父はかつて總理大臣を二回も勤めた名家の出である。ケムブリツヂ大學の先生で英國第一流の數理哲學者であります。然るに右の如き言論を公にして少しも止めない爲に、英國では遂に彼を牢に投じて了つたのであります。幸ひ日本では私を牢屋に投ずる人もなく、今日此中央公會堂に於て遠慮なく自分の主張を述べることが出來るのは何より幸福であります。今假に私が牢屋に投ぜらるゝとしても、法廷に於て私は公會堂で諸君の前に立つてお話すると同じ事を申上げるより外はない。何とならばそれは事實であるから、事實は時を隔て所を違へても少しも相違がない。唯英語か日本語かの相違あるのみであります。

## 十一

偖て獨逸を退治しなければならぬから、デモクラシーを愛する樣になつた英國も佛國も、今までは眞にデモクラシーを行つて居たのではなく、驅け出しにデモクラシーになつたのである。驅出しにしてもデモクラシー論者の殖えたことは無論幸であります。即ち怪我の功名であります。今やデモクラシーは世界の大勢になつた。日本も此大勢に

背くことが出來なくなりました。シカシ私は此のデモクラシーを英米の資本的局部的デモクラシーと申します。獨逸のは勞働者を中心とするソーシアル・デモクラシー、社會民主主義で、英米のはその反對に資本階級を中心にする政治的デモクラシーであります。シカシ虚僞のデモクラシーたるに至つては二つとも異らないと確信するのであります。何故なれば、獨逸に於ける社會民主主義ソーシアル・デモクラシーといふものは、明かに自ら標榜してゐるごとく、全人民のデモクラシーを主張するものではない。數に於ては多數であるに相違ないが、國民の全部ではない。國民の一部階級――勞働者の階級の手に權力を收めねばならぬと云ふのが社會民主主義である。即ち勞働者に天下を取らせんとするのが社會民主主義の主張であります。之が今日の社會に最も有力な代表的社會民主主義である。私が斯く申しまするに就て異論を申立てらるゝ方も若干ありますが、シカシ私は敢て之に對して辯明をしない。例へば地球が太陽の周圍を廻るといふイヤソウぢやない、太陽が地球の附近を廻るのであるといふ樣なもので、管々しく說明するのは餘りに馬鹿々々しいからであります、私は幸ひ閑人ではあるが、シカシそんな馬鹿氣た事を說明する暇は持ちませぬ。

## 十二

社會民主主義は決して國民全體のデモクラシーではない。デモとは國民全部クラシーとは之を支配するといふ意で、即ち凡ての國民が總ての事に携はるといふのでなければ眞實のデモクラシーではない。國民中の半分クラシーである。夫が社會民主主義の明かに主張する所で、恰も黎明會の主義綱領の如く其綱領に明かに書てあります。勞働階級の手に天下を取らう、勞働階級に政治權力を取り、夫から社會を改良すると云ふ事を標榜して居るのが社會民主主義である。故に眞實のデモクラシーでなく虚僞のデモクラシーであるといふ所以であります。斯の如く申上る事實が着々と之を證明して居ります。即ち第一露西亞に於てレニン及トロツキーの代表する過激派政府が社會民主主義を徹底的に實現せんとする事に依つて明かであります。露西亞の過激派、之は日本で勝手に名づけたもので露西亞では多數派といつて居る。此過激派は無政府主義でも虚

無主義でもない。又日本には此過激派をトルストイの思想を承け繼いだものであると解釋するものがあるが大變な誤りである。トルストイの思想は曾て露西亞の人心を支配して居たこともありますが、今日では支配して居ない。全く支配して居ないといつても宜しいと私は考へます。之は間違つて居るかも知れませんが、然しトルストイの如きは全く取るに足らぬ。學問上の根據も何もない一種の空想家であるに過ぎない。今日の露國過激派の主義主張はソンナ空想や根據のないものではないのである。彼等のいふことや思ふ所は間違つてゐるが一貫した條理がある。トルストイの如き空想ではない、故に聯合國が過激派退治と云つて干渉して居るにも拘らず、兎も角レニン、トロツキーが天下を取つて、今日まで何んとか彼んとかやつて居るではありませんか。而して最近に至つて聯合國も之を退治することを止め樣じやないかといつて居る位であります。日本では過激派といふものを何だか知らないで過激派退治と空力んで居るが、西伯利に兵を出して何をして居るのやら判らない。兵隊も彼地に上陸つても敵がない。之で過激派退治だといふ、西伯利に遊びに行つたつもりなれば之でもよいが、過激派を退治しやうといふならば、モウ少し過激派共者を理解しなければならぬ。そこで兵隊はあたら貴い命を譯の分らぬ戰爭に落して、進むに進まれず退くに退かれず宙ブラリになつて居ります。實に馬鹿々々しい話であります。

## 十三

過激派は誤つた思想ではあるが一貫した條理がある。夫は右申上た社會民主主義を徹底的に、最も無遠慮に實現しようといふのであります。從つて空想でも何でもない。唯急激に最も露骨に無遠慮に社會民主主義を行はうといふのであります。然し之は時間の問題である順序の問題である。直に之を行らうといつてもソウ急に出來るものではない。之が露西亞で過激派が爭つて居る所以であるが、一方斯樣な思想が日本にも入つて來はせぬかといつて心配してゐる閑人も澤山ある樣であります。一體過激派といふものは露西亞から始まつたのではなく、獨逸の社會民主主義が露西亞に入つて直に過激派となつたのである。唯之を最も純粹な形として主張したのが露西亞の過激派であ

る。目下獨逸の政權を握つて居るシヤイデマン、エベルト等も、無論露西亞の過激派と同一物ではあるが、唯其保護色を灰色にして居ると云ふだけの違ひである。だから過激派の思想は獨逸から露西亞に入つたもので、露西亞の過激思想が獨逸に傳染したなどといふ事は全くあり得べきでないのであります。元々獨逸のものである。然し獨逸の過激派は露西亞の如く露骨でない。彼のエベルト等は同じく政權を握るにしても甚だ巧妙である。又聯合軍が獨逸に對して無理な註文を持ち出しても、彼は成るべく妥協して出來るだけ讓歩して行かうといふ方針を取つて居る。だから聯合軍に於ても獨逸をして全然起つことが出來ない迄にしようといふと、彼は直に本性を現し從來の態度を捨て、全然徹底した過激派になる虞がある。之は又當然のことで、獨逸を虐めると却て聯合軍が手を燒く樣になる。近頃はだん〳〵さういふ風になつて來て居る樣であります。

## 十四

さて過激派の最も純粹に現れた所の社會民主主義といふものは、成程國民の大多數を占めて居る所のものであるが、全國民一同のデモクラシーを初から念とするものでないから之は大に危險でありますが、日本に取つては何等の危險も感じないのであります。社會民主主義が何の位に行はれても國民が如何に過激派に感染しても、日本は斷じて動かないと思ふのであります。然らば如何なる所に危險が存在するかといふと、此過激派の背後にモウ一つの虛僞のデモクラシーがある。之が過激派と相爭ふことが危險である。シカシ如何に質の違つたデモクラシーでも一緒に結着して了へば、何等の危險もないが結着するまでに大變長い時間がかゝる。或は時間が短くなるかも知れないが、ソウすると甚だ猛烈な爭ひが出來る。其爲に社會を破壞して了ふことは歷史上幾らも例があります。茲に大なる危險が存するのであります。此過激派主義、社會民主主義以外の虛僞のデモクラシーといふのは、卽ち彼の英米に於ける資本家デモクラシーである。社會で普通にデモクラシーと言つてゐるが、英米に於けるデモクラシー、卽ち第三階級の富豪により生れた此のデモクラシーは、唯政治上の問題にのみ限られてゐる。卽ち國の一番高い所の統治權を一人の手に置くべきか、多數の手に委ぬべきかに就て論じて居るの

であります。此のデモクラシーは今日重要な種類になつて居りますが、元々デモクラシーとは所謂共和政體の事であつて、中央に於ける政權を唯一人に取扱はしむることなく、全人民に參與せしめようといふのである。之が共和主義と君主主義の岐るゝ所である、孰れに決定するも其れは唯政治上の問題であります。

## 十五

第三階級は國民の重要なる部分ではありますが、此階級が政權を握つたからとて、デモクラシーが行はれたとは決していふことが出來ませぬ。之は十八世紀から十九世紀に亙り、先づ政治上の方面から社會改良の實を擧げなければならぬといふ時代には必要であつたけれ共、今日は最早政治萬能の時代ではないのである。政治機關を何遍變へて見ても、夫丈けで國民の生活に眞正の發展を望み得ない。吾々のあらゆる生活方面に於いてデモクラシーを實現させなければ、眞正の向上發展にはならないのであります。昔は政治の改良は卽ち人生の改良と略同一意味に解せられたが、今日は最早ソウではなくなりました。然るに依然政治の方面のみに重きを置き、シカモ唯だ最高權利、主權所在問題にのみ屈託して居る所の英米のデモクラシーは、實に嘘のデモクラシーである。之が行はれた所がデモクラシーが本當に行はれたとは言へない。此の政治上のデモクラシーは何を主義として居るかといふと、實は第三階級の擁護である。卽ち嘘のデモクラシーの英米に於ける形は政治的資本的デモクラシーである。資本擁護の權利を第三階級の手に持たして行かうと言ふ所のデモクラシーである。之に對抗する社會民主主義若くはボルシエヴヰキの主張する所は『權利を欲しいお前の社會政策勞働保護ソンナものに吾々は眼星を付けるのではない、其お前の手に持つて居る鍵を此方へ寄越せ』と言ふのであるから、何うしても兩立すべからざるものであります。幾ら溫情主義協調主義を主張したり縱斷的社會政策と言つても駄目であります。肝心のものをやらないで外のものをやる。例へば悴は親爺が早く隱居して家督を讓つて貰ひたいといふのに、家督はやれないが好い嫁を貰つてやる洋行もさせてやる自動車も買つてやると言つても、息子は一向喜ばない家督が欲しいのである、家督さへ讓つて貰へば洋行がしたければ勝手に

する自動車が欲しければ勝手に買ふ、嫁が欲しければお父さんに捜して貰はなくても、自分でよいのを捜すと言ふのである。是れでは親爺さんと衝突するに極つて居る。親爺は口先で胡麻化して行かうと言ふのであるが夫れは出來ない相談である。今第三階級の主張は此親爺の主張である。第四階級の息子はソンナ事に承服する譯には行かない、だから兩者の間には永久に衝突が絶えない。夫れが私は危險だと言ふのである。

## 十六

英米に於けるデモクラシーが起つて第四階級の手に權力を渡すまいとしても、又今後第四階級のデモクラシーが益々起つて、飽くまで權力を自分の手に收めやうとしても必ず危險がある。即ち英米的デモクラシーが起つても獨逸的デモクラシーが行はれても必ず危險があります。だから私は社會民主主義は危險である、夫れと同じ意味に於いて、英米の資本的デモクラシーが起ると言ふのも危險で、殊に此の二つの爭ひの間に國民が挾まれるのが危險であると言ふのであります。諸君今の世界は愈々益々此の兩者の對抗が鮮かになつて來ました。戰爭前までは、之が色々政治上の手段を講じて彌縫されてゐまして、餘程注意しない限り其衝突は表へ現れませんでしたが、此の度の戰爭に依つて世界の文明は行き詰まりになつたのだからもう隱すにも隱されない。此の兩者は到底兩立せざるものであると言ふ事が露骨になつて、世界は二つの爭ひにドン〳〵曳ずられて行くであらうといふ事が歷々と現はれて了つたのであります。

## 十七

然るに此の形勢を外にして、國體擁護、民心統一、溫情主義何だの彼だの暗闇に牛を引き出すやうな事を言つてゐるのは笑止の極みであります。そこで此の問題、此世界の形勢をドウかしなければならぬ、之に對峙する事を許さない問題であるとすれば、問題は甚だ行き詰つて居ります。そこで私は虛僞なるデモクラシーより免れる途は只一つ眞正のデモクラシーより外にないと思ふのであります。日本のみ此大勢を離れて別な事をやらうと言つても斷然出來ない、出來ないものなれば寧ろ天下世界の形勢に先ちて、日本が

眞正のデモクラシーを立てなければならない。日本は眞正のデモクラシーを世界に示すべき使命を持つ。日本は英米に於ける政治的デモクラシーでもない、或は獨露的社會民主主義でもない、どちらも日本では未だ有力ではない。殆ど全く跡もない程でありまして日本は全く白紙であります。だから之から新に眞正のデモクラシーを打ち立てるにしても割合仕事が樂である。然らば其眞正デモクラシーとは何であるかといふに、言葉に示す通り全國民のクラシーである。全國民の支配權である、唯一人、唯一階級に權力を獨占しないで、凡ての國民を網羅して之を支配者たらしめるのが、眞正のデモクラシーである。卽ち政權を第三階級にやるのでもなく第四階級にやるのでもない、或は封建時代の第二階級にしても不可ない、昔の時代の如き第一階級でも不可ない、第一第二第三第四凡の階級に政治上の權力を公平に分配して與へると言ふのが、之が眞正のデモクラシーでなる。一見して左樣なデモクラシーは世界中何れの國にもない。幾何らウヰルソンが立派なことを言つても駄目である。寧ろ英米にも之から起らうと言ふのである、此の新しい眞正のデモクラシーは今まで起らうとしても、却々起る事が出來なかつたのであります。此度の戰爭に依つて今迄のデモクラシーは嘘のものであると云ふ事を明瞭に示したので、漸く各國とも眼醒めて來たのであります。今度の戰爭は多くは人命を損ひ多くの資源を費した。シカモ眞正のデモクラシーの萌芽を生ぜしめたと言ふのは大なる功績であります。而して我々は眞正なるデモクラシー思潮の急先鋒となつて力を盡したいのであります。

## 十八

今や世界は此大戰に依つて眞正デモクラシーに移らんとし、戰爭の爲に行き詰つた暗黑時代の闇さは少しづつ消えて、微かな光が其處に差し込みつゝあるのであります。我々は之れを夜明けがた黎明のころといふのであります。之れから日が如何に照つて來るか昇る太陽は如何なるものであるか、卽ち眞正デモクラシーを聞けば分ると思ふ。而して何故に斯樣に虛僞のデモクラシーが勢力を得て居るか、何故に眞正デモクラシーの起るのが斯くの如く遲れたか。先づ第一に何故我々は永く眞正デモクラシーに進むの

を妨げられてゐたかと云ふと、之は十六世紀から始まつて居ります。私は近世文明が非常に片寄つた方面に長足の進歩し、他の一面を不當に壓迫して了つたと思つて居ります。如何なる方面に不當の壓迫をしたかと言ひますと、人間をして人の生活を充實せしむる所の力の中、只其一つのみを過當に大事にし、之を保護し奬勵して來たからであります。人間を動かして生活上活動せしむる力は欲望と衝動であります。此の衝動に二つの種類がある。一つは物を得んとする衝動、之を所有の衝動と言ふのであります。モウ一つは物を造り出さんとする衝動、即ち創造の衝動であります。

## 十九

然るに十六世紀以來今日までの文明は、悉く所有の衝動のみを尊重した所の文明であります。創造の衝動は悉く之れを打ち亡ぼし悉く押つ付けたのであります。最も有力な例を引けば今日の國家が夫れである。今日の國家は生命財産の安固殊に財産權の保護をすると言ふ事を一大任務とする、今日の國家は文化國家、法治國家と云ふが只名前丈けで、事實は財産國家、所有國家であります。所有を維持し之を保護するに、凡ゆる力を注いで居るのが今日の國家であります。諸君、日本の民法――之は獨逸の民法を燒き直したものであるから、獨逸の民法を引例しても同じ事である――獨逸の民法は凡て一千何百條かでありますが、其内九百條以上は悉く所有に關する規定であります。勞働に關する箇條は僅々二十二三箇條しかない、日本の民法には勞働に關する規定はたつた九箇條しかない。一千何箇條かの内九箇條、千分の九しかない譯で九百九十餘條と言ものは悉く所有に關する法律であります。だから物を所有して居ない人は民法には殆ど關係がない、何物をも持て居ない者は民法に依つて何等保護を受る事がない、九百何十條！是れ悉く物を持つて居る者を保護する規定である。物を持つて居ない己れの手で働き己の家族の生活を維持する人々は、一千何箇條の中僅に九箇條の保護しか受けない。シカモ皆不利益な規定たるに過ぎないのであります。でありますから私は常に申します、昔支那で『井を掘りて飲み田を耕して食ふ帝王我に於て何かあらん』と言ふ事がありますが、今日の文明人は『井を掘て飲み田を耕して食ふ民法我に於て何かあらん』と云ふであり



F. VI, 72.

ませう。勞働契約に關する條項の一番多い、而して一番新しいのは瑞西の民法でありま す。之は勞働契約に關する規定が餘程密に出來て居る、其でも財產保護の條項に比ぶれ ば三分の一にも四分の一にも足らない。之は不思議ではない、何となれば、今日の國家の 仕組が財產本位、所有本位であるからであります。何か物を持て居らないと手の付け樣 もありません。選擧權を與ふるにも一定の財產、一定の稅を納めるものにしかやらない。 馬鹿でも稅を納めて居れば選擧權がある、賢くても所有權のない者は選擧權がない。稅 金も納めぬ財產も所有せぬ者に選擧權を與ふると言ふと『黃白の爲に選擧を腐敗せし める、だから知識階級に選擧權を與ふるのは時期尙早だ』と言つて居る。シカモ資產階 級に就て一圓や五十錢で投票を買收せられて居る馬鹿者があるではないか、之を普通選 擧にした所が矢張同じ惡い事が行はれる丈けで、別段惡い事が多くなる譯ではない。

## 二十

又玆に著しいのは教育であります。我々の子供を育てる所の方針は所有教育の方針 である。子供を教育する方針は彼をして財產を得せしめやうと言ふに外ならない。小 學校で習ふ事は子供をして他日所有を得せしめん準備だと考へて居る。其反對に自分 の創造力を出す事を許さない、規則づくめに教える結果先生の言ふより外は習はない、教 はつた外には融通が利かない。嘗て英國の新聞記者が佛國の文部大臣を訪ねた時に、文 部大臣は懷から時計を出して今は何時何十分である、全國の小學校では今何々の教授中 である、此の次の何時何十分は何枚目を一齊に習ふ筈である、佛國では全國一分の相違も なく同じ時間に同じ課程を教授するのであると、大變其規則正しいのを自慢したさうで あるが、之は大間違ひである。五分過れば何枚目に移らなければならぬ其次は何と言つ た風では、教員は自分の議論も感想を抱負も入れる事が出來ないことになつて了ふ。然 るに日本の教育家は夫れを理想として、佛蘭西のやうにしたいと言ふ者さへあります。 都會では田舍の夫れに比して同じ教科書を教へるにしても重きを置く所が違はなけれ ばならぬ。然るに先生が生徒を教ふる其時の氣分は、世界の事情が變轉しやうが、戰爭中 であらうが、戰爭後であらうが同じつもりを以て教へてゐる、教ふる者は宜しく其狀況に

依て斟酌し、地方に依つて教育方針を異にしなければならぬ。然るに同じ日に同時に同じやうに教へて決して其圈外に出でないでは、全く創造と言ふ事を殺してしまふものであります。而して現今の教育家が重きを置く所は勤儉貯蓄の奬勵であります。夫は甚だ結構でありますが、造り出す力を撓ると言ふのは感心すべき事でありません、所有の慾等は奬勵しないでも、幼い間から慾が深く強くつて却つて不可ない。寧ろ教育は所有の慾を取り去り、其反對に創造力を盛んにしなければなりません。シカシ卒業すれば早速月給に有り付かねばならぬ。一生には何程の財産を拵へなければならぬといふ青年が多いのは嘆かはしい次第であります。

## 二十一

世間では馬鹿でも何でも又ドウして居つても、物を所有してさへ居れば尊重する。けれども何物も持つて居なくても世の中のためになる人はあるが、其人に對しては尊重しない。彼等は言ふ「世の爲に盡さうとしても金がなくちや盡されないから」と。シカシ何百萬圓と言ふ資産を持つて居ても、世の中に對して何の役にも立たぬ者がある。ソウいふ人に限つて却々けちん坊しわん坊である。人類のため物を作り出す人即ち勞働者、製作者、工業者、農業者、精神的技術者、文學者、學者其他無形のものでも茲から新しい社會的の創造をなす人こそ尊敬すべきではありますまいか。然るに今日では是等の人を尊敬しないから、人間の創造力は段々と萎縮してしまつた、即ち物を造り出す力が非常に壓迫された。之では社會政策に就いて色々の法規を立てゝも、富の生産が不足するは當然で、隨つて公平を期する事は出來ない。例へば米の分配にしても日本で一千萬石の米が出來ず、之を五千萬人に平等に分割しようと言ふならば腹一杯にならず、却て不平が起るやうなものである。造り出すと言ふ事をせずに分配の公平を期せやうとしても、夫れは出來ない事である。『乏しからざるを憂へず等しからざるを憂ふ』と孔子が言つて居りますが、矢張り乏しからざるを憂へなければなりませぬ。されば先づ我には富を作り出す事有形無形の富を作り出す力を十分に充實しなければならぬ。然らざれば分配の公平も何も甘く行きやう筈がない。所が今日は此の富を作り出すべき所の根本の力を非常

に不當に壓迫して居る。

## 二十二

河上博士の有名なる文學書の貧乏物語にもありますが、今日餘裕のある人々が奢侈贅澤の爲めに投じて居る金額は大したものである、そこで假りに夫等の人々が若し一切の奢侈贅澤を廢したとするなれば、是迄さう言ふ事に勞費されてゐた金は皆浮いて出で、夫れが悉く資本になるのである。夫れから又さう言ふ奢侈贅澤品を製造する事業の爲に吸收されてゐた資本も皆浮いて來る、さうなつて來れば幾何ら資本の缺乏を訴へて居る日本でも、優に諸般の事業を經營するに足る丈けの資本が出て來る筈である。獨逸が今度の戰爭に容易に屈せなかつたのも開戰以來上下擧て一切の奢侈贅澤を中止したからである。需要は本で生産は末であるから、我々が若し需要さへ中止したならば、贅澤品の生産は之に伴つて自然に中止せられ、其結果必然的に生活必需品が豐になり、貧乏も始て世の中から跡を絶つに至るであらうといふ人がありますが、タトヒ河上博士の言の如く贅澤品の生産に費す勞力資本全部が、社會有用の生産に費さるゝとしても生産は矢張り足りない、矢張り乏しきを憂へなければならぬと思ふのであります。夫に金持に贅澤を止めよと云つても決して止めるものではない。河上博士の貧乏物語は貧乏人若くは其候補者に讀まれたものであつて、金持にはあまり讀まれて居ない書物であります。だから河上君が折角骨を折つて說伏しやうと努めた其の苦心も水泡に歸する次第であります。又需要は本で生産は末であるといふ博士の所論は、其前提に於て少し無理がある、少とも贅澤品に就ては當らないかと思ふ。

## 二十三

兎に角乏しきを憂へざる爲には大に勞働して生産しなければならぬ。シカシ勞働は苦痛だから誰しも勞働したいものはない。普通勞働者以外の精神的勞働者、會社員、事務員、我々學校の先生でも餘りやりたくはない。やらなくては困るからやるのである。教育は神聖なりとか何かといふが、眞に教育を神聖なりとして携はつて居るものが幾らあ

りませうか。大多數はソンナ考へはない。若し口先ばかり左樣なことをいふ人があれば大なる僞善者である。其證據には世の景氣が段々變つて來るに伴れ、敎育界から實業界に轉ずるものが頻々としてあります何の博士彼の學者と云ふ看板を賣物にして、洋行させて呉れた母校に後足で砂をかけて成金の手代になるヒドイ人間もあります。師範學校の入學者が非常に減つたのを見ても明かであります。然し之は當然である、敎育の神聖よりも愛の神聖よりも、兎角自分及び家族の生活安固充實が最も大切と思ふが一般の人情であります。此根本的要求を無視して、有りもしない出來もしない神聖を說くは僞善である。が國民の大多數――若干の少數者を除き――は斯の如くに勞働して生活を立てゝ居るのである。いくら河上博士の說が行はれても矢張り等しからざるを憂ふ可きのみならず、乏しからざるを憂へなければならぬのであります、此憂ひを除かんためには大に創造力の發達を促し、大に生產力を增さなければならぬ。然らずんば國民生活の安固も充實も眞實に期待し得られないかと思ふのであります。而して我々人間には夫れだけの力がないかと云へば決してないのではない。人間はもと〳〵非常な創造の力があるものであります。されば從來の不當なる壓迫より此力を引出し、所有の慾から之を切り放して大に保護奬勵したならば、必ずや人間の生產力は非常に高まるものに相違ないと確信して居ります。卽ち世界の改造といふことは、此不當な壓迫から我々の創造の衝動を解放する事、所有の專制から人類を解放することから着手しなければならぬと思ふのであります。我々の黎明といふのも所有の闇黑の世界より創造の光明世界に移らんとする趣意である。私は之が眞正のデモクラシーに赴く所の第一着手であると確信するものであります。

＝大正八年五月四日大阪每日新聞主催講演會講演同八年七月黎明會講演集第五輯揭載＝

# 六　朝鮮は軍閥の私有物に非ず

朝鮮は日本の國に合併したのでありまして、今は日本の一部分になつて居るのであります。吾々が第一に朝鮮に對して知らねばならぬことは、朝鮮は日本の敵國でないと云ふことであります。成程朝鮮の獨立と云ふことを今多くの朝鮮人が叫んで居ります。日本から離れやうとするならば、それは或は日本を敵とする態度を執るかも知れませぬ。然る場合には吾々は之に對して敵對關係に立つとは已むを得ない。嘗つて或會合に於て朝鮮の方が段々朝鮮の事情を述べられて、朝鮮獨立の已むを得ざることを辯ぜられたに對して、私は獨立と云ふことを懇談的に言はれるならば、吾々も懇談的に之に對して意見を述べやう。併ながら獨立と云ふことの爲に先般あつたやうに、東京に於ける朝鮮の留學生が此青年會館に集つて、直ちに趣意書を活版に摺つて之を配つて、其最後の文句として『若し吾々の此獨立の要求にして容れられなければ、吾々は日本國に對して永久に戰を宣する』と云ふ事が書いてありました。私は此時朝鮮の方に言ふには、さう云ふ態度で藪から棒に獨立を要求して、之に對して吾々が未だ何とも返事を上げないのに、此要求にして言下に容れられなければ、直に日本に對して永久に戰を宣すると云ふのは、是は貴方がたの方から喧嘩を賣つて來るものである。宜し貴方がたの方で喧嘩を賣れば、吾々は日本人として今迄の經緯は別問題として、兎に角相談をしないで突然獨立したい、肯かなければ戰を仕向けるぞと云ふならば、我々は眞先に日本人として劍付鐵砲を持つて貴方がたに向ふがどうかと、斯う私は答へたのであります。併しながら是は惟ふに東京に於ける朝鮮留學生の方の考違ひである、甚だ愚なる甚だ拙なる所行であると、私は今に殘念に思つて居るのであります。

然るにそれに引續いて朝鮮に於て、直ちに朝鮮獨立と云ふ聲が大變に盛んになつて、僅の間に朝鮮全道に其聲が擴がるに至つたと云ふ事實は、諸君の御承知の通りであります。是は私を以て考へて見ますると云ふと、吾々にも責任がある。吾々國民には朝鮮の事情